

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008年度研究活動実績	<p>以下の各項目の2008年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。</p> <p>I 研究所の研究の到達状況</p> <p>本研究所では、現在5つの重点プロジェクト研究を中心として研究活動が組織されている。①占領期の憲法論議を中央地方のジャーナリズムの対応から読み解くことを昨年度からあらたに研究課題として設定した「近代日本史研究会」、②暴力と人間存在を研究課題とし、暴力からの人間回復の可能性を解く「暴力からの人間存在の回復研究会」(回復研)、③間文化(インターカルチャル)の視点からヨーロッパとアジアの文化の対立の経験構造を探る「間文化現象学研究会」、④社会的弱者の自立・自律を、観光を通して実現できるのかを国際比較の中で問う「貧困の文化と観光研究会」、⑤グローバル化時代の民主主義の在り方を探る「グローバル化と公共性研究会」、である。</p> <p>①は、一昨年度、それまでのプロジェクト研究の成果として『占領期の憲法論議-中央地方のジャーナリズムでの対応を中心に』を刊行し、これまで十分には体系的には取り組まれてこなかったジャーナリズムに見る憲法論議の実態を明らかにし、憲法制定史研究の上にこれまでみられない大きな成果をあげた。昨年度は引き続きこれを継続し、さらに戦前日本近代史の研究をこれとの比較において行うことによって研究は一段と深まったといえる。</p> <p>②は、大学院生を中心とした数度の研究会、さらにジャック・サンティノ(ボーリング・グリーン大、USA)、エルケ・ハーン(ベルリン・シェリング研究所、ドイツ)など海外からの研究者を招請しての3回にわたる学術講演会を開催した。また、研究会の成果の社会的な公表を目指し、本大学の「土曜講座」を企画した。「死」、「うつ」など社会において様々な形をとる「暴力」からの人間存在の回復とは、を問い大変好評であった。</p> <p>③は、エマニュエル・ド・サントベール(フランス国立科学研究センター)、マウル・カルボーネ(ミラノ大学) ジャコブ・ロゴザンス(ストラスブール大)氏を招いての「メルロ・ポンティ生誕記念・国際シンポジウム」をはじめ、「第1回・間文化現象学シンポジウム」や、若手研究者や院生の育成を目指す「第1回・間文化現象学セミナー」などを開催した。本年度は「言語」の問題を中心としつつ、「身体」「知覚」「他者」「芸術」など多彩な研究テーマにおいて現象学的な課題が議論された。こうした多様な研究活動の上で、コンハーゲン大など海外8大学との国際研究交流が定期化し、本研究会は来年度から「間文化現象学センター」として2009年度から発足することとなった。日本での現象学研究を深める拠点として大いに期待されるものである。</p> <p>④もまた、「社会的弱者の観光を通じての自立と自律」をテーマに海外から4名の研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催するとともに(報告書・全204ページとして発行、またPDF版あり)、数回にわたって「ツーリズム公開セミナー」を開催し、多くの研究者や院生の参加をえた。その成果はまた、『グローバル化とアジアの観光』(藤巻正己・江口信清編、ナカニシヤ書店、2009年4月)として刊行され、ツーリズムという視点から社会的弱者の自立・自律を考えていくという独自の研究として注目を集めている。</p>

<p>⑤は、国際学術交流（本大学、ランカスター大、韓国・中央大学、中国・暨南大学が中心）を引き続き深めながら、新自由主義的なグローバル化がもたらす経済、社会、国家への影響とその民主的な再編のあり方を、国際的学術交流を深めながら研究するものであるが、本年度は中国の暨南大学で4大学参加のもとで国際シンポジウムが開催された。他方で、これまでの研究の成果を『グローバル化の現代 - 現状と課題』（全2巻、御茶ノ水書房）にまとめ、人文研叢書18巻、19巻として刊行した。</p>
<p>II 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>②～⑤の研究プロジェクトは、すでに上記にみたように、いずれも海外研究者や海外研究機関との幅広く、強いネットワークのもとで研究が進められていることを特徴としている。本年度も海外からの研究者を招聘しての国際シンポジウムが開催（②～④）され、こうしたシンポジウムはすでに常態化しているし、また海外での国際シンポジウムへの研究プロジェクトとしての参加・共同開催（⑤）も始まっている。このように研究の国際交流が意識的に追及され、またその継続的な定例化も目指され、現に継続化しつつある。それらは本研究所の国際的評価にも大きく貢献するものとなっている。</p>
<p>III 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>本研究所は、引き続いて上記の研究プロジェクトの研究活動を中心として研究を推進していくこととする。それぞれのプロジェクトは、国内外に研究者のネットワークをもち、それが継続したものとなっており、そうした学術交流を通して研究が深まっている。本研究所がそうした学術交流のネットワークのハブとしての役割を果たせることが望ましい。</p> <p>さらに、各研究プロジェクトが若手研究者や院生の参加を意識的に追及し、その育成を目指していることも明記すべき重要な点であり、こうした研究会の在り方が今後さらに追及されていくことになるだろうし、それが本研究所の活発な活動にもつながることになる。</p>
<p>IV 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>①については、その研究会の成果の一部が、『立命館大学人文科学研究所紀要』（93号）に掲載された。長島修、梶居佳広、張智慧、真杉侑里論文である。参照されたい。</p> <p>③については、従来の研究を間文化現象学的に展開した論文が各研究会メンバーによって発表されている。本学の研究者学術情報一覧を参照されたい。</p> <p>④については、「社会的弱者の自立と観光のグローバリゼーションに関する地域間比較研究」（科学研究費補助金・報告書）、「社会的弱者の観光を通じての自立と自律」（国際シンポジウム・報告書）、ならびに『グローバル化とアジアの観光』（藤巻正己・江口信清編、ナカニシヤ書店、2009年4月）が刊行されている。また、『立命館大学人文科学研究所紀要』（93号）で特集が組まれている。</p>

	<p>⑤については、御茶ノ水書房から、第一巻『グローバル化の現代 - 現状と課題、グローバル化と国家の変容』（中島茂樹・中谷義和編）、第二巻『グローバル化の現代 - 現状と課題、グローバル化とリージョナリズム』（篠田武司・西口清勝・松下洸編）と題され、それぞれ人文研叢書 18 巻、19 巻として刊行された。また、国際シンポジウムでの報告が、それぞれ『立命館大学人文科学研究所紀要』92 号、<i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities, Vol.1</i> に特集として掲載された。</p> <p>学外研究費については、「近代日本史研究会」が、あらたに本年度より 3 年間科学研究費補助金を得、また「貧困の文化と観光研究会」は、今年度が科学研究費補助金の最終年度となる。「間文化現象研究会」は 2008 年度より 5 年間の補助金を得ている。</p>
項 目	内 容
2009 年度研究計画	<p>以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>I 2009 年度の研究計画について</p> <p>①については、これまでの中央地方ジャーナリズムに見る占領期の憲法論議の成果の上に、戦後の憲法論議がいつ活発になったかを確定しつつ、特に、西日本の地方紙・ブロック紙での憲法論議に焦点を合わせて資料収集、ならびに検討を進める予定である。</p> <p>②については、人間存在の回復を看護やケアにも焦点を合わせ、国内外の研究交流を引き続き行っていく予定である。特に、昨年度招聘した海外研究との研究ネットワークの構築に力を注ぐ予定である。</p> <p>③については、本研究所に附置する「間文化現象学研究センター」としてあらたに研究の展開を図ることとなった。世界に現象学に関する研究センターが設置されているにもかかわらず、これまで日本で本格的なこうした研究拠点はなかった。本研究センターは日本での間文化現象学に関する研究の中心となることを目指すものである。引き続き、海外の研究者や研究機関との学術交流を強め、こうした課題に応じていくこととなる。研究センター開設を記念する講演会、ヨーロッパを代表する研究者の国際シンポジウムが、11 月、ならびに来年の 1~2 月に計画されている。また、研究会メンバーの海外での報告も予定されている。</p> <p>④については、引き続き科学研究費補助金のテーマ「社会的弱者の自立と観光のグローバリゼーションに関する地域間比較研究」を中心にし、研究会活動を行っていく予定である。本研究のテーマは新しく、また奥が深い。まだまだ研究としては緒に就いたばかりであり、研究の充実を国際的な学術交流を図りながら展開していくことになる。そして、その成果を『社会的弱者の自立と観光のグローバリゼーション（仮題）』（江口信清・藤巻正己編、明石書房）として刊行を予定している。</p> <p>⑤については、2008 年度の研究成果の出版を受け、あらたに新自由主義的グローバル化がもたらした社会変化に焦点をあて、研究を深めながら次の成果公表に向け準備を進めることを予定している。また、4 大学による本年度の国際シンポジウムは韓国の中央大学が開催することとなっており、そのための準備を</p>

	<p>共同で進めるとともに、本研究会からも数名の報告・参加を予定している。</p> <p>なお、2008年度に本研究所の日本語紀要、『立命館大学人文科学研究所紀要』92号、93号が刊行された。また、あらたに、本大学の研究を国際的に発信する英文紀要 <i>Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities</i>, のVの第1巻が発刊された。後者は、本研究所の研究プロジェクトが、現在、国際的な学術交流を積極的に展開しようとしていることを考えると、その刊行の意義は極めて大きい。本年度も、広く、本大学の研究者の国際的な研究発信の場として積極的な投稿を呼び掛け、継続的に刊行を進めていきたい。</p>
	<p>II 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>各研究プロジェクトは、引き続き定例的に学内で研究会を組織していくとともに、国際的な学術交流・シンポジウムを上記のように予定している(②、③、④、⑤)。さらに、④については、海外の研究者を含め、4月、5月の土曜講座で特集を組み広く市民への研究成果の公表を予定している。なお、他の研究プロジェクトの社会発信も検討していきたい。</p>
	<p>III 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>それぞれの研究プロジェクトの2008年度の総括と2009年度の研究計画によると、各プロジェクトの研究意欲は高く、その成果が引き続き期待しうる。しかし、課題もある。研究プロジェクトは何よりもその研究の継続性が要求される。各研究プロジェクトにおいては、単発の国際シンポジウムを華々しく行うというのではなく、内外の研究者、研究機関との深い信頼関係のなかで継続的な学術交流を目指すことが大きな流れとなっている。そうした学術交流こそ、本大学の研究水準を上げるために現在必要なことである。しかし、継続性にある研究プロジェクトへの支援体制を本研究所が十分に行いうる体制になっているかといえはまだまだ十分ではない。本研究所、ならびに本大学の研究政策において検討されるべき課題の一つである。</p> <p>また、若手研究者、院生の研究会メンバーへの参加をさらに今後も進めることとしたい。</p>
	<p>IV 学外研究費の申請予定等について</p> <p>②と⑤が、科学研究費補助金に申請したが、残念ながら採択に至らなかった。引き続き、これまでの研究活動の上で本年度もまた申請することを予定している。④もまた、本年度が補助金の最終年度になるため、同じく新たに申請を予定している。</p>

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008年度研究活動実績	<p>以下の各項目の2007年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。</p> <p>① 研究所の研究の到達状況 「金融・法・税務研究センター」は上記「研究所」ではないが、07年度4月から東京キャンパスにおいて、活発な研究・研修活動を行ってきた。 何よりも、当センターの活動の特色としては、金融・税務分野の専門家に対する研修講座を開講し、非常にレベルの高い専門家が受講生として参加し、08年度も高い評価を維持しつつ、さらなる展開を目指した。 具体的には、センター長の大垣が従来同様「金融と法」講座を開講し、約40名の受講生に対して、高度な専門知識の研修を行った。この講座は大学院の正規科目として科目等履修の対象にもされている。 次に、三木が担当している税法講座は08年度も50名の税理士・弁護士等の専門家が参加した。第一線の全国の実務家が講師陣として多数協力し、講義の場では双方向の鋭い意見交換がなされ、プロ同士の研修の場という新しい講座スタイルが確立し、立命方式の特色になっている。 さらに『知的財産法実務講座』も開講した。東京という激戦区の中で参加者は予定者数に充たなかったが、弁護士・弁理士・特許庁関係者という専門家であった。</p> <p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について 社会的連携としては、センター長の大垣が07年度に立ち上げた「移住・住みかえ支援機構」が順調に展開し始め、マスコミの注目も集めつつある。 国際交流としては、税務においてソウル市立大学との提携がなされ、今年はソウル市立大学のキャンパスで合同研究会が行われた。ソウル市立大学は韓国における法科大学院の開設許可も受けた。</p> <p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について センターの東京での運営は、東京中心に活動しているセンター長の大垣が担当した。税法講座や講座打ち合わせのために、三木がほぼ毎週末東京に出て、若手研究員は月一の会合に出るといった状況であった。</p> <p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について 活動資金は大垣が担当する講座、税法講座、知財の講座がいずれも有料で08年度も1000万円以上の収入を確保している。</p>

項 目	内 容
2009年度研究計画	以下の各項目の2008年度の活動実績を踏まえながら2009年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>① 2009年度の研究計画について</p> <p>今年度も、「金融と法」講座を継続する。大学院の開講科目として位置づける。</p> <p>税務講座も第3期を開講し、受講生の定員50名を確保し、東京の講座として定着してきたものと思われる。</p> <p>センター内部の研究会である「信託と法」の研究会も継続する。</p> <p>08年度の『知的財産法実務講座』については、東京では無料で行っている講座が多いことを考慮し、有料のこの講座は09年度からは閉じることにし、新たな企画を検討したい。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>「移住・住みかえ支援機構」がいよいよ本格的に動き出し、日本中での展開が可能になりつつある。三木はソウル市立大学との提携をさらに強固にし、さらに国際連帯税推進NGOの責任者として議員との連携を深めている。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>東京キャンパスの運営体制について、全学で何も手当ができていないことが非常に大きな問題となってきている。大垣・三木の職務内容がますます多様になり、大学業務に充てられる時間が少なくなっていることも問題となっている。</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>9月に京都で、ソウル市立大学院との共同研究が行われる。その際補助を申請する予定。場合によっては、センター予算で処理することも検討したい。</p>

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008年度研究活動実績	以下の各項目の2008年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>(1)基礎研究プロジェクトの推進、(2)「東アジア専門家会議」、(3)平和研究の展開、(4)コリア研究センターの活動支援、(5)国際研究のネットワーク形成と各学部・研究科および平和ミュージアムとの連携等を内容とする「新たな展開に向けての基盤づくり」を進めた。</p> <p>(1)では、「英国学派と国際関係理論」研究会、「知識資本と世界経済研究会」、「マイグレーション研究会」、「地球環境情報を核とした人間・社会・経済次元」研究会が継続して活動するとともに、「ヒューマン・トラフィッキング研究会」、「東アジア企業家ネットワーク」研究会、「立命館現代中国研究会」が新たに発足した。(2)では、第4回会議「ASEAN-Divideの克服とメコン川地域開発」(08年10月)が開催された。(3)の平和研究における国際平和ミュージアムとの提携はまだ本格化しておらず、課題を残している。(4)のコリア研究センターは引き続き、多彩な活動を行っている。(5)国際連携(別項)。なお、邦文紀要の2回発行(アジア特集号と通常号)を実現し、英文紀要も含め、国内外への研究成果発信は強化されている。</p> <p>このように、研究所は本来の活動水準を回復し、新たな飛躍を期待できる段階に入っている。しかし、グローバル化の進展が生み出す諸問題が一挙に表面化している現在、問題の分析とその解決のための研究という課題に見合った体制・基盤・研究資源を用意できていない。とくに、抜本的な人的、財政的な条件、体制の整備が急務である。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>「ASEAN-Divideの克服とメコン川地域開発」(08年10月)が、外務省関係者、タイ、ラオス、中国からの研究者を招いて開催され、東アジア地域が直面している重要問題が分析されるとともに、研究のための国際ネットワークの構築が進んだ。</p> <p>また、韓国全南大学世界韓商・文化研究団を迎えて国際シンポジウム「グローバル・ディアスポラ経済と文化的理解」(2009年1月)を開催した。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>運営委員会：年10回開催</p> <p>運営委員：大久保史郎(所長)、徐勝(法)、岡野八代(法)、松野周治(経済)、西口清勝(経済)、高尾克樹(政策)、中川涼司(国関)、岡田滋行(国関)、中戸祐夫(国関)、守政毅(経営)</p>
	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>学外研究費</p> <p>■韓国 Korea Foundation 2008年度 助成金 1525万円</p> <p>研究成果の刊行</p> <p>■紀要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立命館国際地域研究 第28号、第29号(発行：2008年12月、2009年3月) ・Ritsumeikan International Affairs vol.7(発行：2009年3月) <p>■Newsletter Vol.37(発行：2008年7月7日) Vol.38(発行：2009年3月31日)</p>

項 目	内 容
2009 年度研究計画	以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>① 2009 年度の研究計画について</p> <p>国際地域研究所は、1989 年の設置以来、東と西、南と北、アジアと欧米の接点に位置し、世界と日本の平和的発展に敏感な研究所としての特色を発揮してきた。なかでも、近年は韓国、中国に加えて東南アジア(タイ、ラオスなど)との研究協力を強化しながら、東アジアの平和構築・社会発展研究に重点においてきた。グローバリゼーションの負の側面が誰の目にも明らかになり、地域協力とその背景である地域研究の重要性が改めて確認されている。これまでの基本方針を継承しながら、以下の 3 分野の課題を、～ の計画に従って推進する。</p> <p>(1) 世界金融経済危機を克服し、国際社会の平和的発展、国際協力の推進をはかる。</p> <p>(2) 東アジアの平和構築と社会発展、日本の役割や経済社会再建に関する課題を提示する。</p> <p>(3) 国際関係・地域研究の基礎研究の推進を実施する。</p> <p>() 東アジア専門家会議(第二期)を、本年度から展開される科研費基盤研究「ASEAN-Divide の克服とメコン川地域開発(GMS)に関する国際共同研究」(研究代表者:西口清勝経済学部教授)との連携を軸としながら展開し、2008 年度の第 4 回会議の成果をさらに発展させる。</p> <p>() 基礎研究においては、欧米の国際関係理論・国際政治理論研究を重視し、「英国学派と国際関係理論」研究会を継続するとともに、新たな研究会の組織等を検討する。また、「知識資本と世界経済研究会」、「地球環境情報を核とした人間・社会・経済次元」研究会、「ヒューマン・トラフィッキング」研究会、「途上国研究会」、「東アジア企業家ネットワーク」研究会、「立命館現代中国研究会」、「北朝鮮問題研究会」等を推進する。</p> <p>() 国際平和ミュージアム等と連携して、平和研究を推進する。</p> <p>() コリア研究センターとの連携、東北アジア地域研究センターとの協力により、グローバル危機の下での東北アジア地域における平和構築と経済構造再編成等について研究する。</p> <p>() 国際関係学部を中心に、関係学部・研究科との連携を強化し、教育研究への貢献ならびに院生育成等を進める。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>東アジア専門家会議の枠組みを通じて、タイ(NIDA)、ラオス(ラオス国立大学)、中国(厦門大学、雲南社会科学院、社会科学院日本研究所など)、韓国(ソウル大学等)等との連携を強化する。さらに、中国上海地域その他での新規提携先の獲得を目指す。東アジア専門家会議の活動強化のために、客員教授等の招聘を実現する。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>運営委員:松野周治(所長)、大久保史郎(法務研究科)、徐勝(法・前期)、宇野木洋(法・後期)、小田美佐子(法)、高尾克樹(政策)、中川涼司(国関)、原毅彦(国関)、山下範久(国関)、西口清勝(経済)、田中宏(経済)、守政毅(経営・前期)、長島修(経営・後期)、唐澤靖彦(文)</p> <p>定例運営委員会:毎月第3金曜日</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>基盤研究プロジェクトを中心に、引き続き、科研費等の学外研究費の獲得に努力する。</p>

2008年度研究会実施一覧

英国学派と国際関係理論 (代表: 国際関係学部教授 安藤次男)

第1回	英国学派と国際関係理論	2008/6/27	金	16:30-18:00	恒心館722号	英国学派とは何かーそのアプローチ方法をめぐって	池田 丈佑	立命館大学	PD
第2回	英国学派と国際関係理論	2008/7/30	金	16:30-18:00	恒心館723号	国際社会と慈善社会ーヘドリー・ブル「国際社会論」の発展的考察	上野 友也	日本学術振興会	特別研究員
第3回	英国学派と国際関係理論	2008/9/26	金	16:30-18:00	恒心館722号	Andrew Linklater, <i>The Transformation of Political Community</i> を読む - 10年目の再評価	池田 丈佑	立命館大学	PD
第4回	英国学派と国際関係理論	2008/10/31	金	16:30-18:00	恒心館722号	Provincializing Critical Theory	Giorgiandrea Shani	立命館大学国際関係学部	教授
第5回	英国学派と国際関係理論	2008/11/28	金	16:30-18:00	恒心館722号	国際社会への日本の参入	森田吉彦	帝京大学文学部	

知識資本と世界経済研究会 (代表: 国際関係学部教授 中川涼司)

第9回	知識資本と世界経済研究会	2008/5/31	土	14:00-17:00	アカデミア立命21会議室 K301	・アメリカの知的財産権関連産業と知的財産立国戦略 ・軍事における知的財産権	中本 悟 松村 博行	大阪市立大学 立命館大学	教授 非常勤講師
第10回	知識資本と世界経済研究会	2008/6/28	土	14:00-17:00	アカデミア立命21会議室 K301	・著作権の保護期間 ・日本のアニメ産業と知的財産権	宮脇 正晴 小山 大介	立命館大学法学部 京都大学大学院	教授
第11回	知識資本と世界経済研究会	2008/9/13	土	14:00-17:00	アカデミア立命21会議室 K301	・IT産業におけるサービス分野の台頭の意味 - 米系製造業IT企業の戦略との関連で ・組換え作物と知的財産権: モンサント社の事例を中心に	森原 康仁 千葉 典	京都大学大学院 神戸市立大学	
第12回	知識資本と世界経済研究会	2008/11/8	土	14:00-17:00	アカデミア立命21会議室 K301	アメリカの知的財産権の業界団体について メジャーの国際競争とオープンスカイ政策	中本 悟 松本 俊哉	大阪市立大学	教授
第13回	知識資本と世界経済研究会	2008/12/20	土	14:00-17:00	アカデミア立命21会議室 K302	・金融危機下におけるヨーロッパの現状と課題 ・1980年代以降のアメリカ製造業の再編	星野郁 田村太一	立命館大学国際関係学部 大阪市立大学大学院	

途上国研究会 (代表: 国際関係学部教授 松下冽)

	途上国研究会	2008/11/21	金	17:00-18:30	恒心館723号	・東アジアにおける鳥インフルエンザ: 脅威・ガバナンス・地域協力 ・国際保険協力とガバナンス	鬼丸武士 岡本明子	政策研究大学院大学 名古屋大学	
--	--------	------------	---	-------------	---------	---	--------------	--------------------	--

東アジア企業家ネットワーク研究会 (代表: 経営学部准教授 守政毅)

第1回	東アジア企業家ネットワーク研究	2008/7/26	土	16:00-17:30	朱雀601西会議室	在日コリアン企業家の企業動機と企業類型化研究	林 永彦	韓国・全南大学世 界韓商文化研究	研究教授
-----	-----------------	-----------	---	-------------	-----------	------------------------	------	---------------------	------

ヒューマンtraフィキング研究会 (代表: 法務研究科 大久保史郎)

第1回	ヒューマン・トラフィキング研究会	2008/6/15	土	14:00-17:00	朱雀	・フリートーク: ヒューマンtraフィキング研究の現状と課題 ・COEプログラム: ジェンダー研究のフロンティアを終えて ・日本のTIP対策との現状と課題 ・タイにおける人身取引の要因	戒能 民江 吉田 容子 齋藤 百合子	お茶の水女子大学 立命館大学法科大学院 恵泉女学院大学	教授
第2回	ヒューマン・トラフィキング研究会	2008/9/28	日	11:00-17:30	朱雀210教室	ヒューマンtraフィキング研究の現状と課題 - その2	戒能 民江 大津 恵子 吉田 容子	お茶の水女子大学 立命館大学法科大学院	
第3回	ヒューマン・トラフィキング研究会	2009/1/24-25	土日	17:00-19:30	お茶の水女子大学	・人身売買対策 米国の保護支援活動や実践例に学ぶ ・狼狽する国際政治学 人身取引をどう争点化するべきなのか	原 由利子 小林 誠	反差別国際運動 (IMADR) お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科	事務局 長 教授

マイグレーション研究会(代表:国際関係学部 佐藤誠)

第1回	マイグレーション研究会	2008/7/4	金	14:30-19:30	学而館第2研究会室	・日本の医療労働現場における外国人労働者の受け入れについて ・シンガポールにおける外国人介護労働者の受け入れ制度・政策: 老人介護施設のケース	竹野 幸子 マリア・レイナルース・D・カルロス	・非営利・協同総合研究所のちとくら事務局長 ・龍谷大学国際文化学部	准教授
第2回	マイグレーション研究会	2008/7/12	土	10:30-12:00	学而館第1研究会室	転換期の南アフリカ～岐路に立つポスト・アパルトヘイト国家	白戸 圭一	毎日新聞編集局 政治部記者、前ヨハネブルグ特派員、国関OB	
第3回	マイグレーション研究会	2008/7/14	月	18:00-19:30	学而館第1研究会室	Human Security in an Age of Globalization: Notes Towards a Future Research Project	Mustapha Kamal Pasha	University of Aberdeen, UK	Professor
第4回	マイグレーション研究会	2008/11/4	火	18:00-20:00	学而館第2研究会室	JPEPA and Filipino Caregivers and Nurses to Japan	Maria Rosario Ballescas-Piquero	フィリピン大学セブカレッジ社会科学部	教授
第5回	マイグレーション研究会	2008/11/12	水	18:00-21:00	学而館第2研究会室	・インドネシア人介護福祉士候補者2008年度受け入れ状況の現実と課題 ・女性の稼ぎ手化と出稼ぎの女性化 インドネシアの事例から	山崎イチ子 嶋田ミカ	花園大学社会福祉学部 龍谷大学経済学部	特任教授 助手
	ヒューマン・セキュリティ研究会	2008/10/15	水	18:00-20:00	学而館第1研究会室	A Critical Examination of Western Human Security Assemblage: Securitization-Governmentalization Interplay	Nikola Hynek Giorgio Shani(コメント)	チェコ共和国政府、英国ブラッドフォード大学博士課程、国際交流基金フェロー 国際関係学部准教授	
	ヒューマン・セキュリティ研究会	2009/3/5	木	11:00-17:00	恒心館725号室				

立命館現代中国研究会(代表:法学部 宇野木洋)

第1回	立命館現代中国研究会	2008/9/18	木	15:00-18:00	学而館第2研究会室	現代中国研究 基礎研究としての中国語学の立場から	中川 正之	国際機構	教授
-----	------------	-----------	---	-------------	-----------	--------------------------	-------	------	----

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008 年度研究活動実績	以下の各項目の 2008 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>コリア研究センターでは、2008 年度の活動計画に基づき、以下の研究活動を行った。</p> <p>■国際シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008 年 5 月 30、31 日「朝鮮半島の和解・協力 10 年—評価と展望」(於立命館大学) ・2008 年 11 月 14、15 日「浮遊する在日コリアン—同化と差別のなかで」(於立命館大学) <p>■日韓共同研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008 年 6 月 28 日 第四期研究会「韓国平和主義および平和思想の歴史・哲学・宗教学的的研究」(於韓国・建国大学校) <p>■RiCKS 月例研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 17 回 4 月 16 日(水) 張完翼「過去清算と親日財産の国家帰属」 第 18 回 5 月 21 日(水) ナンテ・サイモン「米占領期の在日朝鮮人と東アジアにおけるデモクラシーへの道」 第 19 回 6 月 18 日(水) 藤石貴代「日本人になることと国民となること -金鍾漢(1914-44)の新地方主義論」 第 20 回 7 月 16 日(水) 羅任允慶「韓国における男女共学大学の軍事文化と女子学生『市民権』の構成過程」 第 21 回 10 月 15 日(水) 趙景達「朝鮮近代史研究と民衆運動史研究の過去と現在」 第 22 回 11 月 13 日(木) 朴漢龍「親日辞典編纂の意義とその進展状況」 第 23 回 12 月 17 日(水) 崔仁宅「植民地期釜山と日本人たち」 <p>■第 3 回 RiCKS 韓国映画フェスティバル・学術シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2008 年 10 月 26 日「韓国映画の軌跡—アン・ソンギとその時代」 <p>(司会：佐々充昭、パネリスト：安聖基、李孝仁、寺脇研、八尋義之)</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>コリア研究センターの本年度の社会的連携事業、国際・学術交流は、2008 年度計画に基づき、以下のような活動を行った。</p> <p>■国際・学術交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高麗大学校日本研究センターとの学術交流協定を締結 <p>■海外客員研究員受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナンテ・サイモン(カナダ・ビクトリア大学) 4 月～11 月 ・申順浩(韓国・国立木浦大学校社会科学部教授) 8 月～2009 年 3 月 ・韓寅燮(韓国・国立ソウル大学校 09 年 3 月) <p>■第 3 回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「アン・ソンギ—韓国映画とその時代」 (2008 年 10 月 24 日～26 日、於立命館大学朱雀キャンパス大講堂)</p> <p>■RiCKS 次世代研究者ワークショップ (8 月 1 日～4 日、於立命館大学末川記念会館、参加者：協力教授 7 名、日本 8 名、韓国 8 名)</p> <p>■第 2 回 RiCKS 歴史連続講座「朝鮮植民地支配の構造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水野直樹(京都大学教授)「植民地支配の統治機構：朝鮮総督府」 ・松田利彦(国際日本文化研究センター准教授)「植民地下の監視と統制：植民地朝鮮の憲兵と警察」 ・徐民教(親日反民族行為真相糾明委員会専門委員)「植民地支配の根幹：朝鮮駐屯日本軍」 ・文竣英(釜山大学校教授)「植民地下の司法制度と監獄」

	<p>■シンポジウム「韓国の歴史清算の現状と課題——朝鮮戦争、四・三事件、そして日本」 (3月8日 立命館大学朱雀キャンパス、講演 金東椿 コメント 藤永壯・文京洙) ・四・三事件60周年事業関西実行委員会との共催 ・賛助 韓国文学翻訳院</p> <p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について コリア研究センターの研究組織は、5つの研究室(①法・政治②経済③社会・文化④歴史・日韓関係⑤在外コリアン)から構成される。各研究室には10人の研究委員および2人の専任研究員がそれぞれの専門分野によって配置され、センターにおける研究企画などを行う。また、日本および韓国・米国・カナダ在住の研究者29名が特別研究員として本センターと連携している。さらに、本年度に一回開催された日韓共同研究会では、日本・韓国の関連研究者4名(日本2、韓国2)が報告者として参加している。 コリア研究センターの運営体制は、2009年4月現在、センター長、事務局長および10人の研究委員兼運営委員からなる運営委員会、そして専任研究員1名、専従事務局員1名の事務局を中心に運営されている。2008年度は運営委員会(機構非公認)を4回開催し、センターの事業および運営について企画・検討・決議などを行った。修学館2階にあるセンターでは、平日9時～5時半に専任研究員1名および事務局員1名が常勤し、センターの日常的な運営に従事している。</p> <p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について ■2008年度の学外研究費は、総額 円で、内訳は以下の通りである。 ・韓国国際交流財団(助成金) ¥15,250,000 ・奨学寄付金(15件) ¥2,320,000 ・東北アジア歴史財団(共催事業に対して) ¥1,475,236 ・その他(チケット収入など) ¥1,296,405</p> <p>■研究成果刊行 *単行本 ・『北朝鮮が核を放棄する日』晃洋書房、08年6月 ・『チェ・ミンシク 行動する役者』かもがわ出版、08年9月 ・『韓米FTAと韓国経済の危機』晃洋書房、08年12月 ・『2008年 RiCKs 次世代フォーラム論文集2』コリア研究センター、09年1月 *その他学術誌掲載・資料集など ・「朝鮮半島の和解・協力10年 評価と展望」(第6回立命館大学コリア研究センター国際シンポジウム報告集、08年5月) ・「浮遊する在日コリアン 同化と差別のなかで」(第7回立命館大学コリア研究センター国際シンポジウム報告集、08年11月)</p>
--	---

項 目	内 容
2009 年度研究計画	以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>① 2009 年度の研究計画について</p> <p>コリア研究センターでは、本年度は主に以下のような研究課題を重点的に推進していく。</p> <p>1) 公開講座：昨年度に引き続き、朝鮮半島を中心とした東北アジアの平和定着・安全保障の問題を多角的に検討するための公開講座を開催する。</p> <p>2) 特別研究会：日本の朝鮮認識を再検討する企画として、友禪に現れた「韓国併合」図案を扱う特別研究会「友禪に見る「韓国併合」」を、本学平和ミュージアムと共同で開催する（5 月 30 日）。</p> <p>3) 月例研究会：「韓国・朝鮮」を対象とする研究者たちの学術発表および韓国における研究成果の紹介、学術交流の場として毎月 1 回「月例研究会」を開催する。</p> <p>4) 翻訳研究会開催：韓国における優れた研究・書籍を翻訳・出版することで、韓国研究への認識を広め、日本における韓国学研究的の基盤形成に貢献するために「翻訳研究会」を開催する。</p> <p>5) 成果刊行： 本年度は以下の刊行物出版を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徐勝編『朝鮮半島の和解・協力 10 年』（仮）、1 2 月刊行予定 ・RiCKS ブックレットシリーズ『アン・ソング 韓国映画とその時代』かもがわ出版、9 月刊行予定 ・コリア研究センター『2009 年 RiCKS 次世代フォーラム論文集 3』12 月刊行予定
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p><国際交流></p> <p>本センター設立以降、研究を推進するなかで、韓国の主要大学との共同学術交流および、アメリカ・カナダ・中国の韓国研究者を含めた幅広い学術交流を進めてきた。本年度は、こうした方針に基づき、以下のような交流事業を推進する予定である。</p> <p>■客員研究員の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申順浩(韓国・国立木浦大学校社会科学部教授、継続) 08 年 8 月～ ・韓寅燮（ソウル大学校、継続） 09 年 3 月～ ・波佐場清（元朝日新聞記者） 09 年 4 月～ <p>■海外研究所との学術交流</p> <p>本年度は、具体的には高麗大学校日本研究センター、東国大学校北韓研究センター、慶北大学校韓国僑民研究所との国際学術交流を企画している。</p> <p><社会的連携></p> <p>コリア研究センターでは、設立趣旨の一つである地域社会に開かれたセンターとなることを目指し、韓国学研究的の社会還元事業の一環として、本年度は以下のような事業を開催する。</p> <p>■第 4 回 RiCKS 韓国映画フェスティバル 「金恵秀」 (10 月 23～25 日、立命館大学朱雀キャンパス大講堂)</p> <p>■第 4 回歴史連続講座「朝鮮植民地の文化支配と逆流」</p>

	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>コリア研究センターの研究組織は、5つの研究室(①法・政治②経済③社会・文化④歴史・日韓関係⑤在外コリアン)から構成される。各研究室には10人の研究委員および2人の専任研究員がそれぞれの専門分野によって配置され、センターにおける研究企画などを行う。また、日本および韓国・米国・カナダ在住の研究者29名が特別研究員として本センターと連携している。さらに、本年度に一回開催された日韓共同研究会では、日本・韓国の関連研究者4名(日本2、韓国2)が報告者として参加している。</p> <p>コリア研究センターの運営体制は、2009年4月現在、センター長、事務局長および10人の研究委員兼運営委員からなる運営委員会、そして専任研究員1名、専従事務局員1名の事務局を中心に運営されている。修学館2階にあるセンターでは、平日9時～5時半に専任研究員1名および事務局員1名が常勤し、センターの日常的な運営に従事している。2009年度は副センター長を増員、より一層の運営体制の強化を図る。</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>すでに助成が決まっているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国国際交流財団(助成金) <p>申請予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度科研基盤研究 ・韓国国際交流財団(2009年度助成、7月提出) ・韓国映画振興委員会(映画フェスティバル開催補助、9月提出) ・東北アジア歴史財団学術会議支援、09年度申請予定 ・日本学術振興会国際研究集会助成(4月提出)

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008年度研究活動実績	以下の各項目の2008年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>2008年度プロジェクト研究として、研究所重点領域であるジェンダー研究会、日本人の国際移動研究会、国際日本文化研究理論研究会の3プロジェクトと、研究所が新領域研究開発のために設定している萌芽的プロジェクト研究として2006年度から発足した「新植民地主義論」研究会が活動を展開した。また、昨年から引き続き2007年度で研究所重点領域のプロジェクトが終了した言語科学と英語教育研究会による「多文化社会と言語」、および「英語文法情報付きコーパスの構築とその応用」、日本人の国際移動研究会による「東洋拓殖会社による日本人の植民地朝鮮への移住に関する歴史地理学的研究」、ジェンダー研究会からの「軍事組織とジェンダーの主流化」、および萌芽的プロジェクト研究から申請し採択された「アヴァンギャルド研究会」、客員研究員西川長夫氏が主宰する「戦後農民運動と農村の変容」の6プロジェクトを、研究所プロジェクトとして受入れて、研究所の研究サポートによって活動を展開した。その他、各研究科との連携をすすめるために文科省科学研究費補助金で4課題を研究所のプロジェクトとして受入、活動を展開した。(※別紙「2008年度の運営体制と研究組織」参照)</p> <p>研究所の研究・事業成果の成果報告としては、研究所出版助成による研究書『英語教育とコーパスの接点』(松柏社)と、人文書院との研究連携協定によって刊行する研究書『グローバリゼーションと植民地主義』の2冊を、2008年度内に刊行した。同時に紀要『立命館 言語文化研究』も2007年度の連続講座・国際シンポジウム・プロジェクトの研究報告を中心に、4冊を刊行した。各号のボリュームは約300ページである。以上、順調な年度研究計画、事業計画を成功裡に遂行した。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>主な研究所企画として、2008年11月に連続講座「国民国家と多文化社会」第19シリーズとして「格差拡大社会とグローバリズム」を開催した。法学、文学、社会学などの多様な側面から照射して、各回50名程度の参加者を得た。また、2009年3月には国際ワークショップ「東南アジアとの通路—日本文学・文化研究理論を考える—」を開催、アジア5カ国(タイ・ベトナム・マレーシア・インド・インドネシア)から日本文学・文化研究者を招聘して、日本側ゲスト、スタッフと相互の情報、研究を交換・互換して、より精緻な日本文学・文化研究理論の国際的な構築を考察した。</p> <p>その他各プロジェクト研究においても海外研究者の招聘を行ってシンポジウム・ワークショップ・研究会等を開催した。(※別紙「2008年度開催企画一覧」参照)</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>運営委員会(12名)は各プロジェクト代表・幹事によって組織し、5回開催した。また企画委員会は研究所企画の立案・検討など必要に応じて随時招集した。編集委員は、紀要の編集と発行に関する実務・協議を行った。その他、日常業務は、所長と事務局で週1回打合せを行い、進めた。(※別紙「2008年度の運営体制と研究組織」参照)</p>
	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>紀要「立命館言語文化研究」20巻1・2・3・4号の計4冊を刊行。また単行本として『英語教育とコーパスの接点』刊行(松柏社、編者:中村純作・堀田秀吾)、『グローバリゼーションと植民地主義』刊行(人文書院、編者:西川長夫・高橋秀寿)を刊行した。</p>

項 目	内 容
2009 年度研究計画	以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>① 2009 年度の研究計画について</p> <p>2009 年度プロジェクトとして学内研究支援制度によるプロジェクト研究 3 つ（日本人の国際移動研究会、国際日本文化研究会、アヴァンギャルド研究会、萩原恭次郎の芸術における身体性・資格制に関する総合的研究）と研究所独自の支援プロジェクト「萌芽的プロジェクト研究」、その他、科学研究費補助金で 2 課題を研究所のプロジェクトとして受入を予定している。（※別紙「2009 年度の運営体制と研究組織」参照）</p> <p>今現在のところ、学外や学内研究補助金を得た大きなプロジェクト研究はすべて本年度限りで、研究所は転換期に来ている。今年の最大の目標は新しい研究構想の種を撒いて育て始めることであるので、できるだけ多くの萌芽研究プロジェクトを引き出すことが大切である。そのことから、研究所予算により新しいプロジェクトを萌芽的プロジェクト研究として募集を開始した。今現在、申請予定者 10 件の申し込みがある。今後研究所の活動に合うプロジェクトを採択し、支援していく予定である。</p> <p>研究所 20 周年として、新しい研究展望を開く意味で単独の講演をいくつか行う。内容や講演者は検討中である。</p> <p>紀要「立命館言語文化研究」は、2008 年度シンポジウムやプロジェクトの研究成果を中心に 21 巻 1・2・3・4 号の計 4 冊を例年どおり刊行する。</p>
	<p>② 学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>2009 年 5 月に国際ワークショップ「文学的「近代の超克」」を開催する。スピーカーとしてハリー・ハルトユニアン (NYU)、酒井直樹 (コーネル大学)、鈴木貞美 (日文研)、西川長夫 (立命館大学) の四氏を予定し、ディスカッサントにリヴィア・モネ (モントリオール大学) に依頼している。また、科研費・学内提案公募の最終年事業として 2009 年 10 月には国際シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」を開催し、国内外から当該領域の代表的な研究者を招聘し、シンポジウムを主催する予定である。また、このほかには 5 月中旬までに受け入れる萌芽的プロジェクト研究から派生する海外からの研究者招聘や研究会、国際ワークショップが実現することを期待する。他に 2010 年 11 月にストラズブル大学にて開催のシンポジウムにて趣旨が合えば共同研究員等が参加(報告)予定である。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>運営委員会 (13 名) は各プロジェクト代表・幹事によって組織し、月に 1 回委員会を開催する。また研究所企画の立案・検討など必要に応じて随時企画委員会を招集する。編集委員は、紀要の編集と発行に関する実務・協議など必要に応じて招集する。その他、日常業務は、所長と事務局で週 1 回打合せを行い、進める。（※別紙「2009 年度の運営体制と研究組織」参照）</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>研究所独自で行っている萌芽研究プロジェクトは、学内外への研究資金への申請を前提に研究所として支援しているプロジェクトであり、それらのプロジェクトでは、申請を行う予定である。その他、それぞれの教員が、科研費への申請を予定している。</p>

【運営体制】

所 長： 中川成美（文学部教授）

運営委員会

委員長： 中川成美（所長，プロジェクト研究A 4 代表者，文学部教授）

委 員： 岡野八代（プロジェクト A1 代表者・法学部教授）

秋林こずえ（プロジェクト研究A 1 分担者・国際関係学部教授）

米山 裕（プロジェクト研究A 3 代表者，文学部教授）

河原典史（プロジェクト研究A 3 幹事・B 1 代表者，文学部准教授）※後期外留

西 成彦（プロジェクト研究C 3 代表者，先端総合学術研究科教授）

中村純作（プロジェクト研究C 4 代表者，言語教育情報研究科教授）

梅咲敦子（プロジェクト研究C 4 分担者，政策科学部・言語教育情報研究科教授）

高橋秀寿（言文研萌芽的プロジェクト研究代表者，文学部教授）

崎山政毅（言文研萌芽的プロジェクト研究代表者，文学部教授）

企画委員会(執行部)

委員長： 中川成美（所長）

委 員： 岡野八代（プロジェクト A1 代表者・法学部教授）

米山 裕（プロジェクト研究A 3 代表者，文学部教授）

西 成彦（プロジェクト研究C 3 代表者，先端総合学術研究科教授）

中村純作（プロジェクト研究C 4 代表者，言語教育情報研究科教授）

高橋秀寿（言文研萌芽的プロジェクト研究代表者，文学部教授）

編集委員会

委員長： 中川成美（所長）

委 員： 秋林こずえ（プロジェクト研究A 1 分担者・国際関係学部教授）

河原典史（プロジェクト研究A 3 幹事，文学部准教授）※前期

高橋秀寿（言文研萌芽的プロジェクト研究代表者，文学部教授）※後期

梅咲敦子（プロジェクト研究C 4 分担者，政策科学部・言語教育情報研究科教授）

事 務 局 人文社会リサーチオフィス

※土曜講座等企画運営委員会の委員は所長が兼任する。

2008年度は 4月「北米に渡った日系人の生活と文化」（米山先生）と10月「視覚の想像力」（中川先生）を担当。

※国際言語文化研究所図書選定委員は、図書予算の削減とともに廃止とした。

図書選定は、運営委員会にて審議する。

【研究組織】

A：学内提案公募型プロジェクト研究による研究プロジェクト

B：学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」による研究プロジェクト

C：科学研究費補助金による研究プロジェクト（研究科との連携プロジェクト）

その他：言文研萌芽的プロジェクト研究（次年度の学内提案公募および科研費への申請準備のために研究所にて支援するプロジェクト）

各プロジェクトの代表者および幹事

A 1 「ジェンダー研究会」：代表者・岡野八代、幹事・池内靖子

A 3 「日本人の国際移動研究会」：代表者・米山 裕、幹事・河原典史

A 4 「国際日本文化研究理論研究会」：代表者・中川成美、幹事・西 成彦

B 1 「言語理論研究会」：代表者・佐野まさき

B 2 「東洋拓殖会社による日本人の植民地朝鮮への移住に関する歴史地理学的研究」
：代表者・河原典史

B 3 「英語文法情報付きコーパスの構築とその応用」：代表者・田中省作

B 4 「戦後農民運動と農村の変容」：代表者・西川長夫

B 5 「軍事組織とジェンダーの主流化」：代表者：秋林こずえ

B 6 「アヴァンギャルド研究会」：代表者：崎山政毅

C 1：代表者・渡辺公三（先端総合学術研究科との連携）

C 2：代表者・Paul DUMOUCHEL（先端総合学術研究科との連携）

C 3：代表者・西 成彦（先端総合学術研究科との連携）

C 4：代表者・中村純作（言語教育情報研究科との連携）

言文研萌芽的プロジェクト研究

「新植民地主義論研究会」：代表者・高橋秀寿、幹事・加藤政洋

※プロジェクトは、研究所の重点領域の研究を中心に受け入れている。各プロジェクトは、研究所の活動サポートと研究成果発表の場（研究所紀要への成果の発表）を得ることが出来る。

【運営体制】※09年度は、月に1回招集

所 長： Charles Edward FOX（文学部教授）

運営委員会

委員長： Charles Edward FOX（文学部教授）

委 員： 中川成美（提案公募研究代表者，文学部教授）

池内靖子（産業社会学部教授）後期のみ

秋林こずえ（提案公募研究代表者，国際関係学部教授）

米山 裕（科研費研究代表者，文学部教授）

河原典史（文学部准教授）

西 成彦（科研費研究代表者，先端総合学術研究科教授）

梅咲敦子（政策科学部・言語教育情報研究科教授）後期のみ

高橋秀寿（言文研萌芽的プロジェクト研究代表者，文学部教授）

崎山政毅（提案公募研究代表者，文学部教授）

西林孝浩（文学部人文総合インスティテュート教授）

ウェルズ恵子（文学部教授）

村田裕和（提案公募研究代表者，文学部助教）

事 務 局 人文社会リサーチオフィス

企画委員会(執行部)

※年間を通しての研究所企画の立案。研究所企画の検討など必要に応じて随時招集

委員長： Charles Edward FOX（文学部教授）

委 員： 中川成美（提案公募研究代表者，文学部教授）

池内靖子（産業社会学部教授）後期のみ

米山 裕（科研費研究代表者，文学部教授）

西 成彦（科研費研究代表者，先端総合学術研究科教授）

崎山政毅（提案公募研究代表者，文学部教授）

秋林こずえ（提案公募研究代表者，国際関係学部教授）

編集委員会 **※紀要の編集と発行に関する実務・協議。主に紀要各号の編集開始時に招集**

委員長： Charles Edward FOX（文学部教授）

委 員： 西林孝浩（文学部人文総合インスティテュート教授）

ウェルズ恵子（文学部教授）

村田裕和（提案公募研究代表者，文学部助教）

※土曜講座等企画運営委員会の委員は所長が兼任する。

2009年度は 7月（中川先生）と 10-3月いずれか（Fox先生）を担当。

※国際言語文化研究所図書選定委員は、図書予算の削減とともに廃止とした。

図書選定は、運営委員会にて審議する。

【研究組織】

Aプロジェクト

・学内研究支援制度によるプロジェクト研究（09年度までの「学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」」および09年度からの「研究推進プログラム「基盤研究」」による研究プロジェクト）

Bプロジェクト

・言文研萌芽的プロジェクト研究（研究所独自の支援プロジェクト。次年度の学内外研究費申請のために研究所にて支援するプロジェクト）

Cプロジェクト

・科学研究費補助金による研究プロジェクト。

各プロジェクトの代表者および幹事

Aプロジェクト

A1「日本人の国際移動研究会」：米山裕

A2「国際日本文化研究会」：中川成美

A3「アヴァンギャルド研究会」：崎山政毅

A4「萩原恭次郎の芸術における身体性・資格制に関する総合的研究」：村田裕和

Bプロジェクト申請予定者

Charles FOX

池内靖子

高橋秀寿

ウェルズ恵子

秋林こずえ（予定）

梅咲敦子

崎山先生 or 神谷先生（産社）（未定）

Dumouchel 先生 or 他の先生（未定）

西林孝浩（未定）

吉田寛（未定）

C1：西 成彦

C2：中村純作

※プロジェクトは、研究所の重点領域の研究を中心に受け入れている。各プロジェクトは、研究所の活動サポートと研究成果発表の場（研究所紀要への成果の発表）を得ることが出来る。

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
言文研プロジェクトA3	4/26	16:00-20:00	第1回日本人の国際移動研究会	国境を越える同窓会 植民地同窓会ネットワークとその活用	佐藤量(立命館大学大学院)	創思館407教室	10	10	x
言文研プロジェクトA4	5/23	16:00~20:00	第1回国際日本文化研究理論研究会	「戦争の記憶」を読む 五十嵐恵邦氏を迎えて	ゲスト:五十嵐恵邦(バンダービルト大学)	学而館第2研究会室	12	13	x
言文研プロジェクトA3	5/24	14:00~18:00	第2回日本人の国際移動研究会	米占領期 現在と日本の場合 他 Rethinking Migration and Transnationalism of Japanese Americans, 1930-1955	ナンテ・サイモン(立命館大学コア研究センター) マイケル・ジン(国際交流基金関西国際センター)	創思館409教室	11	11	x
言文研プロジェクトA1	6/8	10:00~18:20	「女性・戦争・人権」学会08年度大会「メディアとフェミニズム」	[1]総会 [2]個人研究報告 「府中青年の家裁判」と反リプ言説の論理 「アイデンティティの政治批判」 [3]大会シンポジウム「メディアとフェミニズム」 「ライファーズ」と歩む～被害、加害、reconciliationをめぐる映像製作、 「権力とジャーナリズムの近況」	総司会:志水紀代子(追手門学院大学) [1]司会:清未愛砂(大阪大学) [2]報告:高橋慎一(立命館大学大学院文学研究科) コメント:司会:井桁碧(筑波学院大学) [3]司会:大越愛子(近畿大学) 報告:坂上香(津田塾大学) 報告:本田雅和(「女性・戦争・人権」学会会員) コメント:北原恵(大阪大学)	創思館 カンファレンスルーム	60(概算)	77	(関係者のみ)
言文研プロジェクトA4	6/19	16:00~18:00	第2回国際日本文化研究理論研究会	震災の記憶 崩壊する都市と文学 1923 - 1995	発表者:アレックス・ベイツ(ディキンソン大学) 白井かおり(立命館大学) 松枝誠(立命館大学) 司会:池田啓悟(立命館大学)	学而館第1研究会室	15	16	x
言文研プロジェクトA3	6/21	14:00~18:30	第3回日本人の国際移動研究会	海の民のハワイ 日本人漁業者によるハワイの水産開拓史序章 第二次大戦前のカナダ日本人漁業史に関する歴史地理学的考察 サケ刺網漁業と捕鯨業をめぐる資料の再検討	小川真和子(水産大学校) 河原典史(立命館大学)	末川記念会館 第2会議室	11	11	x
言文研プロジェクトA1	6/23	16:30~19:30	第1回ジェンダー研究会	オリエンタリズムとジェンダー 「マダム・バタフライ」 「M. バタフライ」 「ミス・サイゴン」	講演者:キャロル・ソルゲンフライ(UCLA) コメンテーター:シャラリン・オーボ(UBC)	末川記念会館2階 第3研究会室	15	18	x
言文研プロジェクトA3	7/26	14:00~	第4回日本人の国際移動研究会	新刊紹介 白水繁彦編「移動する人びと、変化する文化:グローバル化・ゼーションとアイデンティティ」御茶ノ水書房 2008 研究発表「リトル・キョー再生 - 再定住期におけるコミュニティと人間関係協調主義 -」	物部ひろみ(同志社大学) 南川文里(神戸市外国語大学)	創思館411教室	8	8	x
言文研プロジェクトA4	8/30	11:00~18:00	横光利一文学会	東アジアネットワークのなかの横光利一	研究発表 李 綿 幸(南ソウル大学) 劉 妍(神戸大学大学院) 謝 惠 貞(東京大学大学院) コロキウム ゲストスピーカー:大橋毅彦(関西学院大学) ディスカッサント:中川成美(立命館大学)/金 泰 暉(高麗大学)	創思館 カンファレンスルーム	45	x	
言文研プロジェクトA3	9/27	14:00-18:00	第5回日本人の国際移動研究会	書評:蘭信三編著「日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学」(不二出版、2008年) リサーチ報告	坂口満宏氏(京都女子大学)	志学館212	9	9	x
言文研プロジェクトA1	9/28	15:00~18:00	第2回ジェンダー研究会	合評会:山下英愛著「ナショナリズムの狭間から「慰安婦」問題へのもう一つの視座」(明石書店、2008年)	コメンテーター:金友子(コア研究センター専任研究員) 鄭 柚 鐘(沖縄大学地域研究所特別研究員) 応答者:山下英愛(立命館大学)	学而館第3研究会室	15	20	x
言文研プロジェクトA1	10/18	15:00~18:00	ジェンダー研究会特別企画	ジェンダー・パッシングを考える さまざまな立場の交差のなかから	パネリスト(講演):笹沼朋子氏(愛媛大学法文学部) 学生報告:丸岡 仁(立命館大学法学部3回生) 田尻優子(立命館大学法学部4回生) 蟻川千晶(大阪府立大学大学院人間社会学研究科) 鈴木彩加(大阪大学大学院人間科学研究科) 司 会:岡野八代(立命館大学法学部)	創思館 カンファレンスルーム	50(概算)	57	(関係者のみ)
言文研プロジェクトA1	10/20	16:00~19:00	第3回ジェンダー研究会	合評会:池内靖子著「女優の誕生と終焉 パフォーマンスとジェンダー」(平凡社、2008年)	コメンテーター:岡真理(京都大学) 森山直人(京都造形芸術大学) 李静和(成蹊大学) 応答者:池内靖子(立命館大学)	学而館第1研究会室	15	19	x

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
研究所企画	10/25	15～19	連続講座第1回	シングルマザーの今を考える -「格差社会」の流れの中で-	パネリスト:神原文子(神戸学院大学) 大森順子(NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西) 風間成美(同上) 司会・ディスカッサント:岡野八代	末川第3	30	22	
言文研プロジェクトA3	10/25	14:00～18:00	第6回日本人の国際移動研究会	「ロサンゼルスの日系移民社会と交通」	米山裕(文学部教授)	志学館212	5	5	x
言文研プロジェクトA1	10/31	16:30～19:00	第4回ジェンダー研究会	イスラームの聖典クルアーンをつむぐ 女性の声 禁忌をめぐる解釈と地域・文化の差異	発表者:小杉麻季亜(立命館大学大学院一貫制博士課程) メンター:小田淑子(関西大学文学部) 司会者:江川ひかり(立命館大学文学部)	学而館第3研究会室	9	9	x
言文研プロジェクトA1	11/4	16:30～19:00	第5回ジェンダー研究会	テーマ: コロンビア虐殺の記憶 女たちの演劇活動を通して	講演者:パトリシア・アリサ(劇作家、演出家) メンター:竹森茂子(劇団ラップナム主宰) 通訳者:飯屋浩子	学而館第1研究会室	12(概算)	15	(関係者のみ)
研究所企画	11/14	14:00～17:30	連続講座第2回	格差社会と文学1 桐野夏生を読む	パネリスト:種田和加子(藤女子大学) 金子幸代(富山大学) 四方朱子(北星学園大学) 司会・ディスカッサント:中川成美(立命館大学)	明学館地階83教室	20	21	
研究所企画	11/21	15:00～18:00	連続講座第3回	格差社会に憲法はなにを言うことができるのか? 「生存権」をめぐる対話	パネリスト:笹沼弘志(静岡大学) 遠藤美奈(西南学院大学) 司会・ディスカッサント:岡野八代(立命館大学)	明学館地階83教室	20	41	
言文研プロジェクトA3	11/22	14:00～18:00	第7回日本人の国際移動研究会	2008年度第6回打ち合わせ会	藤田拓之(同志社大学)	修学館212教室	4	4	x
研究所企画	11/28	16:00～19:00	連続講座第4回	格差社会と文学2 - 弱きものとしての子供	パネリスト:菅聡子(お茶の水大学) 林相環(イム・サンミン)(九州大学大学院) 鳥木圭太(立命館大学大学院) 司会・ディスカッサント:中川成美(立命館大学)	明学館地階83教室	20	30	
言文研プロジェクトA4	12/2	16:00～18:00	第3回国際日本文化研究理論研究会	ベトナムにおける日本研究とその現状	講師:Nguyen Van Luc(ホーチミン市人文社会科学大学日本研究センター所長) 司会:中川成美(文学部教授)	学而館第2研究会室	9	9	x
言文研プロジェクトA1	12/6	10:00～12:00	第6回ジェンダー研究会	日本の企業社会と女性労働 - パブル経済崩壊後 -	報告者:木本喜美子(一橋大学社会学部教授) 司会/コメントーター: 広渡清吾(東京大学教授) 小島妙子(仙台弁護士会)	末川記念会館2階第3会議室	30	29	x
言文研プロジェクトA4	12/12	15:00～19:00	国際日本文化研究理論研究会 国際ワークショップ	日本文化研究理論の互換・交換は可能か?	パネラー:安倍・オースタッド・玲子(オスロ大学)/サラ・フレデリック(ボストン大学)/中村三春(北海道大学) ディスカッサント:久保田裕子(福岡教育大学)/中川成美(文学部教授)	末川記念会館2階第3会議室	25		(関係者のみ)
言文研プロジェクトA3	12/26	14:00～18:00	第8回日本人の国際移動研究会	2008年度第8回打ち合わせ会	後藤和広(立命館院) 坂口満宏(京都女子大学)	京都女子大学「校舎」	9	9	x
言文研プロジェクトB6	1/23 1/24	13:00～翌 13:00	アヴァンギャルド研究会	ラテンアメリカの20世紀文学動向の研究	柳原孝教(東京外国語大学) 松本健二(大阪大学) 福島伸洋(東京外国語大学) 久野野一(法政大学)	修学館120号室	4	4	x
言文研プロジェクトA3	1/30	14:00～18:00	第9回日本人の国際移動研究会	「帝国日本の植民地法制」書評	浅野豊美(中京大学) 米山裕(文学部教授) 山崎有恒(文学部准教授)	京都女子大学「校舎」	6	6	x
言文研プロジェクトA3	2/20	14:00～18:00	第10回日本人の国際移動研究会	在朝大分県出身者の分布特性(輩出地、定着地、職業の三点から)	轟博志	修学館2F212	7	7	x
言文研プロジェクトA1	3/20	15:00～18:30	第7回ジェンダー研究会	ガザのいまと わたしたち - 『レインボー』上映とトーク -	報告者:岡真理(京都大学)/清水愛砂(島根大学) 司会/コーディネーター:岡野八代(法学部教授)	末川記念会館第3会議室	12	15	(関係者のみ)

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
研究所企画	3/14・ 3/15	[3/14] 15:00～18: 30 [3/15] 10:00～18: 40	国際ワークショップ	東南アジアとの通路 - 日本文学・文化研究理論を考える - 3/14 [Session1] タイの日本文学・文化研究 「タイにおける日本文学・文化及びポップカルチャー受容の現状と研究1」 「タイにおける日本文学・文化及びポップカルチャー受容の現状と研究2」 [Session2] ベトナムの日本文学・文化研究 「ベトナムの大学における日本文学教育現状及び今後の課題」 「ベトナムにおける近年日本研究の状況とその特徴」 「ベトナム南部における日本文化浸透から日本語普及へ」	3/14 開会挨拶と趣旨説明: 中川成美(国際言語文化研究所長) [Session1] Namthip Methasate(チュラロンコーン大学)/ 平松秀樹(チュラロンコーン大学)/ コメント: 久保田裕子(福岡教育大学) [Session2] Chung Toan Tran(ハノイ国家大学)/ Nguyen Tien Luc(ホーチミン国家大学)/ Nguyen Vu Quynh Nhu(在ホーチミン日本国総領事館)/ コメント: 中村三春(北海道大学)	洋洋館2階956号教室	各30	[3/14] 46 [3/15] 44	(関係者のみ)
				[Session3] マレーシアの日本文学・文化研究 "Japanese Language Courses: A Surging Factor Into the Future (A Foundation of Japanese Studies in Malaysia)" 「マレーシアの中の「日本」 日本語教育から文化・文学翻訳まで」 3/15 [Session4] インドの日本文学・文化研究 「現在インドにおける日本研究: その問題点と将来性」 [Session5] インドネシアの日本文学・日本研究 「インドネシアにおける日本研究の現状」	[Session3] Sohaimi Abdul Aziz(マレーシア科学大学)/ 葉蕙(翻訳家)/ コメント: 通訳: スティーブ・コルベイ(立命館大学) [Session4] P. A. George(ジャワハラール・ネール大学)/ コメント: 稲賀繁美(国際日本文化研究センター) [Session5] Bambang Wibawarta(インドネシア大学)/ コメント: 木村一信(文学部長)				
				[ワークショップ] アジア研究の課題 研究発表1: アジアと植民地主義 研究発表2: 日本の大衆文化とアジアの表象 [総合討議]	[ワークショップ] 総合司会: 雨宮幸明(立命館大学大学院)/ 内藤由直(立命館大学ポस्टドクトラルフェロー) 研究発表1: 秋田道子・工藤献(立命館大学大学院)/ 大原伸五(立命館大学大学院)/ よし美智章(立命館大学大学院) 研究発表2: 二村洋輔・米田あい・大山裕太郎(立命館大学大学院)/ 松田有紀子(立命館大学大学院) [総合討議] 司会: 西成彦(立命館大学) パネリスト: Namthip Methasate/ 平松秀樹/ Chung Toan Tran/ Nguyen Tien Luc/ Nguyen Vu Quynh Nhu/ Sohaimi Abdul Aziz / 葉蕙 / P. A. George / Bambang Wibawarta 閉会の辞: 木村一信				

研究所・センター 08 年度研究活動総括と 09 年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008 年度研究活動実績	以下の各項目の 2008 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」および GCOE プログラム「生存学」創成拠点を中心に研究活動が行われた。これらのプロジェクトを軸に、学内提案および政策重点など計 14 件の学内資金をもとに広範な研究業績を累積することができた。</p> <p>前者の「臨床人間科学の構築」については、当初の予定どおり参加プロジェクトのメンバーを中心に『対人援助学キーワード集』（晃洋書房）を年度末に向けて一般書籍として刊行することができた。さらに、従来年度同様、各プロジェクトの成果は、関連学会、HP、定期刊行物（ヒューマンサービスリサーチシリーズ）において公表された。</p> <p>また研究所全体の成果として、「人間科学研究」も全 2 回を遅滞なく刊行することができた。投稿者数も順調に維持され、また外部査読システムも定着したと言える。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>学術交流については、計 84 件のシンポジウムや研究会が当研究所の主催もしくは共催および後援された。地域連携としては、障害者就労支援における京都市との連携、大阪市との連携による家族臨床による虐待家族への脱暴力プログラム、NPO との連携における脱ひきこもり支援に関する実践・研究、舞鶴市との連携により発達障害児支援調査が展開された。いずれも、本年度だけでなく、複数年度にわたり連携の実績がある。</p> <p>国際交流については、東アジア地区（中国、ベトナム）における障害児者教育・福祉的実践活動を、当該国や JICA の支援も得て行うことができた。そうした国際的実践・教育活動の一環として、障害児教育や福祉にかかわる代表的な実践・研究者を立命館大学に 2 度にわたり招き情報交換および将来的連携の計画を立てるまでに至ることができた。</p> <p>京都市内の地域交流として、08 年度より朱雀キャンパスにおいて、「オープン・リサーチ・センター整備事業 公開講座『シネマで学ぶ人間と社会の現在』」が開始された。08 年度は『家族』をキーワードとした計 5 回の講座が開かれた。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>人間研では、オープン・リサーチ・センター整備事業のもとのヒューマンサービスリサーチセンターと GCOE プログラム採択拠点である生存学研究センターのふたつの大きなプロジェクト組織を擁することとなった。また文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」の申請を行い、さらなる組織の拡大を図っている。</p>

	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>文部科学省学術研究高度化事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」、GCOE プログラム「生存学」創成拠点、舞鶴市、(社)京都障害児福祉協会および(独)日本学術振興会よりの受託研究、日本生活協同組合連合会医療部会、(株)公文教育研究会および(株)不二出版からの奨学寄附研究、(財)京都市ユースサービス協会との学外共同研究などによる学外研究費を得ている。また前述の通り「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」の書類審査を通過し、ヒアリングまで進んでいる。</p> <p>研究成果の刊行物としては、研究所紀要「人間科学研究」を2巻発行し、昨年度と引き続き、編集委員と学外の研究者による「外部査読」の方式を徹底し、より客観的評価の高い刊行物としてのさらなる質の向上を図ることができた。ブックレット形式で刊行しているオープン・リサーチ・センター整備事業の「ヒューマンサービスリサーチ」を3冊刊行し、各研究プロジェクトでの研究成果報告が精力的に行われ、いずれもHP上で公開もしている。また学内の出版助成を受け『対人援助学キーワード集』を刊行した。</p>
項 目	内 容
2009 年度研究計画	<p>以下の各項目の2008年度の活動実績を踏まえながら2009年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>① 2009年度の研究計画について</p> <p>ふたつの大きな学外資金(オープンリサーチとGCOEプログラム)のうち、2009年度は、前者の最終年度となる。「学術フロンティア研究事業」(2000～2004)から継続されてきた当オープン・リサーチ・センター整備事業は、それまでの学部やキャンパスの垣根を超え、「対人援助」(Human Services)という課題の下で様々なプロジェクトや研究グループを生み出し今日に至っている。2001年度に設立された応用人間科学研究科も、このふたつの事業のキーコンセプトである「連携と融合」を共有するものであり、教学への展開事例の最初のものとも言える。</p> <p>2009年度は、これまでの研究や実践の蓄積を散在させるのではなく、事例データベース、トラブルソリューションバンクといった、研究や実践のアーカイブ化をはかり、そのことを含んだ地域連携の方法を検討する。対人援助や臨床活動において、不可避な「個人情報保護」と「情報公開と情報移行システム」の、一見すると倫理的に相反する問題について、私立大学がひとつの地域資源(文字どおりのバンク)として保管管理を行えるようなシステムづくりを検討したい。2009年度は、人間研が中心となって検討してきた「人を対象とする研究倫理」の具体的な仕組みが大学に設定され、研究審査や研究促進の方法として展開される。このことも受けて、個別研究内容を越えたメタ的共同作業として、個人情報を当該個人が管理し有効利用するための支援方法を、ひとつの具体的な成果として残していきたい。</p> <p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>今年度から、「対人援助学」の国際的展開として、中国河北省における障害児者の包括的支援に関する共同研究がはじまる。またこれまでの対人援助に関する実践・研究を踏まえて、諸職制の連携および既存学範を超えた融合的学問領域誕生の象徴として、09年11月に、第一回対人援助学会を開催することとなった。私立大学から発信される世界初の対人援助学会の立ち上げには、応用人間科学研究科などとも連携しながらその推進を支援していく。</p>

	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>対人援助にかかわる研究蓄積は、すでに応用人間科学科教学の中にもフィードバックされているが、今後は、この蓄積をもとに、いわゆる職業的対人援助職のためのロジックや方法論を超えて、広義の「サービス」や「個人のキャリアアップ」といった範疇にまで展開する必要がある。このことは障害児教育や福祉のみでなく、大学教育や企業教育などのより広範な領域における普遍的な内容への展開の可能性を持つものである。</p> <p>GCOE プログラムの参入などで、研究所のバックアップ体制にやや手不足間が出てきた。新たなファンド追求とともに、教学展開も加味した大学自体の「キャリアアップ」につながるような研究体制を吟味していくことが求められる。</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>2010年度以降の展開に向けて、これまでの実績を踏まえて「オープン・リサーチ・センター整備事業」の新しいテーマを追求する予定である。その上で、適宜公的研究資金などへ積極的に申請する。</p>

2008年度の研究における成果発表の状況

論文

- 太田隆士・稲生ゆみ子・松田光一郎・望月昭 総合支援学校高等部生徒の職場体験実習における機能分析とセルフ・マネージメント行動の獲得に向けて. 立命館人間科学研究, 17,107-115. 2008/11
- 松田光一郎・望月昭 行動障害を呈する自閉症者への積極的行動支援—機能的アセスメントに基づくコミュニケーション行動の改善. 立命館人間科学研究,17,117-128. 2008/8
- 松田光一郎・望月昭 メモリーノートを活用した体験実習におけるセルフ・マネジメント. 立命館人間科学研究, 18,49-62.2009/2
- 池田沙織・望月昭 視角障害者のパソコン操作における晴眼者との共用マニュアルの効果. 立命館人間科学研究, 18,87-97.2009/2
- 村本邦子 家族を通じて受け継ぐもの～戦争とトラウマ, 女性ライフサイクル, 18, 8-15, 2008/11
- 村本邦子 女性ライフサイクル研究所における性虐待防止の取り組み, 現代のエスプリ, 496, 174-185, 2008/11
- 村本邦子 良い子を作り出す親, 児童心理, 886, 19-24, 2008/11
- 武藤 崇 対象性バイアス研究におけるアブダクションとインダクションのベスト・バランスとは何か, 認知科学, 15, 482-492, 2008/09
- サトウタツヤ・巖島行雄・原聰 法科大学院における心理学教育, 法と心理, 7,78-82, 2008/8
- サトウタツヤ 雑誌『精神分析』における精神分析の展開 『精神分析』戦前編 解説・総目次・索引, 21-40, 不二出版, 2008/6
- 村本邦子 配偶者からの暴力についての理解とその予防, 更正保護, 59/6, 24-27, 2008/6
- 安田裕子・高田沙織・荒川歩・木戸彩恵・サトウタツヤ 未婚の若年女性の中絶経験—現実的制約と関係性の中で変化する, 多様な径路に着目して 質的心理学研究, 7,181-203.2008
- 弦間 亮・サトウタツヤ・水月昭道 学生相談室への来談・非来談の葛藤—KJ法による大学生の語りの検討—, 立命館大学人間科学研究 第17号, 47-59.2008
- 谷村ひとみ・サトウタツヤ・土田 宣明 『ふつうの結婚』を目指させた親の性別役割意識 —1980年代に結婚を経験した女性たちの語りから—, 立命館人間科学研究, 17, 61-74.2008
- 中村正 暴力加害者たち—コミュニケーション行動の特性—, 『日本の男性の心理学—もう1つのジェンダー問題』 柏木恵子・高橋恵子編集, 有斐閣, 275-280, 2008/6
- 中村正 男性と家族(第12章), 変容する家族問題(第13章), 宮本みち子・善積京子編『現代世界の結婚と家族』放送大学教育振興会, 2008/4
- 中村正 ハラスメント加害者の都合のよい考え方と対話し, 責任を召喚させる加害者臨床, 『現代のエスプリ』「加害者臨床—憎しみの環を断つために」491, 109-118, 至文堂, 2008/5

学術図書

- 望月昭・中村正・サトウタツヤ(編著) 『対人援助学』キーワード集. 晃洋書房(印刷中=2009/3)
- 望月昭・武藤崇・青木千帆子・吉岡昌子(監訳) 「ビギニング・コミュニケーターのためのAAC活用事例集: 機能分析から始めるコミュニケーション指導」. 福村書店(印刷中=2009/3)
- サトウタツヤ(編著) (印刷中=2009/3) TEM(複線径路等至性モデル)ではじめる質的研究 誠信書房
- サトウタツヤ・南 博文 編 質的心理学講座3 社会と場所の経験 東京大学出版会 p.268,2008/6
- 村本邦子 「大人びてきたわが子に戸惑ったとき読む本」PHP,186,2008/12
- 村本邦子 「からだどイメージ」, 心理臨床における臨床イメージ体験 藤原勝紀・皆藤章・田中康裕編, 創元社, 234-235, 2008/03
- 村本邦子 「エンパワーメントのカウンセリング」(第三章「DVへの危機介入」), 川島書房, 65-84. 2008/01

- 村本邦子・石川瞭子 「虐待をふせぐ～子どもを守る術」,誠信書房,第8章,149-159,2008/02,
 村本邦子 「児童虐待～なぜ起きる? どう対処すればいいのか?」 滋賀の部落(滋賀県同和問題研究所), 2007/07
 武藤 崇・原井宏明・吉岡昌子・岡嶋美代 「<あなた>の人生をはじめのためのワークブック:「こころ」との新
 しいつきあい方/アクセプタンス&コミットメント」,ブレーン出版, 2008/02

学会発表

- 望月昭・中鹿直樹(企画) 学生ジョブコーチという取り組み—大学という資源の活用— 第46回日本特殊教育
 学会大会発表論文集自主シンポジウム29, p88.2008/9
 望月昭 (特別講演) 特別支援教育と行動分析学. 日本行動分析学会第26回年次大会発表論文集,p.16,2008.8
 松本千穂・望月昭 選択機会設定による認知症高齢者の活動性への効果. 日本行動分析学会第26回年次大会発表
 論文集,p28 2008/8
 丹生卓也・月ヶ瀬悠輔・望月昭 発達障害児における携帯電話を使用した報告行動の獲得. 日本行動分析学会第26
 回年次大会発表論文集,p57
 武内将仁・本多恵美・鈴木史織・望月昭 就労実習におけるスケジュール表導入による生徒の行動の変化. 日本行
 動分析学会第26回年次大会発表論文集,p35, 2008/8
 山口真理子・望月昭 総合支援学校生徒の就業体験実習におけるセルフ・マネジメント・スキル向上に向けた支援
 内容の検討. 日本行動分析学会第26回年次大会発表論文集,p48,2008/8
 Tatsuya Sato & Jaan Valsiner FOUNDATIONS OF DIALOGICAL SELF: TENSION BETWEEN
 POTENTIALS OF THE FUTURE AND THE UNITY OF THE PAST. The Fifth International Conference on
 the Dialogical Self. August 26-29th
 Cambridge, UK,2008
 サトウタツヤ・西田美紀・福田茉莉・中島孝・園田裕美 SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL (1) —SEIQoL-DW を
 用いた調査法の検討— 第5回日本質的心理学会ポスター発表 於:筑波大学. 2008/11
 福田茉莉・サトウタツヤ・西田美紀・中島孝・園田裕美 SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL (2) —成人筋ジストロ
 フィー患者を対象とした継続的調査— 第5回日本質的心理学会ポスター発表 於:筑波大学.2008/11
 西田美紀・福田茉莉・サトウタツヤ・中島孝・園田裕美 SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL (3) —筋ジストロフィ
 ー患者の生活の語り— 第5回日本質的心理学会ポスター発表 於:筑波大学.2008/11
 福田茉莉・サトウタツヤ あるゲイ男性における自らの存在意義をめぐる語り～「ゲイ」と「ノンケ」の境界を行
 き来する当事者のあり方～ 第17回日本パーソナリティ心理学会発表論文集 p.200-201. 於:お茶の水大
 学.2008/11
 サトウタツヤ・福田茉莉 SEIQoL と構成主義-G.A.Kelly のパーソナル・コンストラクト理論を参照して- 第17回
 日本パーソナリティ心理学会発表論文集,p180-181. 於:お茶の水大学.2008/11
 若林宏輔・サトウタツヤ・小笠原安里子・藤田政博・堀田秀吾 地方裁判所・模擬裁判員裁判の評議データ析の試
 み 報告① 法と心理学会第9回大会発表プログラム,p19. 於:南山大学.2008/10
 サトウタツヤ・若林宏輔・小笠原安里子・堀田秀吾・藤田政博 地方裁判所・模擬裁判員裁判の評議データ分析の
 試み 報告② 法と心理学会第9回大会発表プログラム,p19. 於:南山大学.2008/10
 小松加奈子・藤田政博・サトウタツヤ 説得におけるチャンネルの違いが受け手の判断や態度に及ぼす影響—裁判
 員制度導入に向けた模擬裁判員実験— 法と心理学会第9回大会発表プログラム,p.20. 於:南山大学.2008/10
 村本邦子 南京虐殺の過去を共有し平和な未来を築く～演劇とドラマセラピーの手法を使って.第六回国際平和博
 物館会議,2008/10
 若林宏輔・片山潤・日高友郎・サトウタツヤ 公判前報道に対する理論的説示が判断に与える影響—裁判員制度に
 対する公判前報道への措置として—. 日本心理学会第72回大会発表論文集, p84. 於:北海道大学.2008/9

- 日高友郎・若林宏輔・片山潤・サトウタツヤ 就職活動中の青年の将来展望と語り方：語りの通時的変化に着目して. 日本心理学会第72回大会発表論文集, p10. 於北海道大学.2008/9
- 片山潤・若林宏輔・日高友郎・サトウタツヤ 一般色覚者と色弱者における色知覚体験の違いについて～環境と行動の視点から～. 日本心理学会第72回大会発表論文集, p259. 於北海道大学.2008/9
- サトウタツヤ・日高友郎・若林宏輔・片山潤 医療・健康・美容についてのうわさとおしゃべり：おしゃべりがうわさになる／ならない時の発生モデルの可能性. 日本心理学会第72回大会発表論文集, p238. 於北海道大学.2008/9
- 西田美紀・福田茉莉・サトウタツヤ・中島孝 SEIQoL-DWから捉えた個人のQoL-筋ジストロフィー患者の生活の語り
・ 第13回日本難病看護学会口頭発表 於タワーホール船橋.2008/8
- 村本邦子 体験的心理学に基づく平和教育の試み.日本人間性心理学会第27回大会 2008/8
- 中村正 加害者の社会再統合. 日本司法福祉学会第9回大会, 九州大学, 2008/8
- 中村正 男性問題の現在. 第27回日本心理臨床学会, 筑波大学, 2008/9

以上

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開	x
4/26	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館4-ニングルム1・2・3 他	33	33	×	
4/27	13:00~17:00	ファーストステップ研究会4月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ大阪東	10	10		
5/18	13:00~17:00	ファーストステップ研究会5月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ大阪東	10	9		
5/23	18:00~21:10	ポスターデザイン講習会		水月 昭道(立命館大学衣笠総合研究機構)	創思館403・404号室	25	20		×
5/24	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館4-ニングルム1・2・3 他	33	33	×	
5/24	14:00~17:00	第8回TOFFセミナー	学ぼう!不妊の当事者学.vol.1	荒木晃子(本学衣笠総合研究機構構成員研究員)他	大阪アカデミア	30	25		
5/27	18:30~20:30	第1回子どもプロジェクト研究会	イギリスにおける児童虐待への対応	櫻谷 眞理子(産業社会学部教授)	創思館310号室	10	15		
5/31	13:30~15:30	男性介護研究会第1回研究会	「さくらちゃん」の取り組み	丸尾多重子(NPO法人「つどい場 さくらちゃん」理事長)	創思館407号室	30	25		
6/6	18:00~20:00	シンポジウム福岡事件	死刑執行後の再審を求めて真実の発見と死者の尊厳	毛利甚八(ライター・マンガ原作者) 古川龍樹(生命山シユバイツァー寺住職) 大場史朗(九州大学法学部研究科院生) 浜田寿美男(奈良女子大学文学部教授) 指宿信(本学大学院法務研究科教授)	創思館カナルスルーム	100	71		
6/7	13:00~18:00	特別公開企画	「物語・トラウマ・倫理」アーサー・フランク教授を迎えて	立岩真也(本学大学院先端総合学術研究科・教授) サトウタツヤ(本学大学院先端総合学術研究科・教授) Arthur W. Frank(カルガリー大学社会学部・教授) 山口真紀(本学大学院先端総合学術研究科院生) 大谷通高(本学大学院先端総合学術研究科院生) 中田喜一(本学大学院先端総合学術研究科院生) 藤原信行(本学大学院先端総合学術研究科院生) 伊藤智樹(富山大学人文学部・准教授) 天田城介(本学大学院先端総合学術研究科・准教授) 松原洋子(本学大学院先端総合学術研究科・教授)	創思館カンファレンスルーム	138	101		
6/14	14:00~17:00	第9回TOFFセミナー	学ぼう!不妊の当事者学.vol.2	荒木晃子(本学衣笠総合研究機構構成員研究員)他	大阪アカデミア	30	24		
6/18	19:00~21:00	第20回対人援助学会準備会	障害者雇用促進と就労支援の現状課題	太田和宏(障害・高齢者雇用支援機構)	キャンパスラザ京都	30	20		
6/21	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館4-ニングルム1・2・3 他	33	33	×	
6/22	13:00~17:00	ファーストステップ研究会6月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10		
7/1	14:30~18:00	ポスターデザイン講習会	初心者向けポスターデザイン	水月 昭道(立命館大学衣笠総合研究機構)	創思館コアプロジェクト室	25	10		
7/11	18:30~20:30	子どもプロジェクト思春期部会第2回研究会	精神ケア キッズビデオにおける母子支援 一精神科診療所における発達障害と児童虐待の取り組みについて	大平麻幸代・富山貴子・山本奈々絵 (医療法人聖人会清水カレッジ カウンセラー)	創思館310	20	15		
7/12	13:30~15:30	男性介護研究会第2回研究会	男性介護者と支援者の全国ネットワーク(仮称)の設立について	津止 正敏(本学産業社会学部・教授/男性介護研究会代表)	至徳館401西会議室	30	15		
7/13	13:30~17:45	第2回質的研究発表会	「障害者のニーズ調査の自由記述に対するKJ法とテキストマイニングによるトリアンギュレーション」他	田垣正晋(大阪府立大学) 日高友郎(本学文学研究科M2) 市川みき(本学M1) 弦間亮(本学文学研究科M2) 城尾聡子(本学M2) 水月昭道(本学衣笠総合研究機構PD)	存心館704号室	40	14		
7/16	18:30~20:00	第21回対人援助学会準備会スペシャル企画	米国の被害者支援の形を超えて	春海 葉子(米国ケンブリッジ病院暴力被害者支援プログラム アドボケイト)	創思館401-402	40	20		
7/19	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館4-ニングルム1・2・3 他	33	33	×	
7/19	14:00~17:00	第10回TOFFセミナー	学ぼう!不妊の当事者学.vol.3	荒木晃子(本学衣笠総合研究機構構成員研究員)他	大阪アカデミア	30	14		
7/23	19:00~21:00	第22回対人援助学会準備会	高校における特別支援教育の現状・不登校・軽度発達障害・学業不振等の生徒に対する取り組みから	二井弘泰(京都府立朱雀高等学校教諭) 今泉祥子(京都府立桃山看護学校教諭)	キャンパスラザ京都	30	15		
7/25	18:00~20:30	ブレインバックシアター こころからだて考える歴史のトラウマ	アジアの若い世代が継承する戦争体験	アルマンド・ボルカス(カリフォルニア総合学研究所・講師) NPO法人ブレインバック・シアターらしんばん	創思館カンファレンスルーム	120	41		
7/26-27	10:00~17:00 9:30~16:00	過去を共有し、未来を築くワークショップ こころからだて考える歴史のトラウマ	アジアの若い世代が継承する戦争体験	アルマンド・ボルカス(カリフォルニア総合学研究所・講師) 笠井 綾	国際平和ミュージアム会議室	各日20	32		
7/27	13:00~17:00	ファーストステップ研究会7月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10		
8/7	14:00~18:00	ワークショップ	広汎性発達障害幼児の早期発見と早期対応	カーショ・コワルスカヤ(Yale大学准教授・子ども研究センター附属乳幼児センター所長)	創思館401-402	40	35		
8/8~10	9:00~18:30(8日) 9:30~18:30(9日) 9:30~15:30(10日)	第47回教育科学学会全国大会	憲法・教育基本法のゆえと私たちの暮らし・教育・格差社会日本と真の平等主義	佐貴浩(教育科学学会副委員長) 他	以学館(8/8-9) 朱雀キャンパス(8/10)	500	480		
8/9	14:30~17:00	第10回事例検討会	法律相談にかかわる場面の通訳	越尾邦仁(りべるで法律事務所、大阪弁護士会)	プレラにのみや4階	40	30		
8/24	13:00~17:00	ファーストステップ研究会8月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10		
8/25	14:00~16:00	小講演会	ネットいじめ - イギリスの現状と対策	Peter K.Smith(ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ教授・学校・家族研究ユニット所長)	創思館401-402	40	26		
9/6	1/5	第11回TOFFセミナー	生殖医療の現役医師が白衣を脱いで語るあなたへのメッセージ	藤田 圭以子(医師)	大阪アカデミア	20	15		
9/13-14		第11回日本老年行動科学会京都大会	高齢になってもまだまだ発達する	守屋慶子(本学名誉教授) 郎相陽(光州大学校教授) 宋 大炫(国立金南大学校名誉教授) 岡本多喜子(明治学院大学教授)	敬学館	200	120		
9/20	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館4-ニングルム1・2・3 他	33	33	×	
9/23	13:00~18:10	文化心理学の可能性	時間と空間とともにある個別の生を捉えるために	Jaen Valsiner(Clark University) 高橋 登(大阪教育大学) 矢守 克也(京都大学防災研究所) 松本 佳久子(奈良市社会福祉協議会) 山本 登志哉(早稲田大学) サトウタツヤ(本学)	創思館カンファレンスルーム	100	58		
9/24	19:00~21:00	第23回対人援助学会準備会	若手社員の現状に関する心理的側面と人事的観点	松本 典子	キャンパスラザ京都	30	15		
9/28	13:00~17:00	ファーストステップ研究会9月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10		
10/12	13:00~17:50	第3回質的研究発表会		日高 友郎(本学文学研究科 M2) 岡川 一英(応用人間科学研究科 M1) 木戸 彩恵(京都大学教育学研究科) 弦間 亮(本学応用人間科学研究科) 清水 芳美	創思館312	6	6	×	

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
10/17	13:00~16:30	第2回韓国合同研究会	法と心理	Min. C. Kim (Jonh Jay College) Eunro Lee(Chungbuk National University) 小松加奈子(本学大学院文学研究科) 若林宏輔(本学大学院文学研究科) 吉井匡(本学大学院法学研究科)	学術館第1研究会室	30	20	
10/18	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
10/22	18:00~21:30	対人援助学会準備会	生殖医療と対人援助 - <生殖の物語>に援助者は何が出来るか-	荒木晃子(本学衣笠総合研究機構客員研究員)	キャンパスラザ京都	30	12	
10/25	14:30~17:00	TOFFセミナー	共に語る不妊	内田クリニック院長 内田 昭弘 内田クリニック看護士長 永島 百合子	アカデミア	20	10	
10/25	13:00~17:00	ファーストステップ研究会10月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10	
10/29	17:00~20:00	障害児者包括支援に向けた国際連携(2)	中国各地方における自閉症療育施設の現状	方静(青島自閉症研究会・理事長) 張涛(西安市碑林区拉拉亭(ララソウ)特殊教育センター・主任) 望月 昭(本学文学部教授)	学術館第2研究会室	30	15	
11/4	17:00~20:00	研究法開発 自白研究会			朱雀会議室602	10	8	x
11/8	13:30~15:30	男性介護研究会 2008年第4回研究会	高齢者虐待を考える-最新統計調査から-	末長 秀大(大阪市生野区社会福祉協議会)	学術館第1研究会室	30	25	
11/8	13:00~16:30	連続企画 シネマで学ぶ「家族学」No.1	「誰も知らない」(映画タイトル)	中村 正(本学産業社会学部教授)	朱雀ホール	300	101	
11/15	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
11/18	17:00~19:40	Narrative and Self 講演会	ナラティブ・アイデンティティと自己物語における一貫性の問題	榎本 博明(名城大学) やまだようこ(京都大学) Dan McAdams (Northwestern University)	洋館959号室	150	65	
11/22	19:00~21:00	サイエンスカフェ	「難病を抱えながら生きる~不動の身体からの経験」知。-	船後靖彦(ALS患者:「しあわせの王様」執筆) 和中勝三(ALS協会近畿ブロック会長:「生きる力」執筆) 久住純司(ALS患者:ALS-ITP協同研究者/ピアサポーター) 林静也(ALS患者:ALS-ITP協同研究者) 松原洋子(立命館大学先端総合学術研究科 教授) 水月昭道(立命館大学人間科学研究所研究員/借侶) 日高友郎(立命館大学文学研究科 修士生)	和歌山ビッグ愛	45	30	
11/23	13:00~17:00	ファーストステップ研究会11月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10	
11/26	18:00~21:30	対人援助学会準備会	研究会		キャンパスラザ京都	30	15	
11/28	13:00~17:00	東アジアの自閉症の治療と教育の現状	東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関するシンポジウム	荒木 穂積(本学産業社会学部 教授) Tian Hui Ping(中国 星雨教育研究所 所長) Tran Thu Ha(ハナム ムイネーブ センター 副センター長)	創思館カナルス	150	59	
11/29	10:30~15:00	東アジアの自閉症の治療と教育の現状	東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関するワークショップ(調査研究の検討)		学術館第2研究会室	30	30	x
11/30		東アジアの自閉症の治療と教育の現状	東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する事例検討		学術館第2研究会室	30	30	x
12/6	14:00~16:30	第13回TOFFセミナー	「共に語る不妊」	荒木晃子(本学衣笠総合研究機構客員研究員)他	大阪アカデミア	30	24	
12/13	13:30~16:30	連続企画 シネマで学ぶ「家族学」No.2	「チーズとうじ虫」(映画タイトル)	講師 本学文学部教授 望月昭	朱雀ホール	300	78	
12/14	14:00~18:00	第2回質的研究発表		サウトツツヤ(本学文学部教授)	存心館704号	7	7	x
12/16	17:30~20:30	子どもプロジェクト「ステイ・ア・ソシア研究会」	高機能自閉症・アスペルガー症候群の当事者の活動に焦点を当てる	Stephen M. Shore	学術館第2研究会室	50	50	
12/20	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
12/20	13:30~15:30	男性介護研究会	男性介護の悲喜こもごも	芦田 豊実(介護当事者)	創思館411	20	20	
12/21	13:00~17:00	ファーストステップ研究会12月例会	ひきこもり青年の社会参加を考える		クレオ東	10	10	
12/24	18:00~21:30	対人援助学会準備会	研究会		キャンパスラザ京都	30	15	
1/10	13:00~17:00	Paul Hunt 国際シンポジウム	「健康権の再検討 - 近年の国際的議論から日本の課題を探る」	Paul Hunt(元国連健康権に関する特別報告者、エセックス大学ロースクール教授) 棟居徳子(立命館大学人間科学研究所PD研究員)	創思館1階 カンファレンスルーム	138	56	
1/17	13:30~16:30	シネマで学ぶ「家族学」No.3	「ディア・ピョンヤン」(映画タイトル)	聞き手 本学産業社会学部 教授 神谷 雅子 ヤン・ヨンヒ監督	朱雀ホール	300	123	
1/17	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
1/24	13:30~15:30	男性介護研究会	男性介護者支援を考える	飯島奈央(伊丹市社会福祉協議会)	学術館第2研究会室	30	16	
1/25	13:00~17:00	ファーストステップジョブグループ1月例会	今、必要な援助 - 「脱ひきこもり支援」FSJGの活動から見えたこと-	望月 昭(立命館大学人間科学研究所所長) 川北 稔(愛知教育大学講師) 野池 雅人(きょうとNPOセンター事業統括マネージャー)	クレオ東	30	12	
1/28	18:00~21:30	対人援助学会準備会	研究会		キャンパスラザ京都	30	13	
1/31	12:00~17:00	TOFFセミナー	共に語る不妊		アカデミア大阪	14	8	
2/13	10:00~14:30	高齢者プロジェクト	サポートネット終了式		末川記念会館講義室			x
2/21	13:30~16:30	連続企画 シネマで学ぶ「家族学」No.4	「蛇イチゴ」(映画タイトル)	講師 本学産業社会学部 教授 村本邦子	朱雀ホール	300	138	
2/21	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
2/22	13:30~17:00	ファーストステップ特別例会 講演会	今、必要な援助 - 「脱ひきこもり支援」FSJGの活動から見えたこと-	望月 昭(立命館大学人間科学研究所所長) 野池 雅人(きょうとNPOセンター事業統括マネージャー)	大阪市総合生涯学習センター	20	10	
2/25	18:00~21:30	対人援助学会準備会	研究会		キャンパスラザ京都	30	12	
2/26	18:30~20:30	子どもプロジェクト思春期部会 第3回研究会	社会的困難を持つ青少年の教育臨床からエンパワメントを考える	ヤン・ヤンイル(YMCA総合教育センター主任)	創思館310	20	15	
2/28-3/1	13:00~17:00	シンポジウム	ユニバーサルな社会を目指す地域づくり	本学産業社会学部教授 峰島 厚 愛知淑徳大学医療福祉学部教授 谷口 明広	舞鶴市商工観光センター	100		
3/6~10		東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー			カンファレンスルーム	100	61	
3/7		オープン公開報告会	オープンプロジェクト研究発表		創思館カンファレンス	100	51	
3/8	13:00~15:30	男性介護者と支援者の全国ネットワーク発足会	誰もが安心して暮らせる介護社会の実現を	社団法人認知症の人と家族の会代表理事 高見国生	末川記念会館講義室	100	153	
3/8	13:30~17:30	TEM研究会	TEMではじめる質的研究	渡辺芳之(帯広畜産大学 教授)	創思館303・304	30	25	
3/14	13:30~16:30	連続企画 シネマで学ぶ「家族学」No.5	「茶の味」(映画タイトル)	講師 本学応用人間科学研究科 教授 岡土郎	朱雀ホール	300	128	
3/14	8:00~18:00	子どもプロジェクトあひるくらぶ	アスペルガー症候群・高機能発達障害療育プログラム開発	本学人間科学研究所子どもプロジェクト参加教員・学生及び被験者	創思館1-2・3 他	33	33	x
3/15~17	10:00~16:00	M&Aプロジェクトシンポジウム	日本におけるアセプト&コミットメントセビーの可能性とその実際		キャンパスラザ京都	80	78	
3/25	18:00~21:30	対人援助学会準備会	研究会		キャンパスラザ京都	30	15	
3/26~28		国際交流基金ワークショップ	東アジア発達障害		中国北京	50	97	

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008 年度研究活動実績	以下の各項目の 2008 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>1) 拠点関連書籍について、1冊につき1つのファイルを作成。4182冊。</p> <p>2) 上記書籍データベースを含め、HP掲載情報を増補した。約15000files、計約390mega bytes。年間アクセスは約900万（ヒット数の累計）。</p> <p>3) 視覚障害を有する院生に対してテキストデータを提供する作業を行いつつ、研究、仕組を構築した。その成果として青木慎太郎編『視覚障害学生支援技法』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 6, 182p。 また、科学研究費・新学術領域研究（研究課題提案型）2008～2010年度「異なる身体のもとでの交信——本当の実用のための仕組と思想」採択。</p> <p>4) 音声文字化ソフトを上記の科研費により購入。2009年立命館大学で開催予定の学会大会での使用を目指し、実用化への研究を開始した。</p> <p>5) 「東アジア ALS 患者在宅療養研究シンポジウム」を2009年2月に実施。</p> <p>6) HP上に院生他について一人ひとりの頁を作成し、更新。拠点関係者については英語頁も作成し、更新。人名別のファイル（頁）の総数は1067。</p> <p>7) 6) の人別の頁と連動させつつ、院生他の業績を集積。掲載可能なものは全文をHP上に掲載した。2008年度について約500件。</p> <p>8) 難病者の（病院・施設からの）在宅移行に関する調査研究について三菱財団に研究助成申請中、等。他に院生が得ている研究助成は10件。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国際シンポジウム、患者会・NPOとの連携による企画を多数開催。特に上記5)やベルガモ大学複雑性認識論人類学研究所と先端研の包括的研究協力にもとづきワークショップを実施した。詳細は別紙添付＜企画＞参照。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>「生存学」創成拠点の研究組織を中心に運営している。日常的研究活動についてはG0（全体統括）の拠点リーダー、G1～G3の各副リーダー、プロジェクト・マネージャー事務局がMLや会議等で綿密に連絡をとり運営している。拠点全般に関わる運営については、執行部運営委員会、事業推進担当者全体会議（急ぎの場合はML）で審議・決定する。また、先端総合学術研究科専任教員2名・兼任教員1名が人間科学研究所運営委員として人間科学研究所の運営に参加しており、拠点を支える2組織の連携を促進している。</p>
	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>詳細は別紙添付＜学外研究費獲得状況＞および＜研究成果刊行状況等＞参照（GCOEは教員だけでなく院生等の活動も評価対象となるため、それらも含む）。特筆すべきは本センターが刊行しているセンター報告があるが、2008年度は6号刊行したが、そのうち5号はPDや院生などの若手研究者が編者になる機会を提供した。このことは若手研究者育成を目的の一つとするGCOEの理念に沿ったことである。</p>

項 目	内 容
2009 年度研究計画	<p>以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>① 2009 年度の研究計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報へのアクセシビリティの問題に関連し、著作権法など法・規範に関する調査・検討を継続。論文発表およびシンポジウム開催。 2) 学内助成（2009 年度 研究の国際化推進プログラム）を受け、GCOE<「生存学」創成拠点>英語をはじめとする HP 多言語化を更に進める。 3) 学内助成（2009 年度立命館大学学術図書出版推進プログラム）を受け、World Poverty and Human Rights, 2nd Edition, Polity Press, 2008 の日本語訳作業を院生中心に進める。 4) 雑誌『生存学』Vol.2 の刊行。 5) データベース登録・アーカイブ作成作業につき 2009 年度前半にいったんまとめ、今後の課題を検討し、より充実したものを作っていく。 6) 学術雑誌への論文掲載を継続強化するとともに、順次、本拠点の成果としての書籍を刊行していく。 7) 2009 年本学で開催予定の学会大会で音声文字化ソフトを使用する。 <p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プロジェクト・マネージャーほか 1 名の協力者を得て、英語での情報発信の更なる推進。HP 上のデータベース、既刊の書籍、論文、学会報告等の英語化。英語版パンフならびに英語版メルマガの活用による拠点の教育研究活動の周知ならびに共同研究の模索。 2) ベルガモ大学大学院複雑性認識論人類学研究所、他にリーズ大学の障害学研究センターとの連携・協働体制を強化、各国の患者団体・障害者団体との交流・連携を進める（ワークショップなどの開催）。 3) 2009 年に「東アジア ALS 患者在宅療養研究シンポジウム」で台湾、韓国、モンゴルの研究者・関係者ととともに、ALS、筋ジストロフィー等の難病に関わる（まずは東）アジアのネットワークを形成・維持する。 4) 2008 年日本で行った日韓障害者関連の会議の第 2 回を韓国で開催する。東京大「死生学」GCOE、日本 ALS 協会、アフリカ日本協議会等と連携し研究活動を行う。 <p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>2007 年度に組織した拠点の運営体制を基本的に維持しつつ、先端的研究成果の発信と若手研究者の育成が相乗効果をもたらすような組織運営を引き続き追究していく。</p> <p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三菱財団 ・ トヨタ財団 <p>等に申請する予定である</p>

2008 年度刊行物等成果一覧

(事業推進担当者(教員)は下線)

<論文等>

- ◆ 上農 正剛「最初期段階における医療介入の意味 (三) —バベルの呼び声・4」『言語』37-4(2008-4)
- ◆ 天田 城介「安楽死・1」(世界の感受の只中で・12) 『看護学雑誌』72-04(2008-04)
- ◆ 立岩 真也「有限でもあるから控えることについて・3—家族・性・市場 31」『現代思想』36-4(2008-4)
- ◆ 雨宮 処凛・山口 素明・橋口 昌治「座談会 生存の問題を街頭にだそう 生きろ!勝手に踊れ」『週刊金曜日』第698号, 12-17
- ◆ 堀田 義太郎「負担の配分—生存・義務・公共性をめぐる試論」『コーラ』04号(2008-04), 窓月書房
- ◆ 田島 明子 新世紀論壇 障害受容再考—障害受容をめぐる問い・10 「学校で教えた方がよいと思うこと」『地域リハビリテーション』3-4: 373-376 (三輪書店)
- ◆ 立岩 真也 「『現代思想』特集: 患者学—生存の技法」(医療と社会ブックガイド・81) 『看護教育』48-4(2008-4)
- ◆ 高田 一樹「さまの力学—企業の社会的責任論における利害について—」『経営倫理』, 52, 22-31, 経営倫理実践研究センター
- ◆ Philippe Van Parijs 2004. “Basic Income—A Simple and Powerful Idea for the Twenty-First Century”, *Politics & Society*, 32-(1):7-39=20080430 齋藤 拓・後藤 玲子 訳 「ベーシックインカム—21世紀を彩る簡潔で力強い観念」『社会政策研究』8:87-129 東信堂
- ◆ 齋藤 拓「ベーシックインカム(BI)論者から見た日本の「格差社会」言説」『社会政策研究』8:130-152 東信堂
- ◆ 橋口 昌治「非正規の若者たちの労組を結成」『月刊労働組合』No.518 (2008年4月号)
- ◆ 上農 正剛「障害聴覚児の言語獲得に対する親の影響—バベルの呼び声・5」『言語』37-5(2008-5)
- ◆ 立岩 真也「有限でもあるから控えることについて・4—家族・性・市場 32」『現代思想』36-5(2008-5)
- ◆ 吉野 靱 研究手帖「G I D I D」『現代思想』36-5(2008-5):222
- ◆ 天田 城介「解かれない問い—存在/生存の価値をめぐる」『緩和ケア』第18巻3号(特集「老いの時代の緩和ケア—どう捉え、実践するか」)
- ◆ 田島 明子 新世紀論壇 障害受容再考—障害受容をめぐる問い・11 「『障害受容』から「障害との自由」へ・1—「できないこと」の表象」『地域リハビリテーション』3-5: 457-459 (三輪書店)
- ◆ 田島 明子「イギリスでOTをしている日本人女性を訪ねて—イギリスの訪問作業療法」『地域リハビリテーション』3-5: 466-468 (三輪書店)
- ◆ 立岩 真也「『〈個〉からはじめる生命論』・2」(医療と社会ブックガイド・82) 『看護教育』

48-5(2008-5):- (医学書院)

- ◆ 堀田 義太郎 「能力と政治——『無能な者たちの共同体』（田崎英明 著）書評」『インパクション』163: 185-188
- ◆ 小林 勇人 「書評：根岸毅宏著『アメリカの福祉改革』」『社会福祉学』49(1), 199-201, 日本社会福祉学会
- ◆ 立岩 真也 「はしがき」<社会運動>研究会 編 2008/05/31『社会運動研究の現代的課題』, 科学研究費助成研究・基盤B 「分配と支援の未来」2007年度報告書, 138p.
- ◆ 山本 崇記 「総論」<社会運動>研究会 編『社会運動研究の現代的課題』, 科学研究費助成研究・基盤B 「分配と支援の未来」2007年度報告書, 138p.
- ◆ 山本 崇記 「戦後日本における社会運動研究と反差別解放運動——部落解放運動をめぐる問いを通して」<社会運動>研究会 編『社会運動研究の現代的課題』, 科学研究費助成研究・基盤B 「分配と支援の未来」2007年度報告書, 138p
- ◆ 宇野 善幸 「「動物的」であるとはどういうことか?——大岡昇平『俘虜記』」<社会運動>研究会 編『社会運動研究の現代的課題』, 科学研究費助成研究・基盤B 「分配と支援の未来」2007年度報告書, 138p
- ◆ 高橋 慎一 「構築主義の内なる本質——セクシュアリティ研究とアイデンティティの政治」<社会運動>研究会 編『社会運動研究の現代的課題』, 科学研究費助成研究・基盤B 「分配と支援の未来」2007年度報告書, 138p
- ◆ 渡辺 公三 「レヴィ=ストロース」『哲学の歴史』12、中央公論新社、2008年5月、pp.310-350
- ◆ 翻訳 齊藤 拓・後藤 玲子 Philippe Van Parijs, 「ベーシックインカム——21世紀を彩る簡潔で力強い観念」『社会政策研究』8
- ◆ 上農 正剛 「学校教育が障害聴覚児にもたらすもの (一) ——バベルの呼び声・6」『言語』37-6(2008-6)
- ◆ 天田 城介 「人口・1」(世界の感受の只中で・14)『看護学雑誌』72-06(2008-06) :- (医学書院)
- ◆ 立岩 真也 「有限でもあるから控えることについて・5——家族・性・市場 33」『現代思想』36-07(2008-6):14-25
- ◆ 松原 洋子・美馬 達哉 「ニューロエシックスの創生」『現代思想』36-07(2008-6):50-68
- ◆ 小泉 義之 「魂を探して バイタル・サインとメカニカル・シグナル」『現代思想』36-07(2008-6):80-96
- ◆ 川口 有美子 「ブレインマシンの人間的な利用 接続と継続に関する政治経済」『現代思想』36-07(2008-6):98-111
- ◆ マウリツィオ・ラッツァラート (訳=中倉 智徳) 「現代資本主義と 「美的/感性的な戦争」」『現代思想』36-07(2008-6):200-207
- ◆ 立岩 真也 「節約への熱情について」『京都新聞』2008-6-9 夕刊:2 現代のことば
- ◆ 高橋 慎一・倉橋 耕平・堀田 義太郎 研究ノート 「自由・監視・コントロール社会をめぐる議論動向」『女性・戦争・人権』9:131-148

- ◆ 天田 城介「この世界を社会学すること・6」(OTのための教養講座 Lesson 2 :社会学) 『作業療法ジャーナル』(42巻6号)
- ◆ 田島 明子「新世紀論壇 障害受容再考—障害受容をめぐる問い・12 『障害受容』から「障害との自由」へ・2—「個人の変容にのみとられること」の閉塞感『地域リハビリテーション』3-6 : 549-551 (三輪書店)
- ◆ 川口 有美子「書評:『我らクレイジー☆エンジニア主義』 リクナビNEXT Tech 総研 (講談社)」
- ◆ 川口 有美子 インタビュー 「終末期医療、どう考える～後期高齢者終末期相談支援料をめぐる」『シルバー新報』
- ◆ 川口 有美子「65歳から始まる後期高齢者医療制度?」『季刊福祉労働』119
- ◆ 立岩 真也 「『(個)からはじめる生命論』・3」(医療と社会ブックガイド・83)『看護教育』48-6(2008-6): (医学書院)
- ◆ 中倉 智徳「【訳者解題】企業の世界と知-政治」『現代思想』36(7), p. 207.
- ◆ 中倉 智徳「複数の社会学と「社会学」——社会学創設期における国際社会学協会の役割について」『社会学史研究』30: 111-124
- ◆ 上農 正剛「学校教育が聴覚障害児にもたらすもの(二)——バベルの呼び声・7」『言語』37-7(2008-7)
- ◆ 立岩 真也「有限でもあるから控えることについて・6——家族・性・市場 34」『現代思想』36-(2008-7)
- ◆ 立岩 真也「身体の現代・1」『月刊みすず』2008-7
- ◆ Hotta Yoshitaro "A Critique of Liberal Eugenics: Disability and the Problem of Inclusion", Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine. no. 3 (2008-7) : 86-107.
- ◆ 大谷いづみ 「「安楽な死・尊厳ある死」の位置取りをめぐる(特集:がんの緩和医療)」, 『Pharma Medica』, 26(7) : 47-51.
- ◆ 田島 明子 新世紀論壇 障害受容再考—障害受容をめぐる問い・13(最終回)「『障害受容』から「障害との自由」へ・3-「他なるもの」とは何か」『地域リハビリテーション』3-7 : 667-670 (三輪書店)
- ◆ 立岩 真也 「『現代思想』特集:ニューロエシックス—脳改造の新時代」(医療と社会ブックガイド・84)『看護教育』48-(2008-7): (医学書院)
- ◆ 天田 城介 「リハビリ・1」(世界の感受の只中で・13)『看護学雑誌』72-05(2008-05) (医学書院)
- ◆ 川口 有美子「在宅人工呼吸療法の終末期ケアと療養上の注意点」『難病と在宅ケア』2008.8月号、Vol14,NO.5:25-28 (日本プランニングセンター)
- ◆ 李恩周(立命館大学生存学研究センター客員研究員) 洪賢秀(東京大学医科学研究所客員研究員)、川口 有美子「韓国ALS療養者の在宅人工呼吸療法における現地調査」文部科学省グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点「東アジア難病患者ネットワーク構築に関する研究」報告書

- ◆ 立岩 真也 「有限でもあるから控えることについて・7—家族・性・市場 35」『現代思想』36-(2008-8)
- ◆ 立岩 真也 「身体の現代・2」『月刊みすず』2008-7
- ◆ 立岩 真也 「再掲・引用—最首悟とその時代から貰えるものを貰う」『情況』第3期 9-9(2008-8):59-76
- ◆ 立岩 真也 「もらったものについて・2」『そよ風のように街に出よう』76:34-39
- ◆ 川口 有美子 「心を伝えるブレイン・マシンへ」特集=生と死の脳科学—意識・倫理・エンハンスメント— 『科学』8月号 (Vol.78 No.8):877-880
- ◆ 立岩 真也 「『社会福祉学の「科学」性』(医療と社会ブックガイド・85)『看護教育』48-(2008-8):- (医学書院)
- ◆ 渡辺 公三 「アンケート:具体の世界が蓮の花のように開いた」『哲学の歴史』別巻、2008年8月、p.466
- ◆ 田島 明子 第2回作業療法ジャーナル研究助成・経過報告『作業療法ジャーナル』42-10:1063
- ◆ 上農 正剛 「学校教育が障害聴覚児にもたらすもの(四)—バベルの呼び声・9」『言語』37-9(2008-9)
- ◆ 立岩 真也 「無償/有償・結—家族・性・市場 36」『現代思想』36-11(2008-9)
- ◆ 立岩 真也 「集積について—身体の現代・3」『みすず』50-9(2008-9 no.564)
- ◆ 立岩 真也 「書評:『分別される生命』『生命というリスク』『週刊読書人』2753:4
- ◆ 山本 由美子 「出生前診断における『胎児診療』と『女性の自己決定』—助産師への質問紙調査をてがかりに」『生命倫理』18(1),186/201,日本生命倫理学会
- ◆ 立岩 真也 「『社会福祉学の「科学」性』・2」(医療と社会ブックガイド・86)『看護教育』48-(2008-9):- (医学書院)
- ◆ 田島 明子 「私の仕事私の思い 作品がつむぐ利用者と家族の温かい瞬間(タイトル編集者作成)」『老健(全国老人保健施設協会機関誌)』19-7:62
- ◆ 的場 和子 2008/09/25 リレーする善玉 DNA 第34回「DARK SIDE OF THE MOON」『GP net』55/7 (2008-10) (厚生科学研究所)
- ◆ 松田 亮三 「国の医療政策の現状と課題—供給政策を中心に」『(社)大阪自治体問題研究所研究年報』11:7-21
- ◆ 上農 正剛 「多言語状況への分岐—バベルの呼び声・10」『言語』37-10(2008-10)
- ◆ 立岩 真也 「他者を思う自然で私の一存の死?」『ちくま』2008-10
- ◆ 立岩 真也 「争いと償い—身体の現代・4」『みすず』50-10(2008-10 no.565)
- ◆ 立岩 真也 「半分の要約・1—家族・性・市場 37」『現代思想』36-(2008-10)
- ◆ 立岩 真也 「社会経験生かす大学院」『朝日新聞』2008-10-4 朝刊・京都:31 コラム「風知草」1
- ◆ 立岩 真也 「まえがき」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害/身体×社会』, 生存学研究センター報告3
- ◆ 山本 崇記 「序」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害/

- 身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
- ◆ 高橋 慎一・勝村 久司・田中 玲、ヨシノ ユギ・上瀧 浩子「パネルディスカッション 性同一性障害×患者の権利—現代医療の責任の範域」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 北村 健太郎「序」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 北村 健太郎「再録にあたって」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 北村 健太郎「C型肝炎特別措置法に引き裂かれる人たち」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 伊藤 実知子「診療情報の開示について」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 高橋 慎一「性同一性障害医療と身体の在り処—ガイドライン・特例法とトランスジェンダリズムの分析から」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ ヨシノ ユギ「GID という経験—「患者」としての3年間」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 立岩 真也「争いと争いの研究について」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 立岩 真也「性同一性障害についてのメモ」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 山本 崇記「あとがきにかえて—運動／研究をめぐる断想」山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3
 - ◆ 立岩 真也「「障老病異」個々で探究」『朝日新聞』2008-10-11 朝刊・京都:31 コラム「風知草」 2
 - ◆ Dumouchel, Paul ; Gotoh, Reiko Introduction, 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり—コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4
 - ◆ Hotta, Yoshitaro ; Ando, Michihito ; Kawaguchi, Yumiko "Reexamining the Quality of Life of ALS patients: Lessons from Previous Studies",立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり—コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4
 - ◆ 永田 貴聖「拡大するマニラ首都圏の日本人コミュニティ」, 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり—コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4

- ◆ 金城 美幸「シオニスト運動と「アラブ問題」——「解決」としてのアラブ住民移送」, 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり——コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4
- ◆ Niu, Geping "Comparing Liberalism and Confucianism, from the Perspective of Multiculturalism",立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり——コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4
- ◆ 天田 城介「あとがき」, 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 『多文化主義と社会的正義におけるアイデンティティと異なり——コンフリクト／アイデンティティ／異なり／解決?』, 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 4
- ◆ 立岩 真也「香川知晶『死ぬ権利』・1」(医療と社会ブックガイド・87)『看護教育』48-(2008-10):- (医学書院)
- ◆ 立岩 真也「良い死?」『朝日新聞』2008-10-18 朝刊・京都:31 コラム「風知草」3
- ◆ 立岩 真也 東京都の学校における卒業式・入学式についてのコメント『東京新聞』2008-10-27 朝刊:27
- ◆ 後藤 玲子 書評「<自由人>と<経済人>との間」, 橋本 祐子 『リバタリアニズムと最小福祉国家——制度的ミニマリズムをめざして——』, 勁草書房『社会福祉研究』103
- ◆ 上農 正剛「多言語状況への分岐 (二) ——バベルの呼び声・11」『言語』37-11(2008-11)
- ◆ 立岩 真也「税制について——家族・性・市場 38」『現代思想』36-(2008-11)
- ◆ 立岩 真也「争いと償い・2——身体の現代・5」『みすず』50-11(2008-11 no.566)
- ◆ 立岩 真也「経済を素朴に考えてみる」『朝日新聞』2008-11-8 朝刊・京都:31 コラム「風知草」4
- ◆ 立岩 真也「香川知晶『死ぬ権利』・2」(医療と社会ブックガイド・88)『看護教育』48-(2008-11):- (医学書院)
- ◆ 立岩 真也「税金の本義」『朝日新聞』2008-11-29 朝刊・京都:31 コラム「風知草」5
- ◆ 櫻井 浩子・西脇 由枝「医療的ケアを必要とする子どもの在宅介護を担う母親の状況」『立命館人間科学研究』17: 35-46.
- ◆ 渡辺 公三「もうひとつの豊かさの思考——レヴィ=ストロース生誕 100 年シンポジウムに向けて」『みすず』566 (2008-11)
- ◆ 渡辺 公三 「『神話論理』の反言語論的転回」『みんぱく』11月号、p.4
- ◆ 立岩 真也「税制について・2:「労働インセンティブ」続——家族・性・市場 39」『現代思想』36-15(2008-12)
- ◆ 立岩 真也「この時代について言えるだろうこと——身体の現代・6」『みすず』50-12(2008-11 no.567)
- ◆ 国澤 静子・白崎 朝子・村上 潔・生田 武志・大澤 信亮・栗田 隆子・杉田 俊介「(巻頭セッション) 労働と家族を問う——主婦・シングルマザー・女性フリーター」『フリーターズフリー』02:11-40

- ◆ 村上 潔「(巻頭セッション資料) 戦後日本における「主婦」・「パート」への評価・位置づけの整理と、課題析出のためのいくつかの指摘——「シングル」女性の問題も包括させて」『フリーターズフリー』02:41-43
- ◆ 上農 正剛「多言語世界に生きることの意味——バベルの呼び声・12 (最終回)」『言語』37-12(2008-12)
- ◆ 渡辺 公三 「速度と集中—レヴィ=ストロースの思考」『出版ダイジェスト』2008年12月1日号
- ◆ 渡辺 公三 「『神話論理』への反言語論的転回——1950年代のレヴィ=ストロースの探究」『思想』1016(2008-12) :10-25
- ◆ 渡辺 公三 訳『オランピア』に関するノート」=Levi-Strauss, Claude 2008 "Notes sur 《Olympia》", Bibliotheque de la Pleiade, Gallimard, 1670-1672. 『思想』1016 (2008-12) :26-29
- ◆ 小泉 義之 「意味の論理学、人種の腫瘍学——『悲しき熱帯』を読む」『思想』1016 (2008-12) :52-69
- ◆ 近藤 宏 訳 2008/12/05 「親族研究の未来——1965年度ハクスリー記念講演」= Levi-Strauss, Claude 1965 "The future of kinship studies: The Huxley Memorial Lecture 1965", Proceedings of the Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland. 『思想』1016 (2008-12) :187-208
- ◆ 渡辺 公三 訳 「レヴィ=ストロースにおける主体の解釈と生態的カタストロフィー」= Keck, Frederic 2008 "Dissolution du sujet et catastrophe ecologique chez Levi-Strauss." 『思想』1016 (2008-12) :277-296
- ◆ 立岩 真也 「「税制改革」がもたらしたもの」『朝日新聞』2008-12-13朝刊・京都:31 コラム「風知草」6
- ◆ 立岩 真也 「愚かでない「景気対策」」『朝日新聞』2008-12-20朝刊・京都:31 コラム「風知草」7
- ◆ 川口 有美子「書評: 寺本晃久・岡部耕典・末永弘・岩橋誠治『良い支援?』」 KINOKUNIYA 書評空間 BOOKLOG <http://booklog.kinokuniya.co.jp/kawaguchi/archives/2008/12/21/>
- ◆ 立岩 真也 「香川知晶『死ぬ権利』・3」(医療と社会ブックガイド・89) 『看護教育』48-(2008-12):- (医学書院)
- ◆ 川口 有美子「書評: 上野千鶴子・中西正司編『ニーズ中心の福祉社会へ』」 KINOKUNIYA 書評空間 BOOKLOG <http://booklog.kinokuniya.co.jp/kawaguchi/archives/2008/12/31/>
- ◆ 松田 亮三 「不健康のリスクに関する知識集積と伝達様式について」『ヒューマンセーフティ研究』(立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会) 1: 29-38.
- ◆ 松原 洋子 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツとリベラル優生主義」『倫理学研究』(38): 15-23
- ◆ 後藤 玲子 「格差論議の方法的省察——<正義>の観点と経済学的思考様式——」, 『社会政策研究』, No. 8, 特集「格差論再考」, 2008, pp. 9-33.
- ◆ 後藤 玲子 「多文化社会における社会的選択」, 『立命館言語文化研究』, vol.19.4, 2008,

pp.107-116.

- ◆ Gotoh Reiko A Note on Capability Comparison and Social Evaluation, Multiculturalism and Social Justice Working Paper Series, No.4
- ◆ 松原 洋子 「まえがき」、『特別公開企画「PTSDと「記憶」の歴史——アラン・ヤング教授を迎えて』、立命館大学生存学研究センター、生存学研究センター報告、3、2008年3月
- ◆ 松原 洋子 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツとリベラル優生主義」『倫理学研究』(38): 15-23、2008年4月
- ◆ 遠藤 彰 「木津川川原の訪花昆虫群集の季節推移」(河川生態学術研究会木津川研究グループ編)『第2フェーズ研究報告』(CDROM版): pp.17 リバーフロント整備センター刊(遠藤知二と共著) 08/08/11
- ◆ 小泉 義之 「意味の地質学、人類の腫瘍学——『悲しき熱帯』を読む」(『思想』2008年12月号)
- ◆ 立岩 真也・雨宮 処凛・岡崎 伸郎・浅野 弘毅(司会) 2009/01/25 「自殺をどうとらえるか」(座談会)『精神医療』53:8-33
- ◆ 藤原 信行「自殺(予防)をめぐる「物語」としての精神医学的知識の普及と自死遺族」『精神医療』53:78-84
- ◆ 西田 美紀「自己負担金が家計を圧迫——単身ALS患者の経済状況」『難病と在宅ケア』14(10): 19-22
- ◆ 川口 有美子「利用者側からみたわが国における難病者ケアの特徴および共に創るケアへの期待」『保健の科学』51(2)、杏林書店
- ◆ 野崎 泰伸「正義と反合理主義——リンギス・レヴィナス・デリダ」『人間社会学研究論集』4: 163-182, 大阪府立大学
- ◆ 佐藤 量「グローバル・シティと植民地都市——大連市の事例から」『中国関係論説資料』49 論説資料保存会
- ◆ 佐藤 量「国境を越える同窓会—植民地期大連の日本人学校同窓会の分析を通して—」『「満洲国」文学研究会紀要』「満洲国」文学研究会
- ◆ 佐藤 量「グローバル化時代における植民地出身者同窓会の機能と役割—中国大連市の中国人同窓会を事例に—」『京都文教文化人類学研究』5 京都文教大学大学院文化人類学研究科
- ◆ 立岩真也・大谷いづみ・天田城介+小泉義之・堀田義太郎「座談会 生命の臨界 I」『生存学』Vol.1
- ◆ 大谷いづみ・天田城介・立岩真也+小泉義之・堀田義太郎「座談会 生命の臨界 II」『生存学』Vol.1
- ◆ 天田城介・大谷いづみ・立岩真也+小泉義之・堀田義太郎「座談会 生命の臨界 III」『生存学』Vol.1
- ◆ 有馬 齊「安楽死を択ぶ自由と差別について」『生存学』Vol.1
- ◆ 坂本 徳仁「三途の川の船賃くらいケチんなくなってもいいんじゃない?」『生存学』Vol.1

- ◆ 藤原信行「自死遺族による死者への自殺動機付与過程の「政治」『生存学』Vol. 1
- ◆ 橋口昌治「働くこと、生きること、やりたいこと」『生存学』Vol. 1
- ◆ 遠藤彰「多細胞生物体の迷路」『生存学』Vol. 1
- ◆ 堀田義太郎・有馬斉・安部彰・的場和子「英国レスリー・バーグ裁判から学べること」『生存学』Vol. 1
- ◆ 西田美紀「独居 ALS 患者の在宅移行支援（一）」『生存学』Vol. 1
- ◆ 長谷川唯「独居 ALS 患者の在宅移行支援（二）」『生存学』Vol. 1
- ◆ 山本晋輔「独居 ALS 患者の在宅移行支援（三）」『生存学』Vol. 1
- ◆ 堀田義太郎「独居 ALS 患者の在宅移行支援（四）」『生存学』Vol. 1
- ◆ 堀田義太郎「介護の社会化と公共性の周辺化」『生存学』Vol. 1
- ◆ 安部彰「ケア倫理批判・序説」『生存学』Vol. 1
- ◆ 有吉玲子「医療保険制度」『生存学』Vol. 1
- ◆ 田島明子「「寝たきり老人」と／のリハビリテーション」『生存学』Vol. 1
- ◆ 三浦藍「アスペルガー症候群の医療化」『生存学』Vol. 1
- ◆ 野崎泰伸「障害者自立支援法の倫理的な分析」『生存学』Vol. 1
- ◆ 北村健太郎「侵入者」『生存学』Vol. 1
- ◆ 田島明子「渡英の準備段階でのこと」『生存学』Vol. 1
- ◆ 櫻井浩子「第 11 回世界乳幼児精神保健学会世界大会 (WAIMH) に参加して」『生存学』Vol. 1
- ◆ 小杉麻李亜「フィールドの極意——調査地、資金調達、苦しい時の対処法」『生存学』Vol. 1
- ◆ 永田貴聖「生存戦略としての身近な人々によるグローバリゼーション」『生存学』Vol. 1
- ◆ 青木慎太郎「啓蟄の北京を訪ねて」『生存学』Vol. 1
- ◆ 韓星民「初めての中国、初めての英語での研究発表」『生存学』Vol. 1
- ◆ 佐藤量「植民地都市大連からグローバル都市大連へ」『生存学』Vol. 1
- ◆ 寺下浩徳「国境と国交のあいだで」『生存学』Vol. 1
- ◆ 岡田和男「スリランカ——平和構築 NGO の活動調査」『生存学』Vol. 1
- ◆ 森下直紀「アメリカ合衆国における史料調査について」『生存学』Vol. 1
- ◆ 山本由美子「フランスで学ぶということ」『生存学』Vol. 1
- ◆ 大野藍梨「バルバドス、マルチニックにて」『生存学』Vol. 1
- ◆ 中倉智徳「Le fonds de Gabriel Tarde 調査報告および Tarde/Durkheim カンファレンス参加記録」『生存学』Vol. 1
- ◆ 青木慎太郎「はじめに」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6
- ◆ 青木慎太郎「大学における視覚障害者支援の概要」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6
- ◆ 韓星民「文字情報へのアクセスとその支援」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6
- ◆ 青木慎太郎「視覚障害者への情報支援と著作権法上の課題」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6

- ◆ 植村要「出版社の対応とその背景」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6
- ◆ 立岩真也「異なる身体のもとでの交信——COE&新学術領域研究で目指すもの」青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6
- ◆ 村上潔「「男女平等」を拒否する「女解放」運動の歴史的意義——「男女雇用平等法」に反対した京都のリブ運動の実践と主張から——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 葛城貞三「滋賀県難病連絡協議会の運動の展開」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 山口真紀「〈自己物語論〉再考——アーサー・フランクの議論を題材に——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 櫻井悟史「斬首を伴う「死刑執行人」の配置に関する考察——公事方御定書から旧刑法にいたるまで——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 松枝亜希子「抗うつ剤の台頭——1950年代～70年代の日本における精神医学言説——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 吉野靱「GID 正規医療の「QOL」／当事者の「QOL」——MTF 当事者への聞き取りから——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 渡邊あいこ「異なる身体)の交感可能性——コンテンポラリー・ダンスを手がかりに——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 中田喜一「オンラインセルフヘルプグループの可能性」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 三野宏治「日本におけるクラブハウス言説の潮流についての研究」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 坂本徳仁「人工内耳装用児におけるリテラシー・言語・学力」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 齊藤拓「ベーシックインカム(BI)論者はなぜ BI にコミットするのか?——手段的な BI 論と原理的な BI 論について——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 樋口也寸志「テロリストの選択理論モデル」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 角崎洋平「庶民金庫の貨幣貸付に対する「潜在能力」アプローチ——グラミン銀行との比較における考察——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 新山智基「ブルーリ潰瘍問題をめぐる国際 NGO の動向——神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクトの果たしてきた役割を中心に——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 牧昌子「高齢者控除の廃止がもたらした影響——2004 年度与党「税制改正大綱」を背景として——」『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 山本崇記「差別の社会理論における課題——A. メンミと I. ヤングの検討を通して——」

『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科

- ◆ 杉原努「障害者雇用率制度における「ダブルカウント方式」の考察」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 蔡 正倫「台湾鉄道 はいかに台湾経済に影響を与えてきたのか——台湾鉄道の歴史的・経済的文脈の考察から——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 森下直紀「「コンサベーション」の理念——アメリカ合衆国自然保護運動の発展と資源管理政策——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 川端美季「京都における公設浴場の設置過程及び運営に関する考察」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 貞岡美伸「代理出産の自己決定に潜むジェンダーバイアス」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 利光恵子「日本における受精卵診断の認可枠組み転換の背景」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 櫻井浩子「重症新生児の治療をめぐる「話し合い」のガイドライン」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 大村陽一「明治期の土木建設業と「朝鮮人」労働——京釜鉄道建設と日本土木建設業の進出——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 松尾教史「台湾時代における川合三良の文学作品——ある在内地人作家にとっての皇民化政策——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 倉本知明「老兵文学における家族表象——履彊と張大春の比較を中心に——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 近藤宏「他者の歴史を人類学者が問うことについて——口承研究に見る主体モデルの検討——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 石田智恵「1990年入管法改正を経た〈日系人〉カテゴリーの動態——名づけと名乗りの交錯を通して——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 橋口昌治「「若者の労働運動」——首都圏青年ユニオンの事例研究——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 定藤邦子「アメリカバークレー市における障害者自立生活——1989年の障害者自立生活者を事例として——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 近藤宏「『神話論理』の解読に関する一考察」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 石田智恵「〈日系人〉というカテゴリーへの入管法改正の作用——1990年以降の出稼ぎ日系人に関する研究動向——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 本岡大和「カナダの難民政策——再定住プログラムを中心に——」『Core Ethics』Vol. 5、立命館大学大学院先端総合学術研究科
- ◆ 牛革平「A Comparison of Tagore's Nationalism and Sun Yat-sen's The Three Principles

of the People from the Perspective of Nationalism” 『Core Ethics』 Vol. 5、立命館大学
大学院先端総合学術研究科

- ◆ 渡辺 公三 「国民国家批判としての文明論」『Rice, Life & Civilisation』報告書、韓国全
北大学、2009年3月
- ◆ 後藤 玲子 「日本における公的扶助制度の課題」、『世界の労働』（財団法人 日本 ILO 協
会）、2009年、第59巻、第1号、pp.18-24
- ◆ 後藤 玲子 「セン経済学と近代経済学との近くて遠い距離」『社会システム研究』、第18
号、2009年3月、pp.19-34
- ◆ 後藤 玲子 「暮らしと正義 第4話」『京都会議 2009』資料、2009年3月
- ◆ 後藤 玲子 「母子加算廃止への意見 京都生存権裁判<生活保護老齢加算・母子加算廃止
訴訟——平成18年（行ウ）第14号・平成19年（行ウ）第43号>における後藤玲子教授
の意見書および供述書」『賃金と社会保障』、No. 1486、2009年3月下旬号、2009年3月
- ◆ 松原 洋子 「まえがき」、有馬齊・天田城介 編『生存学研究センター報告 5 特別公開企
画「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」』、立命館大学生存学研
究センター、3-4、2009年1月
- ◆ 日高友郎・水月昭道・サトウタツヤ・松原洋子 「ALS患者の生活現場における技術や知識
の検討—ピア・サポート事例のフィールドワークから」『立命館人間科学研究』18:33-47、
2009年2月

<学術図書（分担執筆、編者等含）>

- ◆ 立岩真也 『良い死』、374p、筑摩書房、2008年
- ◆ 立岩 真也 「有限性という常套句をどう受けるか」上野 千鶴子・大熊 由紀子・大沢 真理・
神野 直彦・副田 義也編 『ケアという思想』、249ページ、岩波書店、ケアその思想と実
践1、2008年
- ◆ 中村 正 「男性と家族——父親政策の視点から——」「家庭内暴力と家族関係——男性・父
親の視点から——」、宮本みち子他編『現代世界の結婚と家族』、放送大学教育振興会、
pp.181-193/195-207、2008
- ◆ 大谷いづみ 「生きる権利・死ぬ権利——だけでなく」、上野 千鶴子・大熊 由紀子・大沢 真
理・神野 直彦・副田 義也編 『ケアという思想』、249ページ、岩波書店、ケアその思想
と実践1、2008年
- ◆ 北村 健太郎 「3-3 子どもと家庭の権利保障を理解する」堤 荘祐編『実践から学ぶ子ど
もと家庭の福祉』:53-57. 保育出版社、2008年
- ◆ 立岩 真也 「障害を持つ人が福祉士を育てる——資格・採用試験ランキング（福祉、医療、
保健）」朝日新聞教育・ジュニア編集部 編 20080510 『2009年版大学ランキング』、
朝日新聞出版、959p.
- ◆ 中村 正 「ハラスメント加害者の都合のよい考え方と対話し、責任を召喚させる加害者
臨床」『現代のエスプリ』「加害者臨床—憎しみの環を断つために」no. 491、pp.109-118、
至文堂、2008/5

- ◆ 天田 城介「古い衰えゆくことをめぐる人びとの実践とその歴史—私たちが自らを守らんがために現われてしまう皮肉かつ危うい事態について」上野 千鶴子・大熊 由紀子・大沢 真理・神野 直彦・副田 義也編『ケアすること—ケア その思想と実践 2』, 岩波書店
- ◆ 大谷 いづみ「生権力と死をめぐる言説」, 島藺 進・竹内 誠一 編 20080521 『死生学 1—死生学とは何か』, 東京大学出版会, 257p.
- ◆ 松田 亮三「医療制度改革と自治体」山本隆・難波利光・森裕亮編集『ローカルガバナンスと現代行財政』 京都:ミネルヴァ 書房,pp.52-64(分担執筆)
- ◆ 村澤 真保呂・中倉 智徳 翻訳『出来事のポリティクス—知 - 政治と新たな協働』, 洛北出版, 382p.
- ◆ サトウ タツヤ・南 博文 編『質的心理学講座 3 社会と場所の経験』, 東京大学出版会
- ◆ サトウ タツヤ「「社会と場所の経験」に向き合うためのサンプリング論再考」サトウ タツヤ・南 博文 編『質的心理学講座 3 社会と場所の経験』, 東京大学出版会, 233-260
- ◆ サトウ タツヤ・曾根博義 解説『精神分析《戦前編》』(全12巻・別冊1) 全3回配本
- ◆ 中倉 智徳 解説「マウリツィオ・ラッツァラートとガブリエル・タルドについて」『出来事のポリティクス—知 - 政治と新たな協働』, 洛北出版、pp. 364-368.
- ◆ 立岩 真也「人命の特別を言わず／言う」武川 正吾・西平 直 編『死生学 3—ライフサイクルと死』, 東京大学出版会, 256p.
- ◆ 松原 洋子「優生学と生命倫理」pp.115-136 慶應義塾大学教養研究センター『誕生と死』, 慶應義塾大学出版会, 237p.
- ◆ 立岩 真也「楽観してよいはずだ」, 上野 千鶴子・中西 正司 編 20081001 『ニーズ中心の福祉社会へ—当事者主権の次世代福祉戦略』, 医学書院, 296p.
- ◆ 山本 崇記・北村 健太郎 編 『不和に就て—医療裁判×性同一性障害／身体×社会』, 生存学研究センター報告 3, 199p.
- ◆ 竹中 聖人「京都の舞妓・芸妓を生まだす力—京都花街の変化」 pp.121-139 鯨坂 学・小松 秀雄 (編)『京都の「まち」の社会学』, 世界思想社, 242p
- ◆ サトウ タツヤ・曾根博義 解説『精神分析《戦前編》』(全12巻・別冊1) 全3回配本
- ◆ 後藤 玲子「＜社会的排除＞の観念と＜公共的経済支援政策＞の社会的選択手続き」, 武川・埋橋・福原編『シティズンシップとベーシックインカムの可能性 (シリーズ:社会政策の新しい課題と挑戦第3巻)』, 法律文化社, 256p.
- ◆ 松田 亮三「介護報酬と介護保険料はどのようにして決まるのか?」 新村聡編『介護福祉のための経済学』 東京:弘文堂,pp.94-108. (分担執筆)
- ◆ 萩原 康夫・松村 祥子・宇佐実 耕一・後藤 玲子 編『世界の社会福祉年鑑 2008 年度版』 旬報社, 575p.
- ◆ 後藤 玲子「市場と社会福祉」 萩原康夫・松村祥子・宇佐実耕一・後藤玲子編『世界の社会福祉年鑑 2008 年度版』, 旬報社, 2008 年, pp.3-29
- ◆ 後藤 玲子・阿部彩・斉藤拓「アメリカ合衆国」 萩原康夫・松村祥子・宇佐実耕一・後藤玲子編『世界の社会福祉年鑑 2008 年度版』, 旬報社, 2008 年, pp.217-255
- ◆ 小田川 華子・永田 貴聖・小ヶ谷 千穂 共著「フィリピン」 萩原 康夫・松村 祥子・宇佐

- 実 耕一・後藤 玲子 編『世界の社会福祉年鑑 2008 年版』：353-371, 旬報社
- ◆ 稲場 雅紀・山田 真・立岩 真也『流儀』、272 ページ、生活書院、2008 年
 - ◆ 稲場 雅紀・立岩 真也「アフリカ／世界に向かう」稲場 雅紀・山田 真・立岩 真也『流儀—アフリカと世界に向い我が邦の来し方を振り返り今後を考える二つの対話』、272 ページ、生活書院、2008 年
 - ◆ 山田 真・立岩 真也「告発の流儀」稲場 雅紀・山田 真・立岩 真也『流儀』、272 ページ、生活書院、2008 年
 - ◆ アマルティア=セン・後藤玲子『福祉と正義』、307 ページ、東京大学出版会、2008 年
 - ◆ 小林 勇人 翻訳: アマルティア・セン「帰結の評価と実践理性」アマルティア=セン・後藤玲子『福祉と正義』、307 ページ、東京大学出版会、2008 年
 - ◆ 岡 敬之助 翻訳: アマルティア・セン「開かれた不偏性と閉ざされた不偏性」アマルティア=セン・後藤玲子『福祉と正義』、307 ページ、東京大学出版会、2008 年
 - ◆ 天田 城介「〈ジェネレーション〉を思想化する——〈世代間の争い〉を引き受けて問うこと」、東 浩紀・北田 暁大編。『思想地図 vol.2 (特集・ジェネレーション)』。NHKブックス別巻。日本放送出版協会
 - ◆ 後藤 玲子 「アメリカの社会福祉 1990 年代以降の展開」(pp. 262-265), 「社会福祉の理念と思想 社会的正義」(pp. 300-303), 『エンサイクロペディア 社会福祉学』, いずれも中央法規, 2008
 - ◆ 後藤 玲子 「差別——ロールズ格差原理の再定式化——」藪下史朗・川岸令和編著『立憲主義の政治経済学』, 東洋経済新報社, 2008, pp.215-235
 - ◆ 渡辺 公三 「所属・規律・身体」『文化人類学事典』丸善、2009 年 1 月、pp.554-557
 - ◆ 佐藤 量「グローバル都市と植民地都市—中国大連市の場合」西川 長夫編『グローバリゼーションと植民地主義』人文書院
 - ◆ 青木慎太郎 編 『視覚障害学生支援技法』, 生存学研究センター報告 6, 182p.
 - ◆ 有馬 斉・天田 城介 編 『特別公開企画「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」』, 生存学研究センター報告 5, 243p.
 - ◆ 松田 亮三 編著 『健康と医療の公平に挑む——国際的展開と英米の比較政策分析』, 勁草書房, 266p.
 - ◆ 松田 亮三・棟居 徳子 編 『国際シンポジウム「健康・公平・人権：健康格差対策の根拠を探る」』, 生存学研究センター報告 7, 130p.
 - ◆ 『生存学』創刊号, 生活書院
 - ◆ 立岩 真也・岡本 厚・尾藤 廣喜 『生存権——いまを生きるあなたに』, 同成社, 141p
 - ◆ 安部 彰・有馬 斉 編 『ケアと感情労働 異なる学知の交流から考える』, 立命館大学生生存学研究センター, 生存学研究センター報告 8, 247p
 - ◆ 立岩 真也 『唯の生』, 筑摩書房, 424p.
 - ◆ サトウタツヤ 「うわさと災害」, 仁平義明 (編)『防災の心理学——ほんとうの安心とは何か』東信堂 pp.69-99
 - ◆ サトウタツヤ (編) 2009 年 03 月 『TEMではじめる質的研究——時間とプロセス』 誠

信書房, 236p.

- ◆ 後藤 玲子 「アメリカン・リベラリズム——福祉的自由への権利の不在」、下平好博・三重野卓編著『グローバル化のなかの福祉社会——21世紀の社会像』講座・福祉社会所収、ミネルヴァ書房、2009年、pp.157-176.
- ◆ 後藤 玲子 「福祉の思想と哲学」 pp.22-42, 「所得政策と福祉政策」 pp.166-169, 「雇用と福祉政策」(共著) pp.180-184. 後藤玲子・武川正吾・古川孝順編『新・社会福祉士要請講座4 現代社会と福祉——社会福祉原論』, 中央法規, 2009年3月

<口頭発表等>

- ◆ Yuki Shimomura, Tetsuya Fujikura, Kazuyuki Fukunishi, Tomoki Niiyama “Evaluating KIU Programs For BU Children” WHO Annual Meeting on Buruli ulcer 31 March to 2 April 2008, International Conference Center Geneva (CICG), Switzerland
- ◆ 橋口 昌治「安心して働くための10の方法」第7期ぎふ労働学校
- ◆ 雨宮 処凜・橋口 昌治ほか 2008/04/17 「雨宮処凜のインディーズ系メーカー全国キャラバン前夜祭！」創刊15周年『週刊金曜日』PRESENTS vol 4 in ASAGAYA/LOFT A
- ◆ 野崎 泰伸「デリダの思想と〈異なりの身体〉をめぐる倫理／政治経済」研究会 於：東京
- ◆ 立岩 真也「有限性という常套句をどう受けるか」(報告) 学術創成研究費「総合社会科学としての社会・経済における障害の研究」月例研究会 於：東京大学
- ◆ 佐藤 量「植民地出身者「同窓会」の社会的ネットワーク」立命館大学 国際言語文化研究所 日本人の国際移動研究会 2008年度第1回報告会 於：立命館大学
- ◆ 永田 貴聖 2008/05/31 「フィリピンから日本に移動する新たな人々——NGOによる日本への就労斡旋」日本文化人類学会第42回研究大会 於：京都大学吉田キャンパス
- ◆ 中倉 智徳 2008/06/07 報告「ガブリエル・タルド研究の現在」日仏社会学会研究例会 於：東京日仏会館
- ◆ 山口 真紀 指定質問1 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 大谷 通高 指定質問2 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 中田 喜一 研究報告1 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 藤原 信行 研究報告2 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 天田 城介 全体討議コメント2 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 立岩 真也 全体討議コメント3 シンポジウム「物語・トラウマ・倫理——アーサー・フ

- ランク教授を迎えて」 於：立命館大学
- ◆ 橋口 昌治「若年非正規労働者を中心とした労働組合運動の活動と位置づけ」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 野崎 泰伸「〈異なりの身体〉をめぐる倫理／政治経済について」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 矢野 亮「同和対策終焉以降の地区在住高齢者の生活変化とその困難——大阪市内住吉地区を事例に」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 田島 明子・坂下 正幸・伊藤 実知子・野崎 泰伸「1980年代のリハビリテーション雑誌のなかの「寝たきり老人」言説」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 仲口 路子・北村 健太郎・堀田 義太郎「1990年代～2000年代における「寝たきり老人」言説と制度——死ぬことをめぐる問題」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 有吉 玲子・北村 健太郎・堀田 義太郎「1990年代～2000年代における「寝たきり老人」言説と医療費抑制政策の接合」福祉社会学会第6回大会 於：上智大学
 - ◆ 立岩 真也 コメント 第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学◆渡邊 あい子「パフォーミングアーツを通じた「場」の生成——くめくるめく紙芝居」という試み」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 葛城 貞三・北村 健太郎「NPO 法人滋賀県難病連絡協議会の財政と課題——滋賀県行政との関わりを中心として」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 山本 晋輔・仲口 路子・長谷川 唯・北村 健太郎・堀田 義太郎「ALS 患者の在宅独居移行支援に関する調査研究（1）——重度 ALS 患者のための在宅独居空間整備に関する研究」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 堀田 義太郎・渡邊 あい子・仲口 路子・長谷川 唯・山本 晋輔・北村 健太郎「ALS 患者の在宅独居移行支援に関する調査研究（2）——1 分間×24 時間タイムスタディに基づくケアニーズの把握」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 仲口 路子・長谷川 唯・山本 晋輔・北村 健太郎・堀田 義太郎「ALS 患者の在宅独居移行支援に関する調査研究（3）——在宅移行の困難」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 長谷川 唯・仲口 路子・山本 晋輔・北村 健太郎・堀田 義太郎「ALS 患者の在宅独居移行支援に関する調査研究（4）——制度的諸問題」第22回日本地域福祉学会大会 於：同志社大学
 - ◆ 橋口 昌治「フランスの労働運動の現状——『フランス社会運動の再生』を手がかりに」第1回労働研究会 於：立命館大学
 - ◆ 田島 明子・仲口 路子・天田 城介 ポスター報告 「認知症高齢者に対する作業療法士の生活支援のための着眼点——2000～2007年の日本作業療法学会誌を手がかりにして」第42回日本作業療法学会 於：長崎県立総合体育館
 - ◆ 青木 慎太郎 報告 座談会「大学における視覚障害者支援の現状と課題 スーダンで今求められていること」 於：立命館大学
 - ◆ 植村 要 報告 座談会「大学における視覚障害者支援の現状と課題 スーダンで今求め

- られていること」 於：立命館大学
- ◆ 韓 星民 報告 座談会「大学における視覚障害者支援の現状と課題 スーダンで今求められていること」 於：立命館大学
 - ◆ 永田貴聖「フィリピン・マニラ首都圏日本人コミュニティの拡大と日本への新たな移動」日韓次世代学術フォーラム 第5回国際大会 於：ソウル大学校・韓国
 - ◆ 立岩 真也 報告・コメント 全国自立生活センター協議会総会 於：千里ライフサイエンスセンタービル
 - ◆ 川口 有美子 シンポジスト 全国自立生活センター協議会総会シンポジウム 「あなたは「尊厳死」を選びますか？ - 「生」と「死」の自己決定を問う -」 於：千里ライフサイエンスセンタービル
 - ◆ 橋口 昌治 報告「日本における非正規労働者の運動について—簡単な歴史と現状」マウリツィオ・ラッツァラート来日企画「労働・雇用・保障のオルタナティブ」 於：立命館大学
 - ◆ 中倉 智徳 2008/06/23 報告 マウリツィオ・ラッツァラート来日企画「労働・雇用・保障のオルタナティブ」 於：立命館大学
 - ◆ 佐藤 量 「国境を越える同窓会—1980年代以降の植民地大連出身者を追う」京都民俗学会 第214回報告会 於：ウィングス京都セミナー室A
 - ◆ 野崎 泰伸 報告「英国の障害学の現在」 於：立命館大学
 - ◆ 田島 明子 報告「英国の障害学の現在」 於：立命館大学
 - ◆ 小宅 理沙「森岡正博「膺内射精性暴力論の射程—男性学から見たセクシュアリティと倫理」へのコメント」京都生命倫理研究会
 - ◆ 永田 貴聖「集住地域をもたない外国人との係わり—人類学者とインフォーマントの関係の検討も含めて」日本移民学会第18回年次大会 於：東京学芸大学
 - ◆ 渡辺 公三 「ネオリベラリズム時代のモース人類学再読」分科会『ネオリベラリズム時代の人類学』日本文化人類学会研究大会、2008年6月、京都大学
 - ◆ 多賀 裕美・的場 和子・多田 洋子「ビハラー適応の範囲 : <寝たきり>高齢者6例の看取りから」第13回日本緩和医療学会 於：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ
 - ◆ 的場 和子「英国貴族院 ADTI2005 審議のその後 : Palliative Care 法案という選択」第13回日本緩和医療学会 於：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ
 - ◆ 吉田 一史美 報告「Parfit, Derek. 森村進訳. 1998. 『理由と人格—非人格性の倫理へ』第16章」出生をめぐる倫理研究会
 - ◆ 堀田 義太郎 報告「Parfit, Derek. 森村進訳. 1998. 『理由と人格—非人格性の倫理へ』第17章」出生をめぐる倫理研究会
 - ◆ 利光 恵子 報告 「出生前診断をめぐって」 於：立命館大学
 - ◆ 立岩 真也 報告「障害者運動・自立生活・メディア—映画『こんちくしょう』のスタッフと共に考える」
 - ◆ 野崎 泰伸 報告 「若い障害者」が怒らなくともよい社会へ」「障害者運動・自立生活・

メディア—映画『こんちくしょう』のスタッフと共に考える」

- ◆ 立岩 真也 報告 リプロダクション研究会
- ◆ 立岩 真也 「横塚晃一の時代」於：東京・府中市
- ◆ 堀田 義太郎「意思伝達装置、スイッチ、ALSの介護に必要なITの知識と療養環境」「進化する介護」in 京都
- ◆ 立岩 真也 「不動の人の生の技法」「進化する介護」in 京都
- ◆ 川口 有美子「医療との連携による安全な在宅介護について」「進化する介護」in 京都
- ◆ 野崎 泰伸 コメント「正義論・ケア論の視点から—論点の再確認とそこから考えられるべき問い」大阪府立大学現代思想研究会＋「生命の哲学」研究会 於：立命館大阪オフィス
- ◆ 中倉 智徳 報告「マルチチュードと保証所得について—M・ラッツァラートの議論を中心に—」ベーシックインカム日本ネットワーク準備委員会 第3回研究会 於：同志社大学今出川キャンパス 光塩館 1F 共同研究室
- ◆ 安部 彰 コメント 「ケアの論理と倫理—看護・感情・労働」 於：立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室
- ◆ 有馬 斉 コメント 「ケアの論理と倫理—看護・感情・労働」 於：立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室
- ◆ 的場 和子 コメント 「ケアの論理と倫理—看護・感情・労働」 於：立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室
- ◆ 天田 城介 コメント 「ケアの論理と倫理—看護・感情・労働」 於：立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室
- ◆ 立岩 真也 「なおす／なおらないことについて」（講演）日本リハビリテーション医学会 中部・東海地方会 於：名古屋
- ◆ 川口 有美子 シンポジスト「わが国のALS療養支援の現状と課題」第13回 日本難病看護学会学術集会 シンポジウム「難病ケアのこれからを考える」於：東京江戸川タワーホール船堀
- ◆ 松田 有紀子 書評「今西一『遊女の社会史—島原・吉原の歴史から植民地「公娼」制まで—』（文明国家）のまなざしと近代公娼制度」都市史研究センター 第8回「遊廓とその周辺研究会」 於：東京大学大学院人文社会系研究科・文学部第3会議室
- ◆ 川口 有美子「日本におけるALS療養支援の現状と課題—「単身患者と介護者の高齢化をどのように支えるか」」第13回日本難病看護学会大会 シンポジウム 於：タワーホール船堀
- ◆ 前川 智恵子「在宅神経難病患者に対する心理的支援の方向性—臨床心理士・保健師の立場から」 第13回日本難病看護学会大会 於：タワーホール船堀
- ◆ 西田 美紀「独居での在宅生活が困難となったALS療養者の事例検討—ナラティブアプローチを用いた支援の在り方」第13回日本難病看護学会大会 於：タワーホール船堀
- ◆ 長谷川 唯（代表）・竹林 弥生・西田 美紀 「独居での在宅生活が困難となったALS療養者の事例検討—社会福祉の立場から」第13回日本難病看護学会 発表抄録 於：タワーホ

ール船堀

- ◆ 仲口 路子「ALS と暮らす—在宅移行への困難—」第 13 回日本難病看護学会大会 於：タワーホール船堀
- ◆ 川口 有美子「特別演題」座長 報告者：長岡紘司「コミュニケーション無声伝」、山口信人、洋子「地域の中で生きる！—訪問看護と患者との絆」
- ◆ 長谷川 唯・竹林 弥生・西田 美紀・山本 晋輔・堀田 義太郎・川口 有美子 「独居での在宅生活が困難となったALS療養者の事例検討—社会福祉の立場から」第 13 回日本難病看護学会大会 於：タワーホール船堀
- ◆ 立岩 真也「良い死／唯の生」（講演）日本臨床死生学会大会 於：札幌
- ◆ 川口 有美子「人工呼吸器をつけて地域で暮らすために」第 3 回かながわ医療的ケア実務者研修、10：10～10：50 於：横浜ラポール
- ◆ 立岩 真也 講演 NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク”全国の集い”in 京都 於：同志社大学
- ◆ 安部 彰 報告「規範的社会理論の批判的検討—共通悪アプローチをめぐる」日本社会学理論学会 於：神戸大学
- ◆ 川口 有美子「介助を通して—障害者差別禁止法を考える」（コメント）NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク”全国の集い”in 京都 シンポジウム「当事者主権」9：30～11：00 於：同志社大学
- ◆ 立岩 真也 座長 NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク”全国の集い”in 京都 シンポジウム「当事者主権」9：30～11：00 於：同志社大学
- ◆ 立岩 真也「良い死？」（講演）リビング・ウィル勉強会「リビング・ウィル法制化の問題点」 於：神戸
- ◆ 櫻井 浩子 司会 出生をめぐる倫理研究会
- ◆ 利光 恵子 進行 出生をめぐる倫理研究会
- ◆ 松原 洋子 講師 出生をめぐる倫理研究会
- ◆ 佐藤 量「国境を越える同窓会—植民地大連体験者たちによる 1980 年代以降の交流」 「満洲国」文学研究会
- ◆ 坂本 徳仁 “Collective Rationality and Fairness as No-Envy,”日本経済学会秋季大会報告, 於：大阪
- ◆ 高田 一樹「公共と「私」の倫理学—私企業が担う公共性についての試論」第 59 回日本倫理学会 於：筑波大学第一エリア B 棟・H 棟
- ◆ 的場 和子・条生富美子・近藤智秋・多賀裕美・多田洋子・角暁美「家庭は看取りの場として機能しうるか」第 32 回日本死の臨床研究会年次大会 於：札幌コンベンションセンター
- ◆ 森田 敬史・近藤 智秋・条生 富美子・多賀 裕美・多田 洋子・角 暁美・的場 和子 「看取りの場における宗教者の役割について」第 32 回日本死の臨床研究会年次大会 於：札幌コンベンションセンター
- ◆ 立岩 真也「楽観主義者になる」「学びほぐし“Unlearn”シリーズ 2008 vol.2：「あたりま

- え」に対抗する“ばづくり・ひとづくり”実践者セミナー 於：(財) とよなか国際交流協会
- ◆ 永田 貴聖「フィリピン育ちの日比二世の来日：最近の動向について」マイグレーション研究会第 18 回例会 於：大阪女子短期大学
 - ◆ 韓 星民「ユーザー歴 25 年のマニアが語る拡大読書器の在り方——マルチモーダルにおける情報処理過程を中心に」第 111 回月例ロービジョン研究会 於：国立障害者リハビリテーションセンター学院 6 F 中研修室
 - ◆ 天田 城介・太谷 いづみ・小泉 義之・立岩 真也・堀田 義太郎「近業とその検討」(座談会) 生存学創生拠点公開座談会 於：立命館大学衣笠キャンパス・学術館
 - ◆ 中倉 智徳「タルドとデュルケムにおける協同と分業——集合性をめぐって」2008 年度日仏社会学会大会シンポジウム「タルド／デュルケムの現在」 於：専修大学生田キャンパス (神奈川県川崎市多摩区) 9 号館 2 階 92B 会議室
 - ◆ 小長谷 百絵・川口 有美子「難病や障害者のための自立支援法重度訪問介護とその制度を用いた在宅療養支援のあり方——医療と福祉の両面から」在宅ケアを支える制度・倫理研究会 於：京都
 - ◆ 永田 貴聖「新しいトランスナショナル主体としての日比二世たちの来日：最近の動向から」第 9 回アジア移民研究会 於：慶應義塾大学三田校舎
 - ◆ 天田 城介「いまある唯一のこの身体で生きていくこと」頭部外傷や病気による後遺症を持つ「若者と家族の会・京都支部」設立 5 周年記念・京都新聞大賞福祉賞受賞記念講演会 於：立命館大学朱雀キャンパス 4 階大講義室
 - ◆ 天田 城介・岡本 晃明・桑山 雄次 他「中途障害者が人間らしく生きるために」頭部外傷や病気による後遺症を持つ「若者と家族の会・京都支部」設立 5 周年記念・京都新聞大賞福祉賞受賞記念講演会 於：立命館大学朱雀キャンパス
 - ◆ 堀田 義太郎「介護保険をめぐる論点整理」ケア研究会 於：立命館大学創思館
 - ◆ 有馬 斉 「安楽死と差別」ケア研究会 於：立命館大学創思館
 - ◆ 安部 彰「ケア倫理批判・序説」ケア研究会 於：立命館大学創思館
 - ◆ 鄭 喜慶「連帯のために」日韓障害者運動史懇談会 於：立命館大学
 - ◆ 立岩 真也「これからのためのこれまで」日韓障害者運動史懇談会 於：立命館大学
 - ◆ 片山 知哉「文化を巡る分配的正義論——特にデフ・ナショナリズムの正当化とその制約条件について」障害学会第 5 回大会) 於：熊本学園大学 14 号館 1 階 高橋守雄記念ホール
 - ◆ 斉藤 龍一郎・植村 要・韓 星民「「スーダン視覚障害学生支援の現状と課題」スーダンに今必要な技術支援と当事者による支援」障害学会第 5 回大会 於：熊本学園大学 14 号館 1 階 高橋守雄記念ホール
 - ◆ 植村 要・青木 慎太郎・韓 星民「スーダン視覚障害学生支援の現状と課題——立命館大学における支援の現状からスーダンでの支援を考える」障害学会第 5 回大会 於：熊本学園大学 14 号館 1 階 高橋守雄記念ホール
 - ◆ 韓 星民・大河内 直之 「視覚障害者における情報処理特性を考慮した支援技術開発—能動的情報処理特性と受動的情報処理特性を中心に—」

障害学会第5回大会 於：熊本学園大学 14号館1階 高橋守雄記念ホール

- ◆ 小林 勇人「冗談でも、本気ならなおさら、"Don't Kill Me!"—ニューヨークのワークフェア政策の「現実」」山森亮ゼミ 2008年度オープン・ワークショップ第2回 於：同志社大学今出川キャンパス弘風館 32番教室
- ◆ 立岩 真也 リビング・ウィルについてのコメント 朝日放送『NEWSゆう』
- ◆ 渡辺 公三 「国民国家批判としての文明論」『Rice, Life & Civilisation』センター国際シンポジウム、韓国全北大学、2008年10月
- ◆ 韓 星民「障害を持つ技術者のサイエンスコミュニケーターとしての役割—障害を持つ支援技術開発者の工学部での講義経験から」科学技術社会論学会第7回年次研究大会 於：大阪大学豊中キャンパス 大学教育実践センター共通教育管理講義棟 2F
- ◆ 日高 友郎・久住 純司・水月 昭道・堀田 義太郎・長谷川 唯・山本 晋輔・中田 喜一「神経難病患者と大学生によるアシスティブ・テクノロジー・ワークショップの実践」科学技術社会論学会 於：大阪大学
- ◆ 吉野 靱 「性同一性障害「正規医療」における QOL 向上を検討する」（報告要旨）第一回クィア学会 於：広島修道大学
- ◆ 渡邊あい子「〈異なる身体〉の交感可能性—コンテンポラリー・ダンス を手がかりに」障害とアート研究会第4回研究会 於：京阪電車 なにわ橋駅 アートエリアB 1
- ◆ 山本 晋輔・長谷川 唯「独居 ALS 患者の住環境整備における現状と課題」第8回日韓中住居問題国際会議・プレシンポジウム 13:00~15:00 於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 西田 美紀・堀田 義太郎「進行性難病患者の居宅生活に向けた介入の必要性と課題」第8回日韓中住居問題国際会議・プレシンポジウム 13:00~15:00 於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 長谷川 唯・西田 美紀・堀田 義太郎「独居 ALS 患者における制度的支援体制の事例検討」第8回日韓中住居問題国際会議・プレシンポジウム 13:00~15:00 於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 佐藤 量「グローバル化時代における反転した植民地体験—植民地出身中国同窓会の分析—」日本社会学会 植民地をめぐる問題（民族・エスニシティ（1）） 於：東北大学
- ◆ 矢野 亮「被差別部落における政策的展開と当事者運動をめぐる錯綜—大阪市内住吉地区における高齢者への聞き取り調査を通じて—」日本社会学会 差別・マイノリティ（2） 於：東北大学
- ◆ 松枝 亜希子「抗うつ剤普及のポリティクス」日本社会学会 ポスターセッション 於：東北大学
- ◆ 山本 由美子「出生前診断と助産師活動における現状と課題—ジェンダーバイアスを超えて」第20回生命倫理学会年次大会
- ◆ 永田 貴聖「集住地域をもたない在日移民・フィリピン人への人類学的調査と人類学者の位置への一考察」第57回現代人類学研究会（特集「移民労働者」） 於：東京大学駒場キャンパス
- ◆ サトウ タツヤ・西田 美紀・福田 茉莉・中島 孝・園田 裕美「SEIQoL-DW から捉えた

- 個人の QoL(1) —SEIQoL-DW を用いた調査法の検討」日本質的心理学会第 5 回大会
於：筑波大学
- ◆ 福田 茉莉・サトウ タツヤ・西田 美紀・中島 孝・園田 裕美「SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL(2) —成人筋ジストロフィー患者を対象とした継続的調査」日本質的心理学会第 5 回大会 於：筑波大学
 - ◆ 西田 美紀・福田 茉莉・サトウ タツヤ・中島 孝・園田 裕美 「SEIQoL-DW から捉えた個人の QoL(3) —筋ジストロフィー患者の生活の語り」日本質的心理学会第 5 回大会 於：筑波大学
 - ◆ 韓 星民・佐藤 貴宣（大阪大学人間科学研究科）「支援技術開発における、技術者コンフリクト現象の状況論的アプローチ—支援技術開発者とユーザーとの相互行為を中心に」（ポスター発表要旨）日本質的心理学会第 5 回大会 於：筑波大学 総合交流会館
 - ◆ 山本 由美子「出生前診断と助産師活動における現状と課題—ジェンダーバイアスを超えて」第 20 回生命倫理学会年次大会
 - ◆ 野崎 泰伸「倫理学は規範をどのように問うべきか—規範の正当化主義批判」関西倫理学会 於：京都大学
 - ◆ 立岩 真也「良い死／唯の生」日本宗教連盟 第 3 回宗教と生命倫理シンポジウム 於：東京・日本青年館
 - ◆ 横田 陽子 指定質問「鳥インフルエンザの人類学的研究」於：立命館大学衣笠キャンパス
 - ◆ 新山 智基 指定質問「鳥インフルエンザの人類学的研究」於：立命館大学衣笠キャンパス
 - ◆ 立岩 真也「順序について—なぜ家族は優先される／されないことがあるのか」（講演）京都市児童福祉センター職員研修会講演会，於：京都市児童福祉センター
 - ◆ 天田 城介「〈同一性〉の社会学—生政治をめぐるエコノミー」医療社会学研究会 12 月定例研究会. 13：00～17：00 於：キャンパスプラザ京都第 2 会議室
 - ◆ 渡辺 公三 2008/12/06 「レヴィ=ストロースの 1950 年代の探究」『今日のレヴィ=ストロース』報告 於：日仏会館
 - ◆ 的場 和子 報告「イギリス NHS 内での緩和ケア」ケア研究会 於：立命館大学創思館
 - ◆ 松枝 亜希子 報告「抗うつ剤普及のポリティクス—1950 年代～1970 年代における言説」ケア研究会 於：立命館大学創思館
 - ◆ 立岩 真也「自立支援法の見直しと今後の課題」（講演）大阪障害者自立セミナー2008「自立支援法の見直しと今後の課題」，主催：障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議（障大連）於：大阪府福祉人権推進センター（ヒューマインド）
 - ◆ 田島 明子 2008/12/07 報告「高齢期における維持期の作業療法」平成 20 年度東京都作業療法士会現職者選択研修（身障）講師 於：首都大学東京荒川キャンパス大視聴覚室
 - ◆ 村上 潔「女性の「労働」と所得／保障の関係再考」社会文化学会第 11 回全国大会 於：東京外国語大学府中キャンパス
 - ◆ 川口 有美子 報告「人工呼吸器をつけて地域で暮らすために～NPO 法人 A L S / MN

Dサポートセンターさくら会「進化する介護」のこれまでとこれから〜」第1回 医療的ケア全国交流会、13時～17時 於：京都教育大学

- ◆ 渡邊 あい子「〈異なる身体〉の交感可能性——コンテンポラリー・ダンスをてがかりに」アートミーツケア学会、於：アートエリア B1
- ◆ 立岩 真也「すこし手伝ったら何かできるだろうか」津山直子さん公開インタビュー「アパートヘイトから民主化へ 南アフリカの人々と歩んできた 20 年」於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 新山 智基「グローバルな感染症対策ネットワークの構築可能性について——ブルーリ潰瘍を事例として」津山直子さん公開インタビュー「アパートヘイトから民主化へ 南アフリカの人々と歩んできた 20 年」於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 小林 勇人「ワークフェアの二つのモデルの競合と帰結——カリフォルニア州の福祉改革の事例をもとに」社会的包摂政策研究会第6回研究会 於：大阪市立大学文化交流センター
- ◆ 牧 昌子「2004 年度与党「税制大綱」の検証——高齢者政策の再検討の手がかりとして」第5回老い研究会
- ◆ 松原 洋子「胎児標本問題から私たちが学びとるべきものは何か」、ハンセン病市民学会第4回総会・交流集会、多磨全生園（パネリスト）
- ◆ 松原 洋子「『優生学』という問題系の歴史的検討」、「先導科学考究」、総合研究大学院大学（講演）
- ◆ Matsubara, Yoko. "Session: History of Eugenics in East Asia,"The International Society for the History, Philosophy and Social Studies of Biology (ISHPSSB) Off-Year Workshop in Kobe, Japan Biology Studies in East Asia, Kobe University, 7 November 2008 (Organizer)
- ◆ Matsubara, Yoko. "The Patient-Centered Approach in the Cyborg Ethics,"2nd International Workshop on Cybernetics - Roboethics and Cybernetics, University of Tsukuba, 28 November 2008 (Invited Presenter)
- ◆ 松原 洋子「障害や病をもつ当事者による工学系教育の実践」、科学技術社会論学会第7回年次研究大会ワークショップ、大阪大学豊中キャンパス（報告・オーガナイザー）
- ◆ 西 成彦 シンポジウム「ブラジル移民百年と文学～比較文学のフロンティア～」(司会、パネラー)、日本比較文学会関西大会（於：富山大学）
- ◆ 西 成彦 シンポジウム「格差拡大社会とグローバリズム④／格差社会と文学 [2] 弱きものとしての子供」(司会)、立命館国際言語文化研究所（於：明学館）
- ◆ 西 成彦 シンポジウム「世界の移民・亡命文学の現況と可能性、第5部：日本語圏」(司会)、世界文学における混成的表現形式研究会（於：名古屋市立大学）
- ◆ 後藤 玲子 招待講演「福祉と正義のダイアログ」麗澤大学企業倫理研究センター公開研究会、麗澤大学生涯教育センター、2008年7月31日。
- ◆ 後藤 玲子 招待講演「セン経済学と近代経済学との近くて遠い距離」、学術公開シンポジウム「現代経済分析の視点——新しい経済学を求めて」、立命館大学社会システム研究所、2008年11月18日。

- ◆ 後藤 玲子 「自由への権利の定式化再考：鈴木興太郎報告へのコメント」2008 年度日本法哲学大会統一テーマ企画「法と経済：制度と思考法をめぐる対話」, 学習院大学, 2008 年 11 月 23 日
- ◆ 遠藤 彰 昆虫をめぐる日本の文化：人の内外、細部の「むし」をめづること『日仏友好百五十年記念国際シンポジウム』滋賀県立琵琶湖博物館（招待講演）08/07/20
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「隠喩としてのミミズ」08/04/20
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「ドーキンジアン・アニマルの世界」08/05/18
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「チェシャー猫の笑いのように」08/06/15
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「染色体のガヴオット」08/07/27
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「バイオモルフ・ランドの探検」08/08/31
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす I>NHK 文化センター京都 「生成原理としてのブリコラージュ」08/09/21
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす II>NHK 文化センター京都 「蘭と蜂の愛のかたち：花の仕掛け」08/10/19
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす II>NHK 文化センター京都 「アンコウの時間：大きな魚と小さな魚」08/11/16
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす II>NHK 文化センター京都 「ニワシドリの美学：テリトリとコード変換」08/12/21
- ◆ 小泉 義之 「保険セールスマンとしてのハイデガー」（哲学会、2008 年 10 月）
- ◆ 松原 洋子 総括コメント 慶應義塾大学 GCOE プログラム 哲学・文化人類学プロジェクト 2008 年度国際シンポジウム 「医療人類学の最前線 I：遺伝、神託、バイオテクノロジー」
- ◆ 松田 亮三 司会 パネルディスカッション「日本における健康権保障の課題」国際シンポジウム 「健康権の再検討：近年の国際的議論から日本の課題を探る」於：立命館大学衣笠キャンパス
- ◆ 櫻井 浩子 『ネットワークの構築』 出口の見える学習の取り組み」愛知県豊田市交流館 主事研修講師、13：30～15：30、於；愛知県豊田市青少年センター （社会教育学）
- ◆ 西田 美紀 講義「重度訪問介護利用者の医療的ケア・介護支援 ——ALS（筋萎縮性側索硬化症）を中心に」JCIL 主催、重度訪問養成研修
- ◆ 吉野 靱「何故いま、ナルシストランスなのか」クィア・スタディーズ研究会 「ナルシストランス宣言」
- ◆ 立岩 真也 コーディネーター 「ナルシストランスの可能性～社会制度・医療・身体をめぐる」クィア・スタディーズ研究会 「ナルシストランス宣言」

- ◆ 田島 明子 2009/01/31 報告「「寝たきり老人」とのリハビリテーション—特に1990年以降について」第76会 SPSN (Social Policy Studies Network)研究会 於: 法政大学市ヶ谷キャンパス 80年館7階「大会議室1」
- ◆ 渡辺 公三 「闘うレヴィ=ストロース」一橋大学人類学セミナー、2009年1月30日
- ◆ 村上 潔 パネラー ジュンク堂書店大阪本店トークセッション 『フリーターズフリー』vol.2 出版記念 労働にとって「女性」とは何か—家族・性・労働をめぐる(栗田隆子×生田武志×村上潔) 於: ジュンク堂大阪店
- ◆ 野崎 泰伸「「最低限のニーズ」は存在するか—とくに〈承認〉に焦点化して」研究会 於: 大阪府立大学
- ◆ 川口 有美子「当事者の目線で語る医療的ケア」15:30~17:00 主催;NPO法人医療的ケアネット, 於:京都アスニーホール
- ◆ 野崎 泰伸「「生の無条件の肯定」は正義だ!—倫理学からの・倫理学への挑戦」研究会 於: 六甲道勤労市民センター
- ◆ 川口 有美子「リヴィング・ウィルと尊厳死」懐疑的立場から 講演 1 17:30~18:10 日本尊厳死協会 中村年男、講演 2 18:10~18:50 日本ALS協会 川口有美子、討議 18:50~19:30 於:からすま京都ホテル
- ◆ 松原 洋子 司会「東アジア ALS 患者在宅療養研究シンポジウム」於: 立命館大学
- ◆ 松原 洋子 司会 セッション IV「技術と障害者から始まるコミュニティ・デザイン」国際研究フォーラム「ライフデザインと福祉(Well-being)の人類学」 於: 立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム
- ◆ 阪田 弘一・山本 晋輔「スペース ALS-D—介護×ダンス×建築」10:10-10:40 国際研究フォーラム「ライフデザインと福祉(Well-being)の人類学」 於: 立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム
- ◆ 川口 有美子「ALSの在宅ケア」日本在宅ケア学会 分科会報告 15:15~17:00 於: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス (学術情報センター/総合教育研究棟)
- ◆ 川口 有美子 T I Lベンチレーターネットワーク設立集会 13:00~ 於: 東京国際フォーラム
- ◆ Matsubara, Yoko “Everyday Life with a Home Ventilator and Communication Aid Devices: A Case of Japanese Patient with ALS,” Workshop on the Mechanization of Empathy in Health Care, Ritsumeikan University
- ◆ 西 成彦 国際ワークショップ「東南アジアとの通路—日本文学・文化研究理論を考える—」(総合討議・司会)、立命館国際言語文化研究所 (於: 洋洋館)
- ◆ 天田 城介 「(報告+コメント)」、〈ケア〉を考える会第43回例会、3月22日(日)、13:00~、於: 京都市 (二条)。
- ◆ 後藤 玲子 招待報告「くらしと正義のメッセージ」第3回京都会議 2009年3月14日、京都アスニー
- ◆ Gotoh, Reiko Local Justice, Global Justice & Intergenerational Justice—Conditions of “Unconditional hospitality” 5th Annual International Conference: *Multiculturalism*

and Social Justice, March 22 & 23, 2009 Ritsumeikan University

- ◆ Gotoh, Reiko “A Note on Capability Comparison and Social Evaluation,” 2009 Pacific Rim conference, Western Economic Association International, March 25, 2009 Ryukoku University
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす II>NHK 文化センター京都 「めくるめく意識」 09/01/18
- ◆ 遠藤 彰 <生物の世界を語りなおす II>NHK 文化センター京都 「自然の総譜を描くこと」 09/02/22

2008度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開非公開 x
5/18	13:00-16:50	"赤ちゃんポスト"について考える	慈恵病院の「赤ちゃんポスト」に想を得て制作された映画を題材に、「赤ちゃんポスト」について考える	土屋貴志(大阪市立大学大学院文学研究科・准教授) 松原洋子(本学大学院先端総合学術研究科・教)	大阪オフィス2B教室	20	20	主催	
5/23	18:00-21:10	ポスターデザイン講習会	学会のポスターセッション報告のための、効果的なポスターの作成方法と大型プリンタの利用法の講習	水月昭道(立命館大学衣笠総合研究機構)	創思館403・404号室	25	20	主催	x
6/6	18:00-20:00	シンポジウム福岡事件	死刑執行後の再審を求めて真実の発見と死者の尊厳	毛利甚八(漫画家) 浜田寿美男(奈良女子大学・教授)	創思館カンファレンスルーム	138	71	共催	
6/7	13:00-18:00	特別公開企画	「物語・トラウマ・倫理」アーサー・フランク教授を迎えて	立岩真也(本学大学院先端総合学術研究科・教授) サトウタツヤ(本学大学院先端総合学術研究科・教授) Arthur W. Frank(カルガリー大学社会学部・教授) 山口真紀(本学大学院先端総合学術研究科院生) 大谷通高(本学大学院先端総合学術研究科院生) 中田喜一(本学大学院先端総合学術研究科院生) 藤原信行(本学大学院先端総合学術研究科院)	創思館カンファレンスルーム	138	101	主催	
6/12	13:30-15:30	日本の経験から台湾への示唆	グローバル化と雇用・少子化問題	西川長夫(立命館大学名誉教授) 立岩真也(立命館大学院先端総合学術研究科・教授) 天田城介(立命館大学院先端総合学術研究科・准教授) 張瑞雄先生(国立高雄第一科技大学福教授)	創思館302会議室	20	20	主催	
6/21	13:00-17:00	公開座談会	大学における視覚障害者支援の現状と課題 スーダンで今求められていること	ヒシャム・エルサー(筑波大学大学院)、青木慎太郎(本学大学院先端総合学術研究科)ほか	創思館407	30	20	主催	
6/23	14:00-18:00	マウリツィオ・ラツァラート来日企画	労働・雇用・保障のオルタナティブ	橋口昌治(立命館大学院先端研博士課程) 中倉智徳(立命館大学院先端研博士課程) Maurizio Lazzarato(社会学者・哲学者) 渡辺琢(万人の所得保障をめざす助助者の会)	衣笠キャンパス学術館2階 第2研究会室	30	30	主催	
6/28	13:00-16:00	英国の障害学の現在		田島明子(立命館大学院先端総合学術研究科博士課程) 野崎泰伸(立命館大学非常勤講師) 一ノ瀬トシ美	立命館大学衣笠キャンパス創思館303/304	40	35	主催	
7/12	13:00-16:10	出生前診断めぐって		矢野恵子(中部大学生命健康科学部 保健看護学科) 利光恵子(立命館大学院先端総合学術研究科博士課程) 野崎泰伸(立命館大学非常勤講師)	立命館大学衣笠キャンパス創思館303/304	40	30	主催	
7/16	15:00-18:00	障害者・自立生活・メディア	「「こんちくしょう 障害者自立生活運動の先駆者たち」のスタッフと共に考える」	立岩真也(立命館大学院先端総合学術研究科・教授) 野崎泰伸(立命館大学PD) 福永年久(制作総指揮) 村上圭太郎(監督・撮影) 下田隆清(制作補) 堀田義太郎(日本学術振興会特別研究員)	立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室館第3研究室	30	20	主催	
7/19	14:00-16:00	「争点としての生命」研究会	「妊娠中絶技法と生命倫理」・「女性の健康運動」に立脚した技術の利用の再検討」	水島希(東京大学情報学環交流研究員)	末川記念会館会議室	50	40	主催	
7/31	14:00~17:00	「ケアの論理と倫理 看護・感情・労働」	「ケアの論理と倫理 看護・感情・労働」	バム・スミス(サリー大学保健医療学部教授) 西川勝(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授) 安部彰(立命館大学衣笠総合研究機構PD) 有馬育(立命館大学衣笠総合研究機構PD) 的場和子(立命館大学大学院先端総合学術研究科) 天田城介(立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授)	立命館大学衣笠キャンパス学術館第1研究室	30	40	主催	
8/30	17:00~20:00	即興ダンスワークショップ	「病をまとう身体と踊る身体」	若下徹(山海塾・京都造形芸術大学)武藤香織(東京大学・准教授)、在ル歌舞巫(舞踏家・日本ハンチントン病ネットワーク会員)ほか	アートリサーチセンター1F多目的室	20	15	主催	
9/6	14:00~16:00	「当事者にとっての「遺伝」シンポジウム	先端の特殊講義「生命科学と社会・生命倫理から科学コミュニケーションまで」と運動	野辺明子(先天性四肢障害者の会創設者) 中井伴子(日本ハンチントン病ネットワーク代表) 伊波敬男(作家・ハンセン病元患者)	衣笠キャンパス学術館2F 第1研究会室	30	20	主催	
9/14	13:00~	第6回老い研究会	研究課題「老い」を巡る問題群に関する研究	仲口 路子(先端研 公共領域4回生) 有吉 玲子(先端研 公共領域3回生) 矢野 亮(先端研 公共領域3回生) 北村 健太郎(生存学ポストドクトラルフェロー) 野崎 泰伸(生存学ポストドクトラルフェロー) 堀田 義太郎(日本学術振興会特別研究員)	立命館大学衣笠キャンパス創思館416・414	40	40	主催	
9/20	14:00~18:00	第19回認知症介護研究会	「1990年代後半以降の施設経営の変化と介護報酬・介護労働の現状」	山田寿志(高齢者福祉総合施設ももやま施設長)	立命館大学朱雀キャンパス多目的室	30	25	共催	
9/23	13:00~18:10	特別公開企画「文化心理学の可能性 時間と空間と共にある個別の生を捉えるために」	「発達の高齢性を描くための複線径路・等至性モデルの開発」	Jaan Valsiner (Clark University) 高橋登(大阪教育大学) 矢守克也(京都大学防災研究所巨大災害研究センター) 松本佳久子(奈良市社会福祉協議会) 山本登志哉(早稲田大学) サトウタツヤ(立命館大学)	立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム	138	58	共催	
9/27	14:00~17:30	出生をめぐる倫理研究会	第4回研究会「『生命』を問い直す『生まれない方がよかった』という思想めぐって」	櫻井浩子(先端総合学術研究科生命領域4回生) 松原洋子(先端総合学術研究科教授) 加藤秀一氏(明治学院大学社会学部教授) 野崎泰伸(生存学創成拠点PD) 利光恵子(先端総合学術研究科生命領域4回生)	立命館大学衣笠キャンパス学術館2階 第1研究室	30	30	主催	

2008度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開 非公開 x
10/13	14:00~16:00	生存学ITプロジェクト研究会 当事者主導型アシス ティブ・テクノロジー・プ ロジェクト企画	科学技術の公共性へのマイクロア プローチ 福祉工学における開発現場	渡部麻衣子氏(東京大学医科学研究所ヒトゲノム 解析センター公共政策研究分野特任研究員)	立命館大学衣笠 キャンパス学術館2 階 第2研究室	30	30	主催	
10/19	13:00~17:00	頭部外傷や病気による 後遺症を持つ若者と家 族の会	「若者と家族の会」京都支部設立5 周年記念・京都新聞大賞福祉賞受 賞記念講演会。	種村留美(神戸大学大学院保健学研究科リハビリ テーション科学領域運動器障害学 分 天田城介(立命館大学大学院先端総合学術研究 科・准教授) 岡本晃明(京都新聞社会報道部) 桑山雄次(当事者家族)	立命館大学朱雀 キャンパス4階大講 義室	450	200	共催	
10/23	13:00~17:00	日韓障害者運動史懇談 会	第1部:韓国障害者運動の歴史と評価 第2部:日本障害者運動の歴史と評価	金大成(韓国DPI事務局長) 李相鎬(陽川自立生活センター所長) 曹漢鎮(大邱(テグ)大学社会福祉学部教授) 鈴木一成(府中自立生活センター所長) 立岩真也(立命館大学院先端総合学術研究科教授)	学術館第2研究室	20		主催	
11/7	7日10:00~ 12:00、13:00~ 15:00	ISHPSSB Off-Year Workshop	Session"History of Eugenics in East Asia "	Yuehsen Juliette Chung (National Tsing Hua University)、Sumiko Otsubo Sitcawich (Metropolitan State University、Maiko Watanabe (University of Tokyo) ほか	神戸大学 瀧川記念 学術交流会館			共催	
11/8	13:00~	シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	シリーズ1「家族の現在」	中村正(立命館大学大学院応用人間科学研究科、産業 社会学部教授)	立命館大学朱雀 キャンパス 5F大講義室			協賛	
11/17	13:00~15:00	第8回日韓中住居問題 国際会議・プレシ ンボジウム	「居住福祉社会実現へ向けた若手 研究者の活動」	堀田義太郎(日本学術振興会特別研究員)ほか	立命館大学衣笠 キャンパス創思館カ ンファレンスルーム	138		共催	
11/17~ 19	17日15:30~ 20:00 18日7:00~19:30 19日7:00~20:30	第8回日韓中住居問題 国際会議	「現代社会における居住政策の役 割と課題 持続可能社会に向け て」	桂良太郎(立命館大学)ほか	立命館大学衣笠 キャンパス創思館カ ンファレンスルーム 京都ガーデンパレス			共催・ 後援	
11/22	19:00~21:00	サイエンスカフェ	「難病を抱えながら生きる~不動の 身体からの経験 "知,, ~」	船後靖彦(ALS患者:「しあわせの王様」執筆者) 和中勝三(ALS協会近畿ブロック会長:「生きる力」執筆 者) 久住純司(ALS患者:ALS-ITP協同研究者/ピアサ ポーター) 林静也(ALS患者:ALS-ITP協同研究者) 松原洋子(立命館大学先端総合学術研究科 教授) 水月昭道(立命館大学人間科学研究科研究員/僧侶) 日高友郎(立命館大学文学研究科 修学生)	和歌山ビッグ愛			共催(予 定)	
12/4	16:30~18:30	特別公開企画	「鳥インフルエンザの人類学的研 究」	Frederick Keck(フランス高等研究院、CNRS、人 類学)	立命館大学 学術館第2研究室	20	14	主催	
12/20	14:00~18:00	「津山直子さん公開イ ンタビュー」	「アバウトから民主化へ 南ア フリカの人々と歩んできた20年」	津山直子(JVC南アフリカ事務所代表)	創思館416	50		協賛	
12/27	15:00~18:00	第20回認知症介護研 究会	「認知症について語られていないこ と」	越智須美子(若年性認知症当事者の家族) 天田城介(先端総合学術研究科)	立命館大学朱雀 キャンパス多目的室	30		共催	
1/10	13:00~17:00	Paul Hunt 国際シン ボジウム	「健康権の再検討 - 近年の国際的 議論から日本の課題を探る」		立命館大学衣笠 キャンパス創思館カ ンファレンスルーム	138		共催	
1/17	13:00~	シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	シリーズ1「家族の現在」	梁英姫(ヤン・ヨンヒ)監督	立命館大学朱雀 キャンパス 5F大講義室			協賛	
1/24		Workshop	The mechanization of Empathy in Health Care	Stefano Tomelleri(University of Bergamo)Sergio Manghi(University of Parma)ほか	立命館大学 敬学館251			主催	
2/21	13:30~16:30	東アジアALS国際シ ンボジウム	「東アジア難病ネットワーク構築に 関する研究」	日本、台湾、韓国、モンゴル各国ALS協会関係者 ほか	立命館大学衣笠 キャンパス創思館カ ンファレンスルーム	100		主催	
2/21	13:00~	シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	シリーズ1「家族の現在」	村本邦子(立命館大学大学院応用人間科学研究科、産 業社会学部教授)	立命館大学朱雀 キャンパス 5F大講義室			協賛	
2/28,3/1		国際フォーラム	「ライフデザインと福祉(Well-being) の人類学 開かれたケア・交流空間 の創出」(民族学博物館と共同主 催)	千葉忠夫(バンクミゲルセン記念財団) 傳法 清(Momiji Health Care Society) 寺崎 弘昭(山梨大学教授) 白水 浩信(神戸大学准教授) 井川スミス史子(マギル大学文化人類学部) 横石知二((株)いろどり)ほか	創思館1階 カンファレンスルー ム	138		民族学 博物館と共同 主催	
3/14	13:00~	シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	シリーズ1「家族の現在」	団士郎(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)	立命館大学朱雀 キャンパス 5F大講義室			協賛	
3/28	14:00~18:00	第21回認知症介護研 究会	未定		立命館大学朱雀キャン パス多目的室	30		共催	

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008 年度研究活動実績	以下の各項目の 2008 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>本年度は、アート・リサーチセンターが中核拠点となっている文部科学省グローバル COE プログラム「日本デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学) (以下、GCOE) の2年目として、本センターを、デジタル・ヒューマニティーズ (DH) 分野の研究は当然のこととして、若手研究者の教育拠点としての成果があがるよう、各施設をフルに利用し、研究者による論文・発表などの成果のみならず、拠点主催の展覧会、講演会、シンポジウムを多く開催し、2009 年度に行われる文部科学省による本拠点の中間評価に十分対応できるだけの多くの成果を生むことができた。</p> <p>また、最終年度にあたるオープン・リサーチ・センター整備事業も、その最終年度に相応しく、新たな研究プロジェクトによる成果などを上げるとともに、GCOE との研究活動ともリンクするかたちの新しい成果を公表することで、その事業を締めくくることができた。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>GCOE の枠組みを使った、海外研究機関との共同研究などの他に、新たに日本学術振興会の ITP に、アート・リサーチセンターが歴史都市防災研究センターとともに採択されたことで、本センターに所属する若手研究者が中・長期の在外研究を行うことができた。ロンドン大学 SOAS、コロンビア大学、UBC、ホノルル美術館、ボストン美術館などに若手研究者を派遣した。また、GCOE の成果として、海外の DH 分野の主要な研究者を招いて、第 1 回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウムを開催し (2009 年 2 月)、本拠点の教育・研究活動の成果を確認することができた。さらに、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会と共同主催で全国規模の研究会発表会 (2008 年 5 月) を開催するなど、GCOE では関連諸学会との連携した研究活動も行った。</p> <p>この他に、春秋の連続講演会や、展覧会、GCOE セミナーなどを通じて、アート・リサーチセンターの研究成果を広く社会全般に還元した。</p> <p>また、ソニー株式会社、凸版印刷株式会社などとの共同研究の取り組みも昨年度に引き続き、進行中である。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>昨年同様、本拠点の運営については、アート・リサーチセンター運営委員会 (必要に応じて開催) と、日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点運営委員会 (毎週開催) の両組織によって、運営を行った。両委員会には、重複する委員も多く、役割分担や連携に関して、支障なく、順調に運営を進めることができた。</p>

	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>GCOE の年次活動報告書、およびオープン・リサーチ・センター整備事業の最終報告書を刊行した他、アート・リサーチセンター紀要『アート・リサーチ』9号を例年どおり刊行した。</p> <p>また、GCOE からはシリーズ日本文化デジタル・ヒューマニティーズの第1冊として『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』(ナカニシヤ出版)を公刊した(2009年3月)。この他、展覧会図録として『時代鑑 俳人短冊 近世の裾野』を刊行した(2009年3月)。</p>
項 目	内 容
2009 年度研究計画	<p>以下の各項目の2008年度の活動実績を踏まえながら2009年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>① 2009年度の研究計画について</p> <p>2009年度は、GCOEの3年目となり、本拠点の教育・研究活動を本格的かつ合理的に進める必要がある。そのためにも、アート・リサーチセンターを有効に活用するため、さまざまな手法による研究、および成果発信を行う予定である。通常のセミナー、講演会、シンポジウム、展覧会などの他に、Web などを使った研究資源の共有化などをよりいっそう促進する。そのための人員の配置も行った。</p> <p>GCOE 関連では、2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会、第14回国際歴史地理学会、第22回CIPA国際シンポジウム in 京都など、関連諸学会との連携した行事を行う予定である。</p> <p>また、新たに本年度から新たに採択された私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「芸術・文化分野の資料デジタル化と活用を軸とした研究資源共有化研究」を本格的に始動させる。</p> <p>この他、紀要『アート・リサーチ』も引き続き刊行する。</p> <p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>GCOE で展開している国際ネットワーク型の教育・研究活動を引き続き展開する。特にロンドン大学 SOAS との関係を深化させるとともに、その他の研究機関とも、若手研究者の派遣などを通じて、濃密な共同研究を展開する。</p> <p>一方、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業関連では、研究テーマに沿ったかたちで、国内外の研究者、研究機関との連携、交流を行う予定である。</p> <p>また、産官学の新たな共同研究についても、引き続き模索を行う。</p> <p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>昨年度同様、GCOE 運営委員会とアート・リサーチセンター運営委員会の2つの運営組織の連携によって、運営を行う。</p> <p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>GCOE が教育に主眼をおいたプログラムであるため、研究資金を外部から獲得する必要がある。アート・リサーチセンターに所属する研究者が積極的に科学研究費補助金、奨学寄附金などを追求することにより、センターにおける研究のための資金や運営資金を獲得するよう努める。</p>

2008年度研究成果一覧（2009年3月31日まで）

著書

- 川嶋將生『室町文化論考—文化史のなかの公武—』法政大学出版局, 311p., 2008年10月
- 川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, 206p., 2009年3月, Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, 'New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures', Nakanishiya Shuppan, 206p., March 2009
- 金田章裕『大地へのまなざし』思文閣出版, 305p., 2008年6月
- 廣瀬千紗子, 齊藤千恵, 倉橋正恵, 金子貴昭, 石上阿希, 戸川郁子, 松葉涼子『古今いろは評林 本文と注釈』古今いろは評林をよむ会, 2008年11月
- 丸茂祐佳『日本舞踊 西川流史』西川流, 244p., 2008年6月
- 丸茂祐佳編『日本舞踊 西川流史 資料・近世編』西川流, 68p., 2008年6月
- 丸茂祐佳編『日本舞踊 西川流史 資料・現代編』西川流, 132p., 2008年6月
- John T. Carpenter, ed., '*Surimono: The Interplay of Text and Image in Japanese Prints*', Zurich: Rietberg Museum; Leiden Brill/Hotei Publishing, 432 p., November 2008

著書（分担執筆）

- 赤間亮「日本文化芸術研究のプラットフォーム画像データベースによるデジタル複製物の共有化」川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, pp.25-50, 2009年3月, Ryo Akama, 'Technology Platforms for Research into Japanese Art and Culture: Enabling "Joint Ownership" of Digital Reproductions in Image Databases', Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, '*New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures*', Nakanishiya Shuppan, pp.133-154, March 2009
- 稲葉光行「デジタル・ヒューマニティーズと World Wide Web : 過去と未来」川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, pp.91-114, 2009年3月, Mitsuyuki Inaba, 'Digital Humanities and the World Wide Web: A Once and Future Discipline', Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, '*New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures*', Nakanishiya Shuppan, pp.183-197, March 2009
- 川嶋將生「デジタル・アーカイブから見えてくる洛中洛外図屏風の世界」川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, pp.1-23, 2009年3月, Masao Kawashima, 'Screens Depicting Views in and around Kyoto: The World that Emerges through Digital Archives', Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, '*New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures*', Nakanishiya Shuppan, pp.115-131, March 2009
- 河角龍典「バーチャル長岡京・平安京 3D マップ」国立歴史民俗博物館編『桓武と激動の長岡京時代』山川出版社, pp.42-50, 2009年1月
- 杉橋隆夫「洛西地域と西園寺・足利一門」『「京都歴史回廊概論」講義報告集』立命館大学歴史回廊プログラム, pp.160-172, 2008年4月
- 杉橋隆夫, 山崎有恒「序言」「はじめに」『「京都歴史回廊概論」講義報告集』立命館大学歴史回廊プログラム, pp.1, 4-12, 2008年4月
- 中谷友樹, 花岡和聖「ジオシミュレーションと空間的マイクロシミュレーション」村山祐司, 柴崎亮介編『GISの理論（シリーズ GIS 1）』朝倉書店, pp. 142-160, 2008年4月

- 八村広三郎「モーションキャプチャによる舞踊のデジタルアーカイブ」川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, pp.65-90, 2009年3月, Kozaburo Hachimura, 'Digital Archiving of Dance by Using Motion-capture Technology', Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, *New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.167-181, March 2009
- 前崎信也「伝統と科学の狭間で—イギリスでの松林靄之助の活動を中心に—」デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)『近代工芸運動とデザイン史』思文閣出版, pp.230-242, 2008年9月
- 矢野桂司「エンタテインメントとGIS」村山祐司, 柴崎亮介編『生活・文化のためのGIS』朝倉書店, pp.18-34, 2009年2月
- 矢野桂司「地理情報とデジタル・ヒューマニティーズ」川嶋將生, 赤間亮, 矢野桂司, 八村広三郎, 稲葉光行共著『日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在』ナカニシヤ出版, pp.51-64, 2009年3月, Keiji Yano, 'Geographical Information Systems and the Digital Humanities: Revolution or Evolution', Masao Kawashima, Ryo Akama, Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Mitsuyuki Inaba, *New Directions in Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.155-166, March 2009
- 和田晴吾「黄泉国と横穴式石室」和田晴吾先生還暦記念論文集刊行会編『吾々の考古学』六一書房, pp.601-608, 2008年5月
- 和田晴吾「今城塚古墳と九州勢力」高槻市教育委員会編『継体天皇の時代』吉川弘文館, pp.84-99, 2008年7月
- John T. Carpenter, 'The Poetic Impulse in Kyôka Surimono', John T. Carpenter, ed., *Surimono: The Interplay of Text and Image in Japanese Prints*, Zurich: Rietberg Museum; Leiden Brill/Hotei Publishing, pp. 8-11, November 2008
- John T. Carpenter, 'Inventing New Iconographies: Historicist and Nativist Motives in Late Edo Surimono', John T. Carpenter, ed., *Surimono: The Interplay of Text and Image in Japanese Prints*, Zurich: Rietberg Museum; Leiden Brill/Hotei Publishing, pp. 72-83, November 2008
- John T. Carpenter, 'Der kulturelle und literarische Kontext von Surimono' in John T. Carpenter and Nadin Hee eds., *Surimono: Die Kunst der Anspielung in japanischen Holzdrucken*, Museum Rietberg Zürich, 9 December 2008
- John T. Carpenter, 'The Literary Network: Private Commissions for Hokusai and his Circle', Julia Meech and Jane Oliver eds., *Designed for Pleasure: The World of Edo Japan in Prints and Paintings, 1680-1860*, New York: Asia Society / Seattle: University of Washington Press, pp. 142-167, April 2008
- 著書(翻訳)**
- Gunnar Olsson 著, 磯田弦訳, 杉浦芳夫補筆「一瞥」杉浦芳夫監訳『地理学の声—アメリカ地理学者の自伝エッセイ集—』古今書院, pp.248-279, 2008年11月
- Rachel Saunder 著, 倉橋正恵訳「武井武雄(1894-1983)『刊本作品』中におけるテキストとパラテキスト」Artifact of Literature Conference, Harvard University (Cambridge, United States), 2008年11月
- English Heritage編著, 高瀬裕, 門林理恵子翻訳監修『文化遺産のレーザー計測—考古学と建築のレーザー計測に携わるユーザーのためのアドバイスと指針—』('3D Laser Scanning for Heritage - Advice and guidance to users on laser scanning in archaeology and architecture', 2007) インターネットで公開中: <http://3dblog.nict.go.jp/digitalCH/index.html>
- Waldo Tobler 著, 中谷友樹訳「我が人生」杉浦芳夫監訳『地理学の声—アメリカ地理学者の自伝エッセイ集—』古今書院, pp.305-335, 2008年11月

Brian J. L. Berry 著, 矢野桂司訳, 杉浦芳夫補筆「「考えていることを声に出す」Clara Voce Cognito」杉浦芳夫監訳『地理学の声—アメリカ地理学者の自伝エッセイ集—』古今書院, pp.1-27, 2008年11月

論文

赤間亮, 金子貴昭「浮世絵デジタルアーカイブの現在」情報処理学会研究報告, 2008-CH-78, pp.37-44, 立命館大学(京都市), 2008年5月23日

赤間亮「京都の伝統芸能をコアとした海外向けポータルサイト構築・運用実証実験—ポータルサイト構築まで—」京都学術共同研究機構研究紀要, 1, pp.20, 2008年7月

【審査付き】赤間亮「英国 V&A 博物館とスコットランド国立博物館所蔵浮世絵のデジタルアーカイブ」アート・ドキュメンテーション, 16, pp.37-45, 2009年3月(出版予定)

【審査付き】浅田恵佑, 細井浩一「コミュニティ支援環境としての仮想世界—メタバースを利用した居住者コミュニティ形成の可能性と課題—」アート・リサーチ, 9, pp.37-47, 2009年3月

東良太, 磯田弦「過疎農山村における集落内情報共有に関する研究—別府市内成地区を事例に—」地理情報システム学会講演論文集, 17, pp.435-438, 東京大学(東京都目黒区), 2008年10月24日

飯塚隆藤, 井上学, 矢野桂司, 高木勝英, 西天平, 森川宏剛「GISを活用した第Ⅲ期京町家まちづくり調査」地理情報システム学会講演論文集, 17, pp.551-556, 東京大学(東京都目黒区), 2008年10月24日

【審査付き】石上阿希「西沢一風作『好色極秘伝』考—浄瑠璃段物集・浮世草子との関連—」論究日本文学, 88, pp.62-76, 2008年5月

【審査付き】石上阿希「『風流座敷八景』考—画中狂歌の利用と図柄の典拠—」浮世絵芸術, 156, pp.69-87, 2008年7月

磯田弦「ジオデモグラフィックスを用いた賃貸住宅の分析」地理情報システム学会講演論文集, 17, 東京大学(東京都目黒区), pp.253-258, 2008年10月23日

【審査付き】出光佐千子「池大雅筆『夏雲霊峰・松蔭観潮図』屏風の主題再考察」国華, 1354, pp.5-20, 2008年8月

出光佐千子, 小杉放菴「「秋色山水長巻」—楽園イメージの源泉と「片ぼかし」の展開—」出光美術館研究紀要, 14, pp.73-90, 2009年1月

【審査付き】尹新, 野村和義, 田中弘美「仮想文化財の皮膚触覚提示」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.373-378, 筑波大学(つくば市), 2008年12月21日

尹新, 衛藤徹, 赤間亮, 永井一彰, 田中弘美「三次元デジタル板木を用いて版本の仮想印刷とレンダリング」第4回デジタルコンテンツシンポジウム講演予稿集, 5-3, 2008年6月

【審査付き】上田学「映画常設館の出現と変容—1900年代の電気館とその観客から—」アート・リサーチ, 9, pp.49-59, 2009年3月

大西秀紀「文楽のCD」国文学10月臨時増刊号, pp.50-55, 2008年10月

【審査付き】岡本隆明「コンピュータによる訓点資料の整理について」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.275-282, 2008年12月21日

岡本隆明「古文書・典籍を対象とした文字管理システムとその可能性」情報処理学会研究報告, 2008-CH-78, pp.77-84, 立命館大学(京都市), 2008年5月23日

【審査付き】尾鼻崇「マックス・スタイナーの映画音楽における「ミッキー・マウシング」の手法」コア・エシックス, 5, pp.25-34, 2009年3月

【審査付き】尾鼻崇「家庭用ビデオゲームにおける「音楽」の誕生—ファミリーコンピュータと『ドンキーコング』を中心に—」コア・エシックス, 5, pp.35-45, 2009年3月

- 【審査付き】尾鼻崇「ビデオゲーム黎明期におけるゲームサウンドの諸相—『スペースインベーダー』(1978)の考察を通じて—」アート・リサーチ, 9, pp.105-114, 2009年3月
- 樫山裕史, 手塚太郎, 木村文則, 前田亮「ランキング情報を利用した楽曲推薦システムの構築」第1回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2009) 論文集, ヤマハリゾートつま恋 (掛川市), 2009年3月8日
- 【審査付き】勝村 (松本) 文子, 後藤和子, 吉川郷主「観客アンケートにもとづくこどものための演劇フェスティバルの評価についての分析—キジムナーフェスタを事例として—」文化経済学, 6-3, 2009年3月
- 【審査付き】勝村 (松本) 文子, 吉川郷主, 西前出, 小林慎太郎「芸術を用いた地域づくりにおける住民意識に関する要因の分析—大地の芸術祭 妻有トリエンナーレを事例として—」環境情報科学論文集, 22, pp.457-462, 2008年11月
- 金子貴昭「版木資料のデジタル・アーカイブについて」アート・ドキュメンテーション学会第1回秋季研究発表会予稿集, pp.25-28, 印刷博物館 (東京都千代田区), 2008年12月6日
- 【審査付き】亀井啓子, 武田祐樹, 中村友哉, 田中弘美「局所カラーヒストグラム解析に基づいた織布の色ベクトル推定法」第11回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU'08) ダイジェスト, pp.440, 軽井沢プリンスホテル (長野県軽井沢町), 2008年7月30日
- 【審査付き】亀井啓子, 武田祐樹, 中村友哉, 田中弘美「多視点ハイダイナミックレンジ画像を用いた織布の反射特性の抽出」情報処理学会「画像の認識・理解シンポジウム(MIRU'08)」論文集, pp.753-759, 軽井沢プリンスホテル (長野県軽井沢町), 2008年7月29-31日
- 嶋崎真直, Ruck THAWONMAS「物語生成のための配役に対するプレイヤーの印象とキャラクターの感情の比較検証」ゲーム学会第7回全国大会論文集, pp. 49-50, 大阪電気通信大学 (四条畷市), 2008年12月6日
- 【審査付き】川嶋将生「文化史研究と芸能史研究」藝能史研究, 183, pp.**-**, 2009年3月 (出版予定)
- 河角龍典「平安京の環境史」環境技術, 38-2, pp.2-8, 2009年2月
- 木立雅朗「考古学から見た土人形の出現と展開—偶像・明器・形代・人形の歴史的展開を中心に—」関西近世考古学研究, 16, pp.1-8, 2008年12月
- 木村文則, 小牟礼雅之, 前田亮, 佐古愛己, 杉橋隆夫「古典史料データベース検索システムの提案」情報処理学会研究報告, 2008-CH-78, pp.45-52, 立命館大学 (京都市), 2008年5月23日
- 【審査付き】木村彰徳, 八田拓也, 市村智和, 仲田晋, 田中覚「複雑な陰関数曲面モデルの確率過程的並列サンプリング」電子情報通信学会論文誌, J92D-3, pp. 439-442, 2009年3月
- 【審査付き】木村文則, 前田亮「古文・現代語訳並列コーパスによる古語・現代語辞書の構築」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 (情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp. 119-124, 筑波大学 (つくば市), 2008年12月20日
- 桐村喬, 松岡恵悟, 矢野桂司「WebGISによる京都市近代化遺産モニタリングシステムの構築」地理情報システム学会講演論文集, 17, 東京大学 (東京都目黒区), pp.193-198, 2008年10月23日
- 金田章裕「畿内の情勢」地理, 53-12, pp.51-55, 2008年12月
- 金田章裕「人文学とデジタル技術」論壇人間文化, 3, pp.8-27, 2008年11月
- 倉橋正恵「幕末期の江戸における役者評判記」水田かや乃編『役者評判記の世界展 付流光斎如圭役者絵 展図録』, 園田学園女子大学近松研究所, pp.119-130, 2009年1月
- 倉橋正恵「役者評判記年表」水田かや乃編, 『役者評判記の世界展 付流光斎如圭役者絵 展図録』, 園田学園女子大学近松研究所, pp.148-152, 2009年1月
- 【審査付き】小阪佳宏, 磯田弦, 塚本章宏, 奥村卓也, 仲田晋, 田中覚「GIS データに基づく3次元都市モデルの自動生成—江戸時代の京都町並み生成への応用—」日本バーチャルリアリティ学会論文誌, 13-3, pp.315-324, 2008年9月

- 【審査付き】近藤暁夫「京都府丹後地域における屋外広告活動の展開 地理学評論, 81-4, pp.215-227, 2008年4月
- 近藤暁夫「事業所の広告活動の空間的重層性—屋外広告主の空間的メディアミックスに着目して—」立命館地理学, 20, pp.9-28, 2008年11月
- 【審査付き】斎藤進也「テキストマイニングによる協調活動の可視化と解釈—非営利ネットワークを事例として—」経営情報学会秋季全国大会予稿論集, I3-3, 東北大学(仙台市), 2008年11月8-9日
- 斎藤進也, 稲葉光行「地域の知を集める—協調的ナラティブの蓄積による日本文化アーカイブの構築—」情報処理学会研究報告, 2008-CH-78(9), pp.61-68, 立命館大学(京都市), 2008年5月23日
- 【審査付き】斎藤進也, 大野晋, 稲葉光行「時空間情報の可視化による「地域の記憶」の分析手法に関する研究—日露戦争期の松山市を事例として—」アート・リサーチ, 9, pp.115-122, 2009年3月
- 桜井政成, 山田一隆, 角谷嘉則, 斎藤進也「非営利・協働組織によるソーシャルキャピタルの醸成・活用—地域活性化への示唆—」生協総研賞・研究論文集, 3, pp.59-71, 2009年1月
- 澤田敬治, 手塚太郎, 木村文則, 前田亮「動画共有サイトにおけるコメントを用いた動画分類の細分化手法」第71回情報処理学会全国大会講演論文集, 1, pp.563-564, 立命館大学(草津市), 2009年3月11日
- 【審査付き】首田大仁, Ruck Thawonmas「オンラインゲームのプレイログを用いた漫画の自動生成」ゲーム学会和文論文誌, 3-1, pp.**-**, 2009年3月(出版予定)
- 首田大仁, Ruck Thawonmas「近傍候補の類似度に基づいたコマ候補選択手法のマンガ自動生成への適用」エンタテインメントコンピューティング2008論文集, pp.147-148, 金沢歌劇座(金沢市), 2008年10月29-31日
- 関口博之, 崔雄, 八村広三郎「書き込み可能な電子テキストリーダを用いた講義手法の提案」情報処理学会研究報告2008-CH-80, 2008-100, pp.23-30, たざわこ芸術村(仙北市), 2008年10月18日
- 瀬戸寿一, 桐村喬, 矢野桂司「API公開型の地理情報配信サービスを活用したWebGIS構築とその課題」地理情報システム学会講演論文集, 17, 東京大学(東京都目黒区), pp.483-488, 2008年10月24日
- 【審査付き】瀬戸寿一, 戸所泰子, 矢野桂司, 中谷友樹, 桐村喬, 近藤暁夫, 十時惟友季「京都の祇園祭をめぐる歴史的街なみの景観モデルとその活用—新町通の過去・現在・未来の視覚化—」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.89-96, 筑波大学(つくば市), 2008年12月20日
- 【審査付き】高橋幸恵, 八村広三郎「能の稽古におけるモーションキャプチャ利用の可能性」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.201-208, 筑波大学(つくば市), 2008年12月21日
- 【審査付き】武田祐樹, 坂口嘉之, 田中弘美「少数視点画像の反射光解析に基づくシルクライク織物の異方性反射レンダリング」芸術科学会論文誌, 7-4, pp.132-144, 2008年12月
- 【審査付き】武田祐樹, 田中弘美「多方向照明HDR画像を用いた金襴の多重解像度異方性BTFモデリング」電子情報通信学会論文誌D, J91-D, 12, pp.2729-2738, 2008年12月
- 【審査付き】武田祐樹, 田中弘美「多方向照明HDR画像を用いた金襴の多重解像度異方性BTFモデリング」情報処理学会「画像の認識・理解シンポジウム(MIRU'08)」論文集, pp.1516-1523, 軽井沢プリンスホテル(長野県軽井沢町), 2008年7月29-31日
- 谷川壮洋, 手塚太郎, 木村文則, 前田亮「楽曲の構成情報を考慮した歌詞による楽曲推薦システムの構築」第71回情報処理学会全国大会講演論文集, 2, pp.235-236, 立命館大学(草津市), 2009年3月12日
- 【審査付き】玉田浩之, 松岡恵悟「GISを用いた京都市の近代化遺産データベースの構築と現存状況の分析」日本建築学会技術報告集, 28, pp.617-620, 2008年10月
- 崔雄, 関口博之, 八村広三郎「モーションキャプチャを用いた居合道の熟練度に関する定量化」情報処理学会

- 研究報告 2008-CH-80, 2008-100, pp.39-44, たざわこ芸術村 (仙北市), 2008 年 10 月 18 日
- 崔雄, 関口博之, 鶴田清也, 八村広三郎「モーションキャプチャを用いた日本伝統芸能における歩行動作の特
微量抽出」第 71 回情報処理学会全国大会講演論文集, pp.4-393 - 4-394, 立命館大学 (草津市), 2009 年 3
月 10-12 日
- 張建立「従社会事件「罪己」意識」日本: 2007, 世界知識出版, pp.276-289, 2008 年 8 月
- 塚本章宏「GIS を用いた歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれた空間の定量的分析」情報処理学会研究報告,
2008-CH-78, pp.53-60, 立命館大学 (京都市), 2008 年 5 月 23 日
- 【審査付き】鶴田清也, 川内大和, 崔雄, 八村広三郎「バーチャルダンスコラボレーションシステムのための
実時間動作認識」映像情報メディア学会誌, 62-6, pp.909-913, 2008 年 6 月
- 【審査付き】傳田遊亀, 田中貴雅, 溝口遊, 中山雅人, 西浦敬信, 山下洋一「話者方位推定を利用した動的時間
領域処理に基づく遠隔発話区間検出」電子情報通信学会論文誌, J92-D-1, pp.112-122, 2009 年 1 月
- 當山日出夫「文字とアーカイブ—デジタル・アーカイブの視点からの問題提起—」情報処理学会研究報告,
2008-CH-79, pp.3-30, 金沢文庫 (横浜市), 2008 年 7 月 25 日
- 【審査付き】當山日出夫「文字を残すための序論的考察」アート・ドキュメンテーション学会第 1 回秋季研究
会, pp.7-10, 印刷博物館 (東京都文京区), 2008 年 12 月 6 日
- 當山日出夫「古典籍と JIS 漢字についての再考察—何が変わったか、変わらないでいるか—」人文科学とデ
ータベース (第 14 回公開シンポジウム), 同志社大学 (京田辺市), pp.1-10, 2008 年 12 月 13 日
- 【審査付き】當山日出夫「金沢文庫本白氏文集卷三十一『中書制誥』の漢字字体について—巻十二『長恨歌』
との対比の観点から—」立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, 3, pp.55-64, 2009 年 3 月
- 當山日出夫「『和漢朗詠集』のデジタル化—「JIS X 0208」から「JIS X 0213」への流れのなかで—」公開シ
ンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文抄録集 (第 14 回大会), pp.1-10, 同志社大学 (京都市),
2008 年 12 月 13 日
- 當山日出夫「『内村鑑三全集』デジタル版の文字処理について—電子出版における文字と文字コードの課題—」
第 20 回「東洋学へのコンピュータ利用」セミナー, pp.5-18, 京都大学 (京都市), 2009 年 3 月 27 日
- 【審査付き】鳥羽拓志, 木村文則, 手塚太郎, 前田亮「人文系データベース横断検索のためのメタデータ自動
マッピング」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 (情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15,
pp. 241-248, 筑波大学(つくば市), 2008 年 12 月 21 日
- 中村美奈子, 小田邦彦, 米力尼沙, 満蘇尔共「モーションキャプチャを用いた舞踊における運動の質の評価の
試み—ウイグル舞踊の基本歩行動作と旋回動作を事例として—」情報処理学会研究報告, 2006-CH-78(5),
pp31-36, 立命館大学 (京都市), 2008 年 5 月 23 日
- 【審査付き】中谷友樹「空間疫学と地理情報システム」保健医療科学, 57-2, pp.99-106, 2008年6月
- 中谷友樹, 埴淵知哉「社会調査のマイクロデータとジオデモグラフィクスのデータリンケージ—JGSS 累積デー
タ 2000-2003 に基づく主観的健康感の小地域解析への適用—」JGSS 研究論文集 (大阪商業大学比較地域
研究所), 9, pp.23-36, 2009 年 3 月
- 【審査付き】中谷友樹, 矢野桂司「犯罪発生の時空間 3 次元地図—ひたくり犯罪の時空間集積の可視化—」
地学雑誌, 117-2, pp.506-521, 2008 年 4 月
- 野村和義, 尹新, 田中弘美「音と振動による文化財鑑賞システムの研究」第 13 回日本バーチャルリアリテ
ィ学会大会論文集, pp.666-669, 奈良先端科学技術大学院大学 (生駒市), 2008 年 8 月 26 日
- 野村和義, 尹新, 田中弘美「物体表面微細構造に基づく皮膚刺激信号パラメータの抽出」日本情報処理学会第
71 回全国大会論文集, pp.131-132, 立命館大学 (草津市), 2009 年 3 月 12 日
- 花岡和聖「動的な空間的マイクロシミュレーションモデルを用いた京町家の将来推計」第 17 回地理情報シ
ステム学会講演論文集, 17, pp.185-188, 東京大学 (東京都目黒区), 2008 年 10 月 23 日

- 花岡和聖, 村中亮夫, 吉越昭久「第2回夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテストの成果と課題」
 京都歴史災害研究, 10, pp.37-41, 2009年3月
- 【審査付き】花田卓司「南北朝期室町幕府における守護・大将の所領給付権限—守護・大将発給の宛行状と預状の分析を中心に—」古文書研究, 66, pp.12-35, 2008年8月
- 【審査付き】花田卓司「初期室町幕府の所領政策と建武政権・南朝」立命館史学, 29, pp.1-20, 2008年11月
- 【審査付き】花田卓司「軍事関係文書からみた京都—南北朝期の京都合戦—」アート・リサーチ, 9, pp.21-36, 2009年3月
- 廣瀬駿, 吉村ミツ, 八村広三郎, 赤間亮「落款を利用した浮世絵の作者同定の試み」情報処理学会研究報告
 2008-CH-78, 2008-47, pp.15-22, 立命館大学(京都市), 2008年5月23日
- 鳥羽拓志, 木村文則, 手塚太郎, 前田亮「メタデータ自動マッピングを用いた人文系データベース横断検索システムの構築」第71回情報処理学会全国大会講演論文集, 4, pp.757-758, 立命館大学(草津市), 2009年3月12日
- 古川耕平「神仏分離令以前の丹生都比売神社のデジタル再現」高野山大学論叢, 44, pp.65-74, 2009年2月
- 【審査付き】古川耕平, 赤間亮, 廣瀬千沙子「芝居小屋のCG復元とその応用」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.347-352, 筑波大学(つくば市), 2008年12月21日
- 【審査付き】松葉涼子「演劇の『伊勢物語』享受—「桂川道行」を一例として—」浮世絵芸術, 156, pp.52-68, 2008年7月
- 【審査付き】松葉涼子「『靈験曾我籬』にみる南北の方法」アート・リサーチ, 9, pp.62-78, 2009年3月
- 松本郁代「江戸中期における即位印明伝授と撰録神話—九条家相伝の叙述をめぐって—」横浜市立大学論叢, 60-3, 2009年3月(出版予定)
- 三戸勇氣, 篠田之孝, 渡沼玲史, 丸茂美恵子「日本舞踊の流派の特徴に対する検討」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.269-274, 筑波大学(つくば市), 2008年12月21日
- 【審査付き】村中亮夫, 中谷友樹「構造方程式モデリングによる災害発生後の歴史的景観復興に対する支払意思額の意識構造分析」環境情報科学論文集, 22, pp.73-78, 2008年11月
- 【審査付き】村中亮夫, 中谷友樹「社会調査データの収集方法が支払意思額に与える影響の検討—郵送調査とWeb調査の比較分析—」環境情報科学, 38-1, pp.47-55, 2009年3月
- 【審査付き】村中亮夫, 中谷友樹, 吉岡達生「通学経路に着目した小児アレルギー性鼻炎有病率の空間分析」山口県医学会誌, 43, pp.9-16, 2009年3月
- 【審査付き】横山詔一, 高田智和, 當山日出夫, 米田純子「平成明朝体デザイン変異に関する共時的認知分析」情報処理学会研究報告, 2008-CH-81, pp.33-40, キャンパスプラザ京都(京都市), 2009年1月23日
- 【審査付き】吉川郷主, 勝村(松本)文子, 西前出, 小林慎太郎「地域資源・地域環境管理活動への参加とその関連要因—住民による自治会への評価に着目して—」環境情報科学論文集, 22, pp.19-24, 2008年11月
- 【審査付き】吉村ミツ, 八村広三郎「舞踊動作を表す構造変数と時空間変数の比較—日本舞踊を題材として—」画像電子学会誌, 37-4, pp.396-404, 2008年7月
- 【審査付き】和田晴吾「古墳の他界観」国立歴史民俗博物館研究報告, 152, pp.279-294, 2009年3月
- 渡沼玲史, 入江寿弘, 丸茂美恵子「動作の質評価指標と段階的評価法の提案」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2008-15, pp.249-256, 筑波大学(つくば市), 2008年12月21日
- 【審査付き】Kook Cho, Hajime Okumura, Takanobu Nishiura and Yoichi Yamashita, 'Localization of Multiple Sound Sources Based on Inter-Channel Correlation Using a Distributed Microphone System',

Proceedings of the Interspeech 2008 (Interspeech2008), pp.443-446, Brisbane, Australia, 23 September 2008

【審査付き】Woong Choi, Sho Mukaida, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Motion Analysis of Iaido skill by Using Motion Data', XXVI International Society of Biomechanics in Sports 2008, pp.151-154, Seoul National University (Seoul, Korea), 15 July 2008

【審査付き】Woong Choi, Sho Mukaida, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Quantitative Analysis of Iaido Proficiency by Using Motion Data', International Conference on Pattern Recognition 2008, pp.978-1-4244-2175-6, Tampa Convention Center (Florida, USA), 11 December 2008

【審査付き】Yoshiharu Fukuda, Tomoki Nakaya, Hiroyuki Nakao, Yuichiro Yahata and Hiroshi Imai (2008): Multilevel analysis of solar radiation and cancer mortality using ecological data in Japan. *BioScience Trends*, 2(6), 235-240.

【審査付き】Shun Hirose, Mitsu Yoshimura, Kozaburo Hachimura, and Ryo Akama, 'Authorship Identification of Ukiyoe by Using Rakkan Image', *Proceedings of The Eighth IAPR Workshop on Document Analysis Systems*, pp.143-150, Nara Prefectural New Public Hall (Nara, Japan), 18 September 2008

Yuzuru Isoda, 'Map of jobs and cartographic analyses on occupational labour markets', Proceedings of European Association of Labour Economists Conference 2008, University of Amsterdam (Amsterdam, Netherlands), 19 September 2008

(URL: http://www.eale.nl/Conference2008/Programme/PapersC/add72654_i7VGMiHyWn.pdf)

Hiroshi Kawakami, Yuki Mito, Reishi Watanuma and Meiko Marumo, 'Analysis of Drum player's motion', *Acoustics'08*, pp.5799-5802, Palais des congrès (Paris, France), 29 June-4 July, 2008

【審査付き】Garmaabazar Khaltarkhuu and Akira Maeda, 'Developing a Traditional Mongolian Script Digital Library', *Proceedings of the 11th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL2008)*, pp.41-50, Kartika Discovery Hotel (Bali, Indonesia), December 2008

【審査付き】Akira Maeda and Fuminori Kimura, 'An Approach to Cross-Age and Cross-Cultural Information Access for Digital Humanities', *Digital Resources for the Humanities and Arts 2008 Conference (DRHA08)*, University of Cambridge (Cambridge, U.K.), 17 September 2008

【審査付き】Kohei Matsunaga, Tomoki Nakaya and Toshihiko Sugai, 'Simple Delineation Methods for Channel Networks using DEMs for hydrogeomorphological mapping with commercial GIS software', *Transactions in GIS*, 13, pp.105-123, March 2009

【審査付き】Mamiko Sakata, Mieko Marumo, and Kozaburo Hachimura, 'An Analysis of Motion Features of Different Characters in Nihon-Buyō Dance Using Motion Capture', *Proceedings of the 17th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication*, pp.273-278, Technische Universität München (Munich, German), 1-3 August 2008

【審査付き】Serge Salat, Margaux Delayre, Keiji Yano, Tomoki Nakaya and Alice Morterol, 'International comparison of Urban Morphologies: Kyoto, Paris and Chinese cities', *3rd International Workshop on 3D Geo-Information*, University of Seoul (Seoul, Korean), 14 November 2008

【審査付き】Mayya Sharipova and Akira Maeda, 'Utilization of Web in the Russian-English Phrase Translation', *Proceedings of the World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA2008)*, pp.1687-1694, Vienna University of Technology (Vienna, Austria), 30 June-4 July 2008

【審査付き】Tomonori Shuda and Ruck Thawonmas, 'Frame Selection for Automatic Comic Generation

From Game Log', *Proceedings of IFIP 7th International Conference on Entertainment Computing (ICEC 2008)*, 5309, pp.179-184, Carnegie Mellon University (Pittsburg, USA), 25 September 2008

【審査付き】Masafumi Sonoda, Seiya Tsuruta, Mitsu Yoshimura and Kozaburo Hachimura, 'Segmentation of dancing movement by extracting features from motion capture data', *Journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan*, 37-3, pp.303-311, May 2008

【審査付き】Yutaka Takase, Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Yuzuru Isoda, Tatsunori Kawasumi, Keigo Matsuoka, Toshikazu Seto, Dai Kawahara, Akihiro Tsukamoto, Manabu Inoue and Takashi Kirimura, 'Virtual Kyoto: Visualization of Historical City with 4D-GIS, Virtual Reality and Web Technologies', *Proceedings for XXIth Congress of International Society for Photogrammetry and Remote Sensing*, pp.975-980, The Beijing International Convention Center (Beijing, China), 3-11 July 2008

【審査付き】Ruck Thawonmas and Keita Iizuka, 'Visualization of Online-Game Players based on Their Action Behaviors', *International Journal of Computer Games Technology*, 2008, Article ID 906931, 9 pages, doi:10.1155/2008/906931, June 2008

【審査付き】Ruck Thawonmas and Tomonori Shuda, 'Comic Layout for Automatic Comic Generation from Game Log', *Proceedings of 1st IFIP Entertainment Computing Symposium "New Frontiers for Entertainment Computing" (ECS-2008)*, 279/2008, pp.105-115, Milano Convention Centre (Milan, Italy), 10 September 2008

Seiya Tsuruta, Yamato Kawauchi, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Extraction of Emotional Information from Music for Virtual Dance Collaboration System', *The Fourth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2008)*, Fragrant Hill Hotel (Beijing, China), 7 November 2008

【審査付き】Wang Xiaoguang, 'A Review of Social Network-Based Knowledge Management Research', *Knowledge of Library and Information*, pp.87-92, April 2008

【審査付き】Wang Xiaoguang, 'Changing of Information market and the Strategy of Publish Industry', *Publishing Research*, pp.14-18, August 2008

【審査付き】Wang Xiaoguang, 'Study of Cross-media transformation publishing strategy', *Publishing science*, 16-4, , pp.67-71, August 2008

【審査付き】Wang Xiaoguang, Mitsuyuki Inaba, 'Analyzing Structures and Evolution of Digital Humanities Based on Co-word Analysis', *Art Research*, 9, pp.123-134, March 2009

【審査付き】Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Yuzuru Isoda, Yutaka Takase, Tatsunori Kawasumi, Keigo Matsuoka, Toshikazu Seto, Dai Kawahara, Akihiro Tsukamoto, Manabu Inoue and Takashi Kirimura, 'Virtual Kyoto: 4D-GIS comprising spatial and temporal dimensions' *地学雑誌*, 117-2, pp.464-478, April 2008

【審査付き】Xin Yin, Tetsu Eto, Ryo Akama, Kazuaki Nagai, and Hiromi T. Tanaka, 'Digital Woodcut Measurement and Ancient Hanpon Rendering', *2008 ASIAGRAPH 論文集*, 2-1, pp.31-36, Shanghai University of Engineering and Science (Shanghai, China), June 2008

【審査付き】Xin Yin, Tetsu Eto, Ryo Akama, Kazuaki Nagai, and Hiromi T. Tanaka, 'Virtual Printing and Representing Appearance of Hanpon', *情報処理学会「画像の認識・理解シンポジウム(MIRU'08)」論文集*, pp.1288-1293, Karuizawa Prince Hotel West (Karuizawa, Japan) , 31 July 2008

【審査付き】Xin Yin, Tadahiro Fujimoto, Norishige Chiba, and Hiromi T. Tanaka, 'Automatic Modeling Naural Object Based on Colony Optimization', *2008 ASIAGRAPH 論文集*, 2-1, pp.328, Shanghai University of Engineering and Science (Shanghai, China), 28 June 2008

Xin Yin, Kazuyoshi Nomura and Hiromi T. Tanaka, 'Cutaneous Tactile Rendering Based on Constructed Meso-Structure', *the Fourth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics*, Fragrant Hill Hotel (Beijing, China), CD-ROM, 7 November 2008

【審査付き】Xin Yin, Kazuyoshi Nomura and Hiromi T. Tanaka, 'Cutaneous Tactile Synthesis for Cultural Heritage Exhibition', *the 9th International Symposium on Virtual Reality, Archaeology and Intelligent Cultural Heritage*, VAST 2008, pp.63-69, Museum D. Diogo de Sousa (Braga, Portugal), 4 December 2008

【審査付き】Xin Yin, Kazuyoshi Nomura and Hiromi T. Tanaka, 'Vibration Signal Synthesis for Representing Cutaneous Tactile', *ICAT 2008 論文集*, pp.323-326, Keio University (Yokohama, Japan), 1-3 December 2008

【審査付き】Mitsu Yoshimura, Kozaburo Hachimura, Takako Kunieds, Wakasaki Yamamura and Kiyoko Yokoyama, 'Quantitative Realization of Spiral Motions observed in Principal Components of "JIUTA-MAI" Japanese Classical Dance', *Journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan*, 37-3, pp.312-320, May 2008

総説

関口博之, 八村広三郎「文化財と画像処理」画像電子学会誌, 37-6, pp.832-834, 2008年

報告書

木立雅朗「道仙化学製陶所窯跡第3次発掘調査現地説明会資料」2008年11月

近藤暁夫「広告媒体と広告活動の地域差の研究—日本における広告を媒介とした情報提示環境・情報アクセス環境の地域間格差に着目して—」吉田秀雄記念事業財団平成19年度助成研究報告書, 吉田秀雄記念事業財団, 2008年4月

和田晴吾「結語—生産遺跡としての東六甲採石場—」徳川大坂城東六甲採石場—国庫補助事業による詳細分布調査報告(概要)—, 兵庫県教育委員会, 2009年3月(刊行予定)

和田晴吾, 高正龍, 南部裕樹「まとめ」南部裕樹編『見野古墳群』姫路市教育委員会, 2009年3月

論文(報告書)

上田学「草創期映画興行の志向性—駒田好洋の地方巡業をめぐる—考察—」『文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業学術フロンティア推進事業「日欧・日亜比較演劇総合研究プロジェクト」成果報告集』, 早稲田大学演劇博物館, pp.136-144, 2008年5月

河角龍典「環境史から見た平城京—奈良時代以降の地形環境変遷と古代都市の環境利用—」奈良女子大学21世紀COEプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」報告集『古代都市の空間構造と思想—その現代的展開を目指して—』, 28, pp.96-101, 2009年3月

松本郁代「中宮御産と密教—『宝秘記』尊星王法御修法をめぐる—」名古屋大学グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第4回国際研究集会報告書『日本における宗教テキストの諸位相と統辞法』pp.81-88, 2009年2月

松本郁代「中世仏教と秘儀伝授—灌頂と神話の文化的共有」国際日本研究センター『日本の仏教学者: 21世紀の仏教学にむけて』, pp.179-195, 2009年3月

【書評】

木村一信「森本稜著『松本清張 歴史小説のたのしみ』」週刊読書人, 2009年1月30日

瀬戸寿一「岡部篤行, 今井修監修, GIS利用定着化事業事務局編『GISと市民参加』」駒澤地理, 44, pp.84-87, 2008年3月

細井浩一「岩谷徹著『パックマンのゲーム学入門』 デジタルゲーム学研究, 2-1, pp.162-163, 2008年12月
 松本郁代・書評「富島義幸著『密教空間史論』 日本歴史, 720, pp.162-163, 2008年5月

【その他執筆】

- 赤間亮「日本音楽資料デジタルアーカイブプロジェクトについて」ぱるらんど（国立音楽大学図書館）, 261, pp.10-11, 2008年11月
- 石上阿希「第四章 場所を選ばぬ色恋」別冊太陽 続春画 色模様百態, 平凡社, pp.147-175, 2008年6月
- 上田学「大川平八郎」「川喜多雄二」「河部五郎」「清川荘司」「黒川弥太郎」「結束信二」「近衛十四郎」「瑛峨三智子」「酒井米子」「佐々木康」「佐藤武」「沢島忠」「沢村国太郎」「沢村四郎五郎」「島崎雪子」「志村喬」「進藤英太郎」「関根達発」「高田浩吉」「立花貞二郎」「谷晃」「團徳麿」「千秋実」「月形龍之介」「東野英治郎」「戸上城太郎」「徳大寺伸」「中村鴈治郎」「野上龍雄」「花柳小菊」「坂東好太郎」「比佐芳武」「星由里子」「松田定次」「松村達雄」「水島道太郎」「光岡龍三郎」「峰岸徹」「森光子」「山下耕作」「山田典吾」「山本礼三郎」「吉田輝雄」「吉野二郎」「羅門光三郎」岩本憲児・高村倉太郎編『世界映画大事典』, 日本図書センター, 2008年7月
- 大西秀紀「『鎌倉三代記』のレコード—聴く文楽のすすめ—」国立劇場第163回文楽公演パンフレット（国立劇場）, 2008年5月
- 大西秀紀「延若芸話」芸能懇話（大阪芸能懇話会）, 19, p.100, 2008年8月
- 大西秀紀「初期オリエントのかわったレコード」音盤通信（日本音盤倶楽部）, 52, 2008年12月
- 木立雅朗「五条坂を歩く—考古学と戦争と伝統工芸—」立命館大学国際平和ミュージアムだより, 16-1, pp.9-10, 2008年8月
- 杉橋隆夫「地域との連携による新たな教学展開—「京都歴史回廊プログラム」—」月刊京都, 685, p.20, 2008年8月
- 瀬戸寿一「京都本と京都ブーム」月刊京都, 685, 白川書院, pp.14-17, 2008年8月
- 當山日出夫「HNGによる『長恨歌』古鈔本の字体研究」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信, 122, p.7, 2008年3月
- 富田美香「富士写真フィルム株式会社」「古海卓二」「丸根賛太郎」「三隅研次」「三村伸太郎」「宮口精二」「森一生」「森田富士郎」「八尋不二」「大和屋竺」「山中貞雄」「山田五十鈴」「田中絹代」「岡島艶子」「マルクス、グルーチョ」「セネット、マック」「付録 映画プロダクション」岩本憲児・高村倉太郎編『世界映画大事典』, 日本図書センター, 2008年7月
- 富田美香「マキノ一家の功績」京都映画祭公式カタログ, 京都映画祭実行委員会事務局, pp.6-7, 2008年10月
- 富田美香「アン・ソンギと韓国映画の50年」第3回 Ricks 韓国映画フェスティバル公式パンフレット, 立命館大学コリア研究センター, pp.6-7, 2008年10月
- 富田美香「アン・ソンギフィルモグラフィ—」第3回 Ricks 韓国映画フェスティバル公式パンフレット, 立命館大学コリア研究センター, p.9, 2008年10月
- 富田美香「ラジオ・スター」「ディープ・ブルー・ナイト」「こんにちは、神様」「白い戦争 ホワイトバッジ」「祝祭」「鯨とり」「光州5・18」第3回 Ricks 韓国映画フェスティバル公式パンフレット, 立命館大学コリア研究センター, pp.11-17, 2008年10月
- 【査読あり】** 山神達也「学界展望（2007年1～12月）—人口—」人文地理, 60-3, pp.254-255, 2008年6月

招待発表

稲葉光行「子どもを中心とした社会改善のための学習コミュニティの形成」第4回活動理論と教育実践研究会, 関西大学（吹田市）, 2009年3月7日

- 稲葉光行「テキストマイニングを用いた社会文化研究」多文化関係学会 2008 年度年次大会プレカンファレンス, 明星大学 (日野市), 2008 年 10 月 17 日
- 上村雅之「デジタル映像革命の現場検証—これから何が起ころのか, 何を起こすのか?—」第 14 回フェロー & マスターズ未来技術研究会シンポジウム, 電子情報通信学会フェロー&マスターズ未来技術時限研究専門委員会, 大阪科学技術センター (大阪市), 2008 年 6 月 3 日
- 勝村文子「日本国内におけるアートプロジェクトを通じた地域文化創造の可能性」時空芸術研究会, 東京芸術大学 (東京都足立区), 2008 年 11 月 26 日
- 川嶋將生「近世初期における公家の活動—文化史における「町買い」と「掘出し」—」2008 年度日本古文書学会大会公開講演, 敦賀市プラザ萬象 (敦賀市), 2008 年 10 月 4 日
- 木立雅朗「考古学から見た土人形の出現と展開—偶像・明器・形代・人形の歴史的展開を中心に—」関西近世遺跡研究会第 20 回大会, 羽衣国際大学 (堺市), 2008 年 12 月 13 日
- 中谷友樹「健康な街と不健康な街—社会調査のマイクロデータとジオデモグラフィクスのデータリンクージュを通して—」第 4 回保健医療 GIS 国際シンポジウム, 新潟大学 (新潟市), 2009 年 3 月 5 日
- 細井浩一「ゲーム・アミューズメントにおける人材育成」第 7 回ゲーム学会全国大会, 大阪電気通信大学 (四条畷市), 2008 年 12 月 6 日
- 細井浩一「京都の産学公地連携による 3D メタバース活用実験」3Di Education Summit 2008, 内田洋行知的生産性研究所 (東京都中央区), 2008 年 10 月 15 日
- 細井浩一「仮想空間の学術・ビジネス活用の可能性」京都 3D インターネット研究会, 京都リサーチパーク (京都市), 2008 年 4 月 24 日
- 細井浩一「仮想空間の学術・ビジネス活用の可能性」京都 3D インターネット研究会オープンシンポジウム, 京都リサーチパーク (京都市), 2008 年 12 月 6 日
- 矢野桂司「バーチャル京都の構築」第 15 回近畿あーきてくと 2008—とどけ! まちのチカラ—, 近畿建築士会協議会, 大阪市立住まい情報センター (大阪市), 2008 年 4 月 12 日
- Mitsuyuki Inaba, 'Constructing a global portal for the study of Japanese cultures through Digital Humanities', College of International Management and Business Studies, Budapest Business School (Budapest, Hungary), 27 March 2009
- Tomoki Nakaya (with Dorling, D.), 'Addressing the Wealth Gap in the UK and Japan', the sixth of the seminar series 'Economic Futures: Wealth and Well-Being in the UK and Japan', The Daiwa Anglo-Japanese Foundation and The Japan Society, Daiwa Foundation Japan House (London, UK), 19 June 2008
- Hiroshi T. Tanaka, 'The Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures -3D Object Modeling and Visualization of Cultural Heritages-', The Microsoft Research Asia e-Heritage Workshop (Beijing, China), 1-2 July 2008
- Keiji Yano, 'The City Vision: Virtual Kyoto', Constructing GIS Teaching Symposium, Soochow University 東吳大学 (Taipei, Taiwan), 20 June 2008
- Keiji Yano, 'The City Vision: Virtual Kyoto', Seminar, Yuan Ze University 元智大学 (Jhongli City, Taiwan), 20 June 2008
- Keiji Yano, 'Virtual Kyoto: 4D GIS Comprising Spatial and Temporal Dimensions', World e-Government Mayors Forum, Lotte Hotel Seoul (Seoul, Korea), 9 July 2008
- Keiji Yano, 'Issues and Prospects of Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures', 5th Beijing Forum 2008, Peking University (Beijing, China), 7-9 November 2008

口頭発表

<DH-JAC>

- 赤間亮「芸術・文化研究における画像データベースの役割」第1回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2009), 立命館大学 (京都市), 2009年2月27日
- 稲葉光行「World Wide Web とデジタル・ヒューマニティーズ: 過去と未来」第1回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2009), 立命館大学 (京都市), 2009年2月27日
- 川嶋将生「近世風俗絵画とデジタル・ヒューマニティーズ」第1回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2009), 立命館大学 (京都市), 2009年2月27日
- 八村広三郎「モーションキャプチャによる舞踊のデジタルアーカイブ」第1回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2009), 立命館大学 (京都市), 2009年2月27日
- 矢野桂司「地理情報システムとデジタル・ヒューマニティーズ: 革命か発展か」第1回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2009), 立命館大学 (京都市), 2009年2月27日
- Shin Ono, 'Research of Web Environments to Visualize Historical Events', *the 1st International Symposium Global COE Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 28 February 2009
- Atsuko Oya, 'Handling of Non-film Materials in the Makino Mamoru Collection of C.V. Starr East Asian Library at Columbia University', *the 1st International Symposium Global COE Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 28 February 2009
- Seiya Tsuruta, Yamato Kawauchi, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Extraction of Emotional Information from Music for Virtual Dance Collaboration System', *the 1st International Symposium Global COE Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 28 February 2009
- Aki Ishigami, 'Survey of Shunga and Ehon in Overseas Collections', *the 1st International Symposium Global COE Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 28 February 2009
- 赤間亮「英国 V&A 博物館とスコットランド国立博物館所蔵浮世絵のデジタルアーカイブ」アート・ドキュメンテーション学会第1回秋季研究発表会, 印刷博物館 (東京都文京区), 2008年12月6日
- 飯塚隆藤, 勝村文子, 矢野桂司, 西天平, 森川宏剛「第Ⅲ期京町家まちづくり調査の実施と GIS データベースの構築」日本地理学会 2009 年春季学術大会, 帝京大学 (八王子市), 2009年3月28日
- 石上阿希「西川祐信『絵本寝覚種』と鈴木春信『今様妻鑑』」風俗絵画研究会, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2008年12月23日
- 入江寿弘, 篠田之孝, 川上央, 渡沼玲史, 三戸勇氣, 丸茂美恵子「日本舞踊の 3D グラフィックス教材と教育支援システム」第13回日本計算工学会講演会, 仙台市民会館 (仙台市), 2008年5月19日
- 【審査付き】上田学「映画常設館の興行的系譜—浅草公園六区の事例から—」日本映像学会第34回大会, 京都精華大学 (京都市), 2008年6月8日
- 上田学「映画『紅葉狩』の受容における同時代的な二面性」「音楽・芸能史における芸術化の諸問題」プロジェクト研究会, 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター (京都市), 2008年7月19日
- 上田学「映画『紅葉狩』の二面性—受容の場をめぐって—」「虚構と擬制—総合的フィクション研究の試み—」研究会, 京都大学人文科学研究所 (京都市), 2008年11月10日
- 上田学「1900年代における映画常設館の出現と変容—電気館の改築をめぐって—」早稲田大学グローバル

- COE プログラム「演劇映像の国際的教育研究拠点」映像研究コース研究会, 早稲田大学演劇博物館 (東京都新宿区), 2008年11月29日
- 上村雅之「遊戯の歴史からみたビデオゲーム」第一回ビデオゲーム・カンファレンス<遊びとしてのビデオゲーム>シンポジウム, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2008年2月2日
- 大中健司, 西浦 敬信「頭部回折を考慮した音線追跡法に基づく3次元音場シミュレータの構築」日本音響学会 2009年春季研究発表会, pp. 831-832, 東京工業大学 (東京都目黒区), 2009年3月19日
- 大中健司, 山田樹一郎, 西浦敬信「頭部伝達特性を考慮した音線追跡法に基づく3次元音場シミュレータの構築」日本音響学会 2008年秋季研究発表会, pp.737-738, 九州大学 (福岡市), 2008年9月10日
- 【審査付き】大西秀紀「もうひとつの歌舞伎 SP レコード—歌舞伎音楽が描く「聴く歌舞伎」—」歌舞伎学会, 共立女子大学 (東京都千代田区), 2008年12月14日
- 【審査付き】大矢敦子「松之助映画の興行形態における相違—浅草と新京極を通して—」日本映像学会第34回大会, 京都精華大学 (京都市), 2008年6月7日
- 小田邦彦, 中村美奈子, 小島一成「舞踊動作の質的評価の試み」第2回身体知研究会, 予稿集 SIG-SKL-02, pp.7-10 大阪大学 (吹田市), 2008年11月17日
- (電子版) <http://www.jaist.ac.jp/ks/skl/activity/pg52.html>
- 尾鼻崇「家庭用ビデオゲームにおける「音楽」の誕生—任天堂「ファミリーコンピュータ」を中心に—」日本映像学会第34回全国大会, 京都精華大学 (京都市), 2008年6月7日
- 尾鼻崇「西洋芸術音楽から「映画音楽」へ—マックス・スタイナーをめぐる一考察—」美学会第59回全国大会 (美学, 223, p.137, 2009年), 同志社大学 (京都市), 2008年10月12日
- 檜山裕史, 手塚太郎, 木村文則, 前田亮「新たな楽曲発見のためのランキング情報を利用した楽曲推薦システムの構築」第71回情報処理学会全国大会講演論文集, 2, pp.231-232, 立命館大学 (草津市), 2009年3月12日
- 【審査付き】勝村 (松本) 文子, 矢野桂司「地域文化デジタル化による地域文化創造の課題と可能性」日本文化政策学会, 帝塚山大学 (奈良市), 2008年12月7日
- 金子貴昭「賞奇軒墨竹譜の版木」京都俳文学研究会 12月例会, 龍谷大学 (京都市), 2008年12月20日
- 川嶋將生「琵琶法師と尺八—賀茂社との関係のなかで—」世界人権問題研究センター第二研究部会, 京都市, 2009年1月21日
- 川嶋將生「日本社会における肉食のタブー視と穢れ」国際シンポジウム QUATRIÈME COLLOQUE D'ÉTUDES JAPONAISES DE L'UNIVERSITÉ DE STRASBOURG « CENSURE, AUTO-CENSURE ET TABOUS », マルクブロック大学 (ストラスブルグ市, フランス), 2009年3月22日
- 河角龍典「GISの考古学における学術研究利用の可能性」山口大学歴史学講座 GIS研究会, 山口大学 (山口市), 2008年12月14日
- 河角龍典「東アジアの古代都市環境史研究と地理情報システム」第4回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ, 立命館大学 (京都市), 2009年3月14日
- 河角龍典, 橋本隆憲, 矢野桂司, 高瀬裕「GIS/CAD/VRによる長岡京の3次元ビジュアルライゼーションとその活用」日本文化財科学会第25回大会, 鹿児島国際大学 (鹿児島市), 2008年6月15日
- 楠井清文「(外地)の読書空間と日本語文壇の形成—朝鮮での日本語文学雑誌の刊行を中心に—」立命館大学日本文学会, 立命館大学 (京都市), 2008年6月8日
- 楠井清文「(外地)日本語文壇の形成と文学雑誌—朝鮮での内野健児の活動を軸として—」植民地文化学会, 東大島文化センター (東京都江東区), 2008年7月13日
- 楠井清文「1920年代朝鮮における日本人詩人の活動—佐藤清とその周辺—」韓国日本近代学会, 立命館アジア太平洋大学 (別府市), 2008年10月25日

源城政好「職人の抽出—職人歌合と前後史料の比較検討—」財団法人世界人権問題研究センター

研究第2部前近代部会報告, (財)世界人権問題研究センター(京都市), 2008年12月17日

近藤暁夫「広告関連産業の地域的集積と広告活動の空間的特性」経済地理学会関西支部例会(経済地理学年報,

54-4, pp.**-**, 2009年3月(出版予定)), キャンパスプラザ京都(京都市), 2008年9月27日

近藤暁夫「事業所による地理的情報提供の空間的展開—屋外広告を資料に用いて—」日本地理学会2009年度

春季学術大会, 帝京大学(八王子市), 2009年3月28-29日(発表予定)

斎藤進也「テキストマイニングによる協調活動の可視化と解釈—非営利ネットワークを事例として—」経営情

報学会秋季全国大会, 東北大学(仙台市), 2008年11月8-9日

斎藤進也, 山田早紀, 稲葉光行, サトウタツヤ「KACHINA CUBE システムの概要とTEMへの応用」「TEM

ではじめる質的研究」研究会, 立命館大学(京都市), 2009年3月8日

佐古愛己, 上島理恵子「源氏物語の時代—人と文物、デジタル可視化の意義—」文部科学省グローバルCOE

プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」シンポジウム『源氏物語』の読み方—学際的視野から—, 立命館大学(京都市), 2008年10月11日

篠田之孝, 村上慎吾, 三戸勇氣, 渡沼玲史, 丸茂美恵子「モーションキャプチャを用いた日本舞踊家の身体重

心の動作解析の検討」電気学会光応用・視覚/計測合同研究会, 宮崎大学(宮崎市), 2009年2月6日

【審査付き】高橋幸恵「能の稽古における第2次口頭性手段の使用についての考察」2008年度日本演劇学会

秋の研究集会, 群馬県立女子大学(佐波郡玉村町), 2008年11月16日

田中覚「GIS データに基づく3次元都市モデルの自動生成—江戸時代の京都町並み生成への応用—」第4回

文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ, 立命館大学(京都市), 2009年3月14日

張建立「中国象棋と日本将棋のルールから見る両国文化の異同」戦略互惠関係を深めて、東アジアの和諧を

構築する—『中日平和友好条約』締結30周年記念シンポジウム—, 中国社会科学院学術ホール(北京市, 中国), 2008年9月27日

塚本章宏「洛中洛外図屏風の空間的指向—GISを用いた描かれた京都の分析—」風俗画研究会, 立命館大学ア

ート・リサーチセンター(京都市), 2008年12月22-23日

塚本章宏「GISを用いた洛中洛外図屏風に描かれた空間の分析」第4回文化遺産のデジタルドキュメンテー

ションと利活用に関するワークショップ, 立命館大学(京都市), 2009年3月14日

寺内修平, 福井勝宏, 山下洋一「スペクトルとケプストラムの特徴量を用いた決定木による楽曲の音高認識」

日本音響学会2008年秋季研究発表会講演論文集, 1-9-19, pp.893-896, 九州大学(福岡市), 2008年9月10日

當山日出夫「学生にWikipediaを教える—知の流動性と安定性—」第3回ARGカフェ(ライトニングトーク),

京都国際交流会館(京都市), 2009年2月21日

【審査付き】當山日出夫「金沢文庫本『白氏文集』巻三十一「中書制誥」の漢字字体」第99回訓点語学会, 東

京大学(東京都文京区), 2008年10月12日

花岡和聖, 中谷友樹, 矢野桂司, 磯田弦「京都市西陣地区における京町家の更新とその要因分析」日本地理学

会2008年春季学術大会, 獨協大学(草加市), 2008年3月29日

花田卓司「南北朝期の室町幕府における所領給付—守護・大将による所領給付の展開と室町幕府—」第31回

立命館史学会大会, 立命館大学(京都市), 2008年12月14日

古川耕平「旧金比羅大芝居のデジタル仮想復元とその応用」第4回文化遺産のデジタルドキュメンテーション

と利活用に関するワークショップ, 立命館大学(京都市), 2009年3月14日

細井浩一「デジタルゲーム研究の歴史と類型」第1回ビデオゲーム・カンファレンス, 立命館大学アート・リ

サーチセンター(京都市), 2009年2月2日

- 細井浩一, 浅田恵佑「コミュニティ支援環境としての仮想世界」デジタル時代のメディアと映像に関する総合的研究ファイナルプレゼンテーション, 立命館大学(京都市), 2009年3月1日
- 本多健一「中世後期における京都今宮祭の基礎的考察—特に上京氏子区域の動向に着目して—」京都民俗学会第27回年次大会, 佛教大学(京都市), 2008年12月7日
- 溝口遊, 川野弘, 西浦敬信, 山下洋一「音源方位推定と音源識別に基づくハンズフリー発話区間検出法の検討」日本音響学会2009年春季研究発表会, pp.121-122, 2009年3月17日
- 三戸勇氣, 川上央, 丸茂 美恵子「小太鼓演奏時の動作解析」日本音響学会2008年秋季研究発表会, 九州大学(福岡市), 2008年9月10日
- 村中亮夫, 中谷友樹「災害復興における歴史的景観の経済評価」日本地理学会2009年春季学術大会, 帝京大学(八王子市), 2009年3月28-30日
- 村中亮夫・花岡和聖・吉越昭久「地域の安全安心マップコンテスト」防災教育チャレンジプラン2008年度ワークショップ(最終報告会), 有明の丘基幹的広域防災拠点施設(東京都江東区), 2009年2月15日
- 村中亮夫, 中谷友樹「構造方程式モデリングによる災害発生後の歴史的景観復興に対する支払意思額の意識構造分析」第22回環境研究発表会, 日本大学会館(東京都千代田区), 2008年11月25日
- 村中亮夫, 中谷友樹「古都京都における歴史的景観保全の社会経済評価—支払意思額と仮想行動の分析—」2008年人文地理学会大会, 筑波大学(つくば市), 2008年11月8-10日
- 村中亮夫, 中谷友樹, 吉岡達生「小学生の通学経路に着目したアレルギー性鼻炎有病率の要因分析—山口県岩国市平田小学校区における事例—」第67回日本公衆衛生学会総会自由集会, 福岡ビル第1ホール(福岡市), 2008年11月5-7日
- 村中亮夫, 中谷友樹, 吉岡達生「通学経路に着目した小児アレルギー性鼻炎有病率の空間分析」2008年度地理科学学会春季学術大会, 広島大学(東広島市), 2008年6月7日
- 松本郁代「中宮御産と密教—『宝秘記』尊星王御修法をめぐって」名古屋大学グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第4回国際研究集会「日本における宗教テキストの諸位相と統辞法」, 名古屋大学(名古屋市), 2008年7月19日
- 松本郁代「聖域と結界:神泉苑における請雨経法」国際シンポジウム QUATRIÈME COLLOQUE D'ÉTUDES JAPONAISES DE L'UNIVERSITÉ DE STRASBOURG « CENSURE, AUTOCENSURE ET TABOUS », マルクブロック大学(ストラスブルグ市, フランス), 2009年3月22日
- 山田佐知, 崔雄, 西谷元司, 伊坂忠夫, 野澤むつこ「クロスハンドグリップでのゴルフスイングの効果」第21回日本トレーニング科学学会大会, 大東文化大学(東松山市), 2008年12月21日
- 和田晴吾「黄泉国と横穴式石室」古墳時代研究会, 京都こども未来館(京都市), 2008年5月10日
- 【審査付き】 Ryo Akama, 'Revolutionary Stage on Kabuki Study: Using Actor Prints', *The 12th International Conference of EAJS*, Salento University (Lecce, Italy), 20-23 September 2008
- Ryo Akama, 'Innovation Research for Japanese art and culture', *Japan Studies Association of Canada 21st*, University of Waterloo (Ontario, Canada), 3-5 October 2008
- John T. Carpenter, 'Surimono in European Collections', public lecture at Universidad Autonoma de Madrid (Madrid, Spain), 23 March 2008
- John T. Carpenter, 'Calligraphy Styles Old and New in The Genji Scroll', *an international conference celebrating the 1000th anniversary of The Tale of Genji*, the Georgio Cini Foundation (Venice, Italy), 10-11 September 2008
- John T. Carpenter, 'Imaginary Worlds of Surimono: Japanese Prints from the Marino Lusy Collection', Rietberg Museum Zurich (Zürich, Switzerland), 7 December 2008
- John T. Carpenter, 'The Marino Lusy Collection of Surimono at the Museum Rietberg Zurich', Sainsbury

Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures (Norwich, UK), 15 January 2009

Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Analysis of the Parameters to Iaido Proficiency by Using Motion Capture Data', *International Symposium on 'Human Body Motion Analysis with Motion Capture'*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 24 January 2009

Sachiko Idemitsu, 'The Perception of Images of Mount Fuji by Japanese Scholars: Ike no Taiga's Screen Painting Mount Fuji in Summer Clouds', *12th International Conference of the EAJS*, Salento University (Lecce, Italy), 22 September 2008

【審査付き】 Mitsuyuki Inaba, 'Forming a community of children's legitimate peripheral participation for social improvement: A case of collaborative video creation activities', *International Society for Cultural and Activity Research (ISCAR) 2008*, University of California (San Diego, USA), 8-13 September 2008

Manabu Inoue, Keiji Yano and Tomoki Nakaya, 'Restoration of the historical financial district in Kyoto using cadastral map 1912', *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 21 August 2008

Aki Ishigami, 'Richard Lane: His life and research into SHUNGA', *HAA lecture*, Honolulu Academy of Arts (Honolulu, United States), June 2008

Aki Ishigami, 'Erotic Editions of Chushingura The Forty-seven Loyal Perainers', *Research Seminar in East Asian Art and Archaeology Department of Art and Archaeology SOAS*, London University SOAS (London, United Kingdom), October 2008

Takashi Izuha, 'Shoyo's Nihon Buyo', *31st Annual Conference, Society of Dance History Scholars*, Skidmore College (New York, United States), 10 September 2008

【審査付き】 Ayako Katsumura, Takafusa Iizuka, Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Tatsunori Kawasumi, Yuzuru Isoda, Yutaka Takase, Keigo Matsuoka, Toshikazu Seto, Dai Kawahara, Akihiro Tsukamoto, Manabu Inoue and Takashi Kirimura, 'Reconstruction of Machiya Landscape: 4DGIS Comprising Spatial and Temporal Dimensions', *the 37th Annual International Conference on Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology (CAA)* (Williamsburg, United States), 24 March 2009

Tatsunori Kawasumi, 'Characteristics of the Siting and Environment of the Urban Areas of Heijokyo (AD710-784) in the Northern Nara', *PNC 2008 and Joint Meetings with ECAI and JVGC*, Hanoi University of Technology (Hanoi, Vietnam), 5 December 2008

Tatsunori Kawasumi and Keiji Yano, 'Construction of Virtual Nagaoka-kyo 3D map and landscape simulation', *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 21 August 2008

Takashi Kirimura, 'Social atlas of modernising Kyoto in the early 20th century', *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 22 August 2008

【審査付き】 Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto and Satoshi Tanaka, 'A Particle Modeling for Rendering Irregular Volumes', *International Conference on Computer Modeling and Simulation (UKSIM 2008)* (Cambridge, England), 13 April 2008

Ikuyo Matsumoto, 'Amaterasu as Esoteric King: Understanding the Emperor's Original Ground', 12th EAJS International Conference Special Events in Medieval Japan (Lecce, Italy), 20 July, 2008

Minako Nakamura, Kohji Shibano and Yukito Kado, 'Developing a Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet', *An International Conference: Body, Movement and Dance in Global Perspective*, Hong Kong Baptist University (Kowloon, Hong Kong),

24-26 July 2008

Tomoki Nakaya, Kazumasa Hanaoka and Akihiro Tsukamoto, 'Geomedical analysis of historical disease recordings in Kyoto, Japan in the early 20th century', *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 21 August 2008

Taiko Todokoro, Toshikazu Seto, Keiji Yano, Tomoki Nakaya and Takashi Kirimura, 'Transition of urban landscapes surrounding the Gion festival', *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 22 August 2008

富田美香「戦前日本における映画検閲 <民族>と<残酷>」国際シンポジウム QUATRIÈME COLLOQUE D'ÉTUDES JAPONAISES DE L'UNIVERSITÉ DE STRASBOURG « CENSURE, AUTO-CENSURE ET TABOUS », マルクブロック大学 (ストラスブルグ市, フランス), 2009年3月20日

Akihiro Tsukamoto, 'Unfolding the landscape drawing method of historical folding-screens "Rakuchu-Rakugai-zu" in a GIS environment' *Historical GIS Conference 2008*, University of Essex (Colchester, United Kingdom), 21-22 August 2008

Seiya Tsuruta, Yamato Kawauchi, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Extraction of Emotional Information from Music for Virtual Dance Collaboration System', *The Fourth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2008)*, Fragrant Hill Hotel (Beijing, China), 6-7 November 2008

Seiya Tsuruta, Yamato Kawauchi, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Virtual Dance Collaboration System', *International Symposium 'Human Body Motion Analysis with Motion Capture'*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 24 January 2009

Reishi Watanuma and Mieko Marumo, 'Dance analysis with motioncapture data and usage of the analysis results: Nihon University ORCNANA project's attempt', *International Symposium 'Human Body Motion Analysis with Motion Capture'*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 24 January 2009

【審査付き】Xin Yin and Hiromi T.Tanaka, 'Developing Next-generation Virtual Museum of Traditional Japanese Arts based on Multi-view Image Analysis', *the 37th annual international conference on Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology (CAA 2009)*, pp.242-243, Williamsburg Lodge Conference Center (Virginia, United States), 25 March 2009

講演

飯塚隆藤, 勝村文子, 矢野桂司「第Ⅲ期京町家まちづくり調査の調査報告 (北区・上京区)」今後の京町家の保全・再生のあり方検討会, 京都市景観・まちづくりセンター (京都市), 2009年1月30日

飯塚隆藤, 矢野桂司「第Ⅲ期京町家まちづくり調査の事前調査報告」今後の京町家の保全・再生のあり方検討会, 京都市景観・まちづくりセンター (京都市), 2008年9月16日

飯塚隆藤, 矢野桂司, 中谷友樹, 河角龍典, 高瀬裕, 磯田弦, 井上学, 塚本章宏, 松岡恵悟, 瀬戸寿一, 河原大, 桐村喬「バーチャル都市技術の駅への応用—バーチャル京都を事例として—」ICカードを核とした次世代の駅の在り方調査委員会, (社)日本鉄道車両機械技術協会 (東京都港区), 2008年8月22日

川嶋將生「応仁の乱と京都」京都検定講習会, 京都商工会議所 (京都市), 2008年7月19日

川嶋將生「歴史のなかの人権—中世から近世へ—」2008年度人権大学講座 (世界人権問題研究センター), キャンパスプラザ京都 (京都市), 2008年11月19日

木村一信「さまざまな『金閣寺』—三島由紀夫と水上勉—」日本近代文学フォーラム, 韓国外国語大学校 (ソウル市, 韓国), 2008年8月8日

- 木村一信「戦争と美術—画家たちの戦争協力—」土曜美術茶論, 堂本印象美術館 (京都市), 2008年11月15日
- 木村一信「川端康成「古都」を読む」シンガポール国立大学, 2008年8月19日
- 木村一信「「南方徴用作家」について—阿部知二を中心に—」インドネシア・日本合同学術シンポジウム, 2008年11月1日
- 源城政好「自立する中世の村」「近江八幡の歴史」刊行記念講演, 近江八幡文化会館 (近江八幡市), 2008年5月10日
- 杉橋隆夫「賀茂社・金閣寺の不思議」八幡市リカレント教育推進講座, 八幡市立生涯学習センター (京都府八幡市), 2008年7月5日
- 高瀬裕「文化遺産のレーザー計測とビジュアライゼーション」地理空間情報フォーラム 2008, パシフィコ横浜 (横浜市), 2008年6月19日
- 高瀬裕「文化遺産のレーザー計測とビジュアル化」東北芸術工科大学三次元レーザー計測セミナー, 東北芸術工科大学東京サテライトキャンパス (東京都渋谷区), 2008年6月24日
- 高瀬裕「文化遺産のレーザー計測と利活用」SPAR 2008J 第4回既存設備のデータ取得フォーラム, 川崎市産業振興会館 (川崎市), 2008年4月18日
- 高瀬裕「レーザー計測によるアーカイブとビジュアライゼーション」日本リモートセンシング研究会 2008年度総会, 東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区), 2008年5月21日
- 張建立「中日美学比較概論」(4月19日)「中日庭園美学の比較」(5月24日)「中日色彩観の比較」(6月14日)「茶事の美学について」(7月5日) 天津市商科大学裏千家短期大学 (天津市, 中国) 2008年4月19日-7月5日
- 松岡恵悟「近代化遺産とは」別府八湯語り部の会 (別府八湯ウォークのガイド養成講座), 別府市中央公民館 (別府市), 2008年6月19日
- 宮脇昇, 稲葉光行, 斎藤進也「捕虜が歩いたマツヤマ」ミュージアム講座, 坂の上の雲ミュージアム (松山市), 2008年12月27日
- 和田晴吾「京・嵯峨野の古墳群」京都市考古資料館文化財講座第200回記念講座, 京都アスニー (京都市), 2008年6月28日
- 和田晴吾「和泉の古墳」和泉黄金塚古墳史跡指定・日本考古学協会設立60周年記念シンポジウム『和泉黄金塚古墳を考える』, 和泉市立人権文化センター (和泉市), 2008年7月6日
- 和田晴吾「継体・欽明大王の時代」帝塚山大学考古学研究所公開講座, 大阪府立文化情報センター (大阪市), 2008年9月6日
- 和田晴吾「古墳時代の他界観」和歌山県文化財センター公開シンポジウム『岩陰と古墳—海辺に葬られた人々』基調講演, 和歌山県立情報交流センター (田辺市), 2008年10月4日
- 和田晴吾「古墳とは何か」向日市埋蔵文化財センター設立20周年記念講演会『古墳発掘—20年の成果—』, 向日市文化資料館 (向日市), 2008年11月9日
- 和田晴吾「古墳の他界観」和歌山県立紀伊風土記の丘平成20年度特別展『岩橋千塚』特別講演会, 和歌山県立紀伊風土記の丘資料館 (和歌山市), 2009年1月24日
- 和田晴吾「中期古墳の秩序と倭国の社会」大阪府立近つ飛鳥博物館平成20年度陶器特別展『百舌鳥・古市大古墳展—巨大古墳の時代—』講演会, 大阪府立近つ飛鳥博物館 (大阪府河南町), 2009年2月8日
- 和田晴吾「前期古墳の研究動向」東北・関東前方後円墳研究会第14会研究大会『前期古墳の諸段階と大型古墳の出現』基調講演, 埼玉県歴史と民俗の博物館 (さいたま市), 2009年2月14日
- Kozaburo Hachimura, 'Digital Archiving of Intangible Cultural Properties: Storage, Analysis, and Use of Body Motion Data', Department of Electrical and Computer Engineering, University of British

Columbia (Vancouver, Canada), 29 April 2008

Kozaburo Hachimura, 'Digital Archiving of Intangible Cultural Properties: Storage, Analysis, and Use of Body Motion Data', School of Interactive Arts and Technology, Simon Fraser University (Surrey, Canada), 11 June 2008

Kozaburo Hachimura, 'Digital Archiving of Intangible Cultural Properties: Storage, Analysis, and Use of Body Motion Data', School of Computing Science, Simon Fraser University (Burnaby, Canada), 7 August 2008

Shinya Maezaki, 'New Horizons of Ceramic Sculpture: the Work by Fukami Sueharu', Opening Lecture of the Special Exhibition of works by Fukami Sueharu, The Clark Center for Japanese Art and Culture (Hanford, United States), 8 April 2008

その他

【シンポジウム開催，オーガナイズ，企画，講演・イベント実行委員長】

上村雅之，尾鼻崇「第一回ビデオゲーム・カンファレンス〈遊びとしてのビデオゲーム〉」立命館大学グローバル COE デジタル・ヒューマニティーズ拠点上村研究室「遊びとしてのビデオゲーム研究プロジェクト」主催，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年2月2日

金子貴昭，赤間亮他・企画構成，解説「近世版木展」立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年2月16日-3月6日

木村一信，楠井清文「海外における日本文学の〈時空間〉—比較文化研究とデジタル・ヒューマニティーズ—」文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）主催，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年3月14日

楠井清文・企画「デジタル化以前に考えなければならないこと—人文科学は何に基づいて研究するのか—」第34回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市）2008年11月4日

杉橋隆夫・企画司会「『源氏物語』の読み方—学際的視野から—」立命館大学（京都市），2008年10月11日

高瀬裕・実行委員長「第3回 文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ」動体計測研究会・主催，東京大学生産技術研究所（東京都目黒区），2008年9月12日

高瀬裕・実行委員長「第4回 文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ」立命館大学，動体計測研究会・主催，立命館大学（京都市），2009年3月14-15日

當山日出夫「第1回ワークショップ：文字—（新）常用漢字を問う—」花園大学（京都市），2008年7月19日

當山日出夫「第2回ワークショップ：文字—字体の規範—」国立国語研究所（立川市），2009年2月7日

大矢敦子・企画，司会，Cagno Ota Maiko・報告「“バーバラ・カーティス・足立文楽コレクション”のアーカイブ手法と今後の展開—コロンビア大学東アジア図書館でのアーカイブ事例—」GCOE セミナー番外編 Vol.8, 立命館大学アート・リサーチセンター（京都市，Power Live 中継），2008年12月4日

花田卓司「『源氏物語』の読み方—学際的視野から—」立命館大学（京都市），2008年10月11日

松本郁代，出光佐千子・司会「風俗絵画研究会」立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2008年12月22-23日

和田晴吾・司会「石宝殿を科学する」日本文化財探査学会，兵庫県立考古博物館（兵庫県播磨町），2008年6月21日

Kozaburo Hachimura, International Symposium 'Human Body Analysis with Motion Capture', Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 24 January 2009

花岡和聖・村中亮夫・吉越昭久・企画「第2回夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテスト」立命館大学歴史都市防災研究センター（京都市），2008年7-12月

【座長，コメンテーター，パネリスト】

- 浅田恵佑「Kyoto 3Di Lab の活動を振り返って 成果報告座談会」京都府 3D インターネットビジネス研究会，
京都リサーチパーク（京都市），2009 年 1 月 28 日
- 出光佐千子，タイモン・スクリーチ氏講演に対するコメント，「江戸学とビジュアルカルチャー—異文化・美術・歴史—」第二回非文字研究センター公開研究会，神奈川大学非文字資料センター（横浜市），2008 年 11 月 26 日
- 中村美奈子「舞踊の教育システム—身体の言語化—記号化—デジタル化—」ORCNANA 研究発表会，日本大学（東京都練馬区），2009 年 1 月 30 日
- 富田美香「京都・映画 100 年宣言特別記念シンポジウム」京都映画祭，京都造形芸術大学（京都市），2008 年 10 月 2 日
- Shinya Maezaki, 'Ending Remarks', Journée d'étude (workshop organized by CEEJA and Université Marc Bloch), Musée D'Unterlinden (Colmar, France), 20 November 2008

【講座】

- 赤間亮「近代芸能と京都—井上八千代、松竹など—」立命館京都文化講座，立命館東京キャンパス（東京都千代田区），2008 年 6 月 28 日
- 赤間亮・構成解説，レクチャーコンサート「歌舞伎の下座音楽はおもしろい」，京和文華の会，京都府民ホール・アルティ（京都市），2008 年 8 月 19 日
- 大西秀紀「明治・大正期の録音-再生技術」平成 20 年度第 2 回学術公開講座 一都市における西洋音楽の受容—松江市昭和 2 年秋の例を中心に—，京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター（京都市），2008 年 12 月 4 日
- 川嶋將生「中世近江の芸能環境」近江歴史回廊大学講座（近江歴史回廊推進協議会），滋賀県立県民交流センター（大津市），2008 年 10 月 18 日
- 川嶋將生「応仁・文明の乱—美意識の転換—」第 2 回立命館大阪プロムナードセミナー立命館京都文化講座『京の乱』，立命館大学（大阪市），2008 年 12 月 8 日
- 河内将芳，源城政好「古文書に親しむ」NHK 文化センター京都教室（京都市），2008 年 4 月～2009 年 3 月，全 24 回
- 河角龍典「発掘から明らかになった 3 次元デジタル古代都市—バーチャル長岡京・平安京—」立命館京都文化講座，立命館東京キャンパス（東京都千代田区），2008 年 11 月 4 日
- 木立雅朗「清水焼の考古学—仁清・乾山から陶器製手榴弾まで—」立命館京都文化講座，立命館東京キャンパス（東京都千代田区），2008 年 12 月 16 日
- 木村一信「近代小説と京都—さまざまな金閣寺—」立命館京都文化講座，立命館東京キャンパス（東京都千代田区），2008 年 4 月 26 日
- 佐古愛己「平安貴族の雅と武」立命館京都文化講座，立命館大学（東京都千代田区），2008 年 4 月 8 日
- 佐古愛己『源氏物語』と平安京—六条院を中心に— 京都歴史回廊協議会「京都探究—ゆかりシリーズ—」，立命館大学（京都市），2008 年 9 月
- 佐古愛己「藤原定家と平安貴族社会」京都歴史回廊協議会「京都探究—ゆかりシリーズ—」，立命館大学（京都市），2008 年 9 月
- 佐古愛己「菓子の変から保元・平治の乱—「平安」でなかった平安京—」第 2 回立命館大阪プロムナードセミナー立命館京都文化講座『京の乱』，立命館大学（大阪市），2008 年 11 月
- 杉橋隆夫「京都の朝廷と関東の府」立命館京都文化講座，立命館東京キャンパス（東京都千代田区），2008 年 5 月 13 日

- 杉橋隆夫「承久の乱—全能の帝王後鳥羽の挫折—」第2回立命館大阪プロムナードセミナー立命館京都文化講座『京の乱』, 立命館大阪オフィス (大阪市), 2008年11月17日
- 瀬戸寿一「京洛の庭園と歴史都市の風景—古(いにしえ)の都の過去・現在・未来—」立命館京都文化講座, 立命館東京キャンパス (東京都千代田区), 2008年11月22日
- 富田美香「映像にみる「京の乱」—映画、投影装置—」けやきの森市民大学, 高槻市立生涯学習センター (高槻市), 2008年6月16日
- 富田美香「近代映画と京都—太奏映画村の形成—」立命館京都文化講座, 立命館東京キャンパス (東京都千代田区), 2008年7月12日
- 富田美香「都市イメージの形成と映画文化—1930年代の小唄映画と鉄道観光—」立命館大学大阪オフィス講座, 立命館大学 (大阪市), 2009年3月4日
- 和田晴吾「京都の古墳と渡来人」立命館京都文化講座, 立命館東京キャンパス (東京都千代田区), 2008年10月7日

【その他発表】

- 大矢敦子「Digital Archiving of the Japanese Movie Programs」(El Colegio de México 学生訪問時) 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年6月19日
- 大矢敦子「Screening Environment for Film Programs in Kyoto」, C.V. Starr East Asian Library at Columbia University (International Training Program), 2008年12月5日

【発表要旨】

- 山神達也, 矢野桂司「Geodemographics からみる日本における教育の地域間格差—高校の所在地と高校生の居住地のデータをもとに—」人口学研究, 42, p.82, 2008年5月

【展覧会, 展示, 一般公開】

- 大西秀紀・音声資料提供「弥作の鎌腹」(オリエント 2036-2038, 3枚6面), 阪急学園池田文庫第75回展示「片岡愛之助の代々」, 2008年4月
- 金子貴昭・企画, 構成「近世版木展」立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009年2月16日-3月6日
- 川嶋将生, 源城政好, 松本郁代「極め札展」立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2008年12月1-12日
- 木立雅朗, 道仙化学製陶所窯跡第3次発掘調査現地説明会 (京都市), 2008年11月1日
- 倉橋正恵「惣役者三十六歌仙勢」「役者評判記の世界展 付流光斎如圭役者絵」展, 尼信博物館 (尼崎市), 2009年1月6日-2月15日
- 倉橋正恵「新富座久松座役者評判記姿競」「役者評判記の世界展 付流光斎如圭役者絵」展, 尼信博物館 (尼崎市), 2009年1月6日-2月15日
- 富田美香「マキノ映画の軌跡—都村健コレクションより—」京都映画祭, 祇園会館 (京都市), 2008年10月8-13日
- 細井浩一・監修「加賀お国染めコレクション・バーチャル展示」石川新情報書府 (石川県), 2008年4月-2009年3月
- <http://slurl.com/secondlife/Kyoto%20Di%20Lab2/186/137/32>
- 矢野桂司, 中谷友樹, 河原大「バーチャル京都3Dマップ」第7回産学官連携推進会議, 国立京都国際会館 (京都市), 2008年6月14-15日
- Xin Yin, Kazuyoshi Nomura, Ryo Akama and Hiromi T. Tanaka, 'Touching Ancient Cultural Heritage Object', 2008

ASIAGRAPH 論文集, 2-1, p.335, Shanghai University of Engineering and Science (Shanghai, China), June 2008

【図録】

井上学「生活スタイルに合わせた公共交通便利マップ」ESRI MapBook Vol.23

上田学「映画草創期の興行と観客—シネマテックをめぐる—」『ニッポンの映像—写し絵・活動写真・弁士—』早稲田大学演劇博物館, pp.56 - 58, 2008年7月

小林孔, 赤間亮他「時代鑑 俳人短冊譜—近世の裾野—」立命館大学グローバル COE, p.100, 2009年3月

【監修】

小林孔, 松本節子, 竹内千代子, 赤間亮「時代鑑 俳人短冊展近世版木展」立命館大学アート・リサーチセンター（京都市）, 2009年3月

【映像監修・制作】

河角龍典・制作「バーチャル長岡京 3D マップ」NHK 総合『その時歴史が動いた 第346回 平安京誕生一千年の都に秘められた苦闘—』日本放送協会, 2008年12月17日

細井浩一・監修, セカンドライフ SIM 「Kyoto 3Di Lab」, 2008年4月-12月

<http://slurl.com/secondlife/Kyoto%203Di%20Lab/>

細井浩一・監修, セカンドライフ SIM 「3D Community Lab」, 2008年9月-2009年2月

<http://slurl.com/secondlife/3D%20Community%20Lab/>

細井浩一・監修, セカンドライフ SIM 「rits-gcoe-jdh」, 2009年1月

<http://slurl.com/secondlife/rits-gcoe-jdh/>

【Web アーカイブシステム・e-Learning システムの開発, 公開】

稲葉光行・開発「松山市における日露戦争捕虜収容所アーカイブ」（公開準備中）

稲葉光行・開発「京都洛西地域映画文化アーカイブ」（公開準備中）

稲葉光行・開発「八幡市子ども会議・地域学習用 e-Learning システム」（公開準備中）

稲葉光行・開発「日本文化デジタル・ヒューマニティーズのための e-Learning システム」（公開準備中）

大矢敦子, 上田学「映画プログラムデータベース」2008年5月試験公開

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/db6/eiga-program/heiwap/hyoshi01.htm>

金子貴昭・開発, 公開, 版木閲覧システム (2008年度中予定)

桐村喬「京都市近代化遺産モニタリングシステム」（試験運用中）

<http://www.rgis.lt.ritsumei.ac.jp/contents/virtuallykyoto/kmams/>

Garmaabazar Khaltarkhuu, 前田亮「伝統的モンゴル文字文書のデジタル図書館 (Historical Records of Mongols)」2008年8月28日正式公開

<http://www.dl.is.ritsumei.ac.jp/tmsdl/>

【受賞】

井上学「Jack's Pick 賞」受賞（共同）, マップギャラリー出展ポスター「生活スタイルに合わせた公共交通便利マップ」ESRI 主催「第4回 GIS コミュニティフォーラム 2008」東京国際フォーラム（東京都千代田区）, 2009年1月17-18日

遠藤保子・代表, 崔雄・協力, 「映像 (DVD) 特別審査員賞」受賞, 第5回開発教育/国際理解教育コンクール「世界」をひろげるはじめての一步「素材」部分, 2008年12月

河角龍典, 橋本隆憲, 矢野桂司, 高瀬裕「第2回日本文化財科学会ポスター賞」受賞, 「GIS/CAD/VR による

長岡京の3次元ビジュアライゼーションとその活用」日本文化財科学会第25回大会, 鹿児島国際大学(鹿児島市), 2008年6月15日

鳥羽 拓志「第71回情報処理学会全国大会学生奨励賞」受賞(鳥羽 拓志, 木村 文則, 手塚 太郎, 前田 亮「メタデータ自動マッピングを用いた人文系データベース横断検索システムの構築」), 第71回情報処理学会全国大会, 立命館大学(草津市), 2009年3月12日

矢野桂司「2008年度シンフォニカ統計GIS活動奨励賞」受賞, (財)統計情報研究開発センター(<http://www.sinfonica.or.jp/assist/index.html>)

矢野桂司「2008年度近畿建築士会協議会地域実践活動賞」受賞

【新聞報道】

八村広三郎「大学発フロントランナー『幽玄の美デジタルで解析』産経新聞(関西版), 2008年11月18日

矢野桂司「新町通の電柱、看板撤去すれば『鉾の道』すっきり:立命大教授 バーチャル地図で」京都新聞, 2008年9月5日

【インタビュー記事】

尹新「日本動漫産業のインスピレーション」中国経営報, 2008年7月7日

松葉涼子「+R研究最前線」学園広報誌 UNITAS PLUS(ユニタースプラス)2008年5月号

【テレビ局の取材】

河原典史「京都 丸竹夷にない小路」NHK BShi, 2008年11月18日放送

富田美香「ETV特集 マキノ三代〜カツドウ屋の100年」NHK, 2008年7月20日放送

富田美香「京のいっぴん物語」KBS テレビ・京都チャンネル, 2008年10月6日(月)放送

山神達也「京都・舞鶴 女子高生殺害 犯人像を追う」TBS テレビ「報道特集NEXT」, 2008年6月7日放送

矢野桂司「大学が変わる。現場へ—知識基盤社会をリードせよ—」「BS Japan」, 2008年10月31日放送

矢野桂司「京のキャンパス情報 ~立命館大学・衣笠キャンパス~」関西テレビ・京都チャンネル「京都ちゃちゃちゃっ」, 2009年2月4日放送

【GCOE セミナー】

赤間亮「GloPAC・大英博物館など」第16回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2008年4月15日

古川耕平「歌舞伎劇場のデジタル復原」第16回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2008年4月15日

金子貴昭, 源城政好「藤井永観文庫の紹介とデジタル・アーカイブの報告」第17回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2008年4月22日

上田学, 大矢敦子「大正期京都の映画興行研究—映画プログラムデータベースの活用と展望—」第18回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2008年5月13日

岡本隆明「古文書・典籍を対象とした文字管理システムの紹介と今後の計画」第19回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年5月20日

稲葉光行, 斎藤進也「地域の知を集める—協調的ナラティブの蓄積による日本文化アーカイブの構築」第19回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年5月20日

花田卓司「京都における南北朝期の合戦」第20回GCOEセミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年5月27日

- 楠井清文「外地日本語文学雑誌データベースについて」第 20 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 5 月 27 日
- 崔雄「モーショキャプチャと生体情報の同時計測による舞踊動作の定量化」第 22 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 6 月 10 日
- 王晓光「Social Network Analysis and Its Application on Digital Humanities -Informal Communication Analysis in Scholarly Blogging Communities」第 22 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 6 月 10 日
- 尹新「板木の仮想印刷と表現」第 23 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 6 月 17 日
- 鄭銀珍「乾山焼研究と資料のデータベース化」第 24 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 6 月 24 日
- 木立雅朗「友禅染と西陣織の図案」第 24 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 6 月 24 日
- 上村雅之, 尾鼻崇「遊戯としてのビデオゲームの研究」第 25 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 1 日
- 近藤暁夫「資本主義経済導入期の京都における地代と土地利用—GIS を用いた土地利用 1 筆水準でのチューレンモデルの再検討—」第 26 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 8 日
- 戸所泰子, 矢野桂司, 瀬戸寿一, 桐村喬「京都の祇園祭をめぐる新町通の景観復原」第 26 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 8 日
- 本多健一「近世の民俗行事・芸能からみた地域間の結合関係—京都六斎念仏の歴史地理学的研究—」第 27 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 15 日
- 桐村喬「地図情報のカタログサイトの開発—実装機能の検討—」第 27 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 15 日
- 塚本章宏「大正期京都における「遊客」の属性とその空間的特性—『遊客人名帳』を用いた宮川町の事例分析—」第 28 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 22 日
- 石上阿希「ホノルル美術館レインコレクションの調査及び公開」第 28 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 7 月 22 日
- 玉田浩之「近代化遺産をとおしてみる京都」GCOE セミナー番外編, 立命館大学歴史都市防災研究センター・カンファレンスホール (京都市), 2008 年 9 月 2 日
- 當山日出夫「現代日本の人文情報学とデジタルアーカイブについて」第 30 回 GCOE セミナー, 立命館大学 (京都市), 2008 年 10 月 7 日
- 稲葉光行「デジタル・ヒューマニティーズ研究のトレンド〜Digital Humanities 2008 参加報告」第 30 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 10 月 7 日
- 前田亮「イギリスにおけるデジタル・ヒューマニティーズの研究動向—ロンドン大学キングスカレッジ訪問および DRHA08 参加報告—」第 31 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 10 月 14 日
- 八村広三郎「北米におけるデジタルヒューマニティーズの現状」第 31 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 10 月 14 日
- 大野晋「時系列情報の組み合わせに関する研究」第 32 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008 年 10 月 21 日
- 勝村文子「日本国内におけるアートプロジェクトを通じた地域文化創造の可能性」第 32 回 GCOE セミナー, 立

立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年10月21日

- 鶴田清也「バーチャルダンスコラボレーションシステムのための音楽からの感性情報抽出に関する基礎研究」第33回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年10月28日
- 尹新「皮膚触覚提示可能な文化財展示システムの開発」第33回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年10月28日
- 周萍「中国における日本文化研究事情」第35回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月11日
- 岡本隆明「古文書・典籍を対象とする文字管理システムを使用した訓点の整理について」第35回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月11日
- 桐村喬「地図情報のカタログサイトの開発—空間検索・分析機能の実装—」第36回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月18日
- 花田卓司「南北朝期の京都合戦—軍事関係文書と軍記物語から—」第36回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月18日
- 本多健一「中世後期の京都今宮祭に関する基礎的考察」第37回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月25日
- 金子貴昭「版木資料のデジタル・アーカイブについて」第37回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年11月25日
- 石上阿希「在外艷本の調査—大英博物館及びボストン美術館—」第38回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月2日
- 崔雄「モーションキャプチャを用いた居合道の熟練度に関する定量化」第38回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月2日
- 齊藤ちせ「日本文化・芸術研究における学術ポータルサイトの現状分析—Web で提供されている研究ツールとして—」第39回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月9日
- 楠井清文「植民地期「朝鮮」文学雑誌データベースの構築と課題」第39回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月9日
- John T. Carpenter, 'The Art of Calligraphy in Medieval Japan', Art Research Center, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 16 December 2008
- 上田学「常設館出現期の京都における映画興行の様相」第41回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月23日
- 斎藤進也「地層モデリングによるナラティブ情報の可視化と解釈」第41回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2008年12月23日
- 大矢敦子「コロンビア大学東亜図書館牧野守コレクションの概要」第42回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009年1月13日
- 尾鼻崇「ビデオゲーム研究のための「プレイ情報記録システム」」第42回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009年1月13日
- 浅田恵佑「ヴァーチャル・ワールドにおける『身体性』と『空間性』による『没入性』」第43回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2009年1月20日
- 前崎信也「在外日本陶磁器コレクションの現状とその可能性」第43回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2009年1月20日

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or 報告)	実績数	公開 非公開 x
アートリサーチセンター	4/8	18:00-19:30	第15回GCOEセミナー	『絵本のディアスポラ 海を渡った江戸絵本、1830-2008』	エリス・ティオス(英・リーズ大学名誉教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	31	
アートリサーチセンター	4/21-25	10:00-18:00	グローバルCOE(日本文化DH)研究会	アーカイブ情報の可視化の共同研究	理工学研究科 Ruck Thawonmas 台湾 Academia Sinica Chun-Yang Chen	BKC Ruck研	10	40	x
アートリサーチセンター	4/15	18:00-19:30	第16回GCOEセミナー	『海外におけるデジタル・ヒューマニティーズの動向』 『歌舞伎劇場のデジタル復元』	赤間 亮(立命館大学文学部・教授) 古川 耕平(立命館大学映像学部・専任講師)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	38	
アートリサーチセンター	4/22	18:00-19:30	第17回GCOEセミナー	『藤井永観文庫の紹介とデジタル・アーカイブの報告』	源城 政好(特別研究員)+金子 貴昭(RA1/立命館大学大学院文学研究科D2)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	31	
アートリサーチセンター	4/22	10:40-11:40	番外編 ランチャタイム・セミナー	How to get published by playing games?	Dr.Chun-Yang Chen (Institute of Information Science, Academia sinica, Taiwan; assistant research fellow)	BKC CC1F 教授会議室1 衣笠 ARC 多目的ルーム (遠隔地講義システム)	20	40	
アートリサーチセンター	4/26	10:30-14:30	学内向けGIS講習会	学内ならどこでも使えるArcGIS9.2の初級講習会	矢野 桂司(立命館大学文学部・教授)	清心館2階526情報教室	30	35	
アートリサーチセンター	5/13	18:00-19:30	第18回GCOEセミナー	『大正期京都の映画興行研究 - 映画プロダクションデータベースの活用と展望 -』	上田 学(RA/京都文化研究班/立命館大学大学院文学研究科D4) 大矢 敦子(RA/京都文化研究班/立命館大学大学院文学研究科D1)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	32	
アートリサーチセンター	5/20	18:00-19:30	第19回GCOEセミナー	1.『古文書・典籍を対象とした文字管理システムの紹介と今後の計画』 2.『地域を知を集める - 協調的ナラティブの蓄積による日本文化アーカイブの構築』	1.稲葉 光行(事業推進担当者/ Web活用技術研究班/立命館大学大学院政策科学研究科・教授) 高藤 進也(ポストドクトラルフェロー/ Web活用技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	29	
アートリサーチセンター	5/23	9:00-17:15	CH78 第78回人文科学とコンピュータ研究会発表会	1.『文化現象研究におけるOOGIS理論の有用性-考古学における古墳時代研究での実践的検討-』 2.『茶の湯のコミュニティ - 天王寺屋宗達他会記』に見る交友の時系列分析 - 3.『落款を利用した浮世絵の作者同定の試み』 4.『三徳王朝における王の崩年モデル』 5.『モーションキャプチャを用いた舞踊における運動の質の評価の試み - ウィグル舞踊の基本歩行動作と旋回動作を事例として -』 6.『浮世絵デジタルアーカイブの現在』 7.『古典史料データベース検索システムの提案』 8.『GISを用いた歴博甲本洛中洛外図屏風に描かれる空間の定量的分析』 9.『地域を知を集める - 協調的ナラティブの蓄積による日本文化アーカイブの構築』 10.『HNGで見る字体数の変遷』 11.『古事類苑・地部データへの経緯度情報付与と地図化』 12.『古文書・典籍を対象とした文字管理システムとその可能性』	1.藤本 悠(同志社大学) 2.山田哲也(同志社大学)、矢野 環(同志社大学) 3.広瀬 駿(立命館大学)、吉村 ミツ(立命館大学)、八村 広三郎(立命館大学)、赤間 亮(立命館大学) 4.小沢一雅(大阪電気通信大学) 5.中村美奈子(お茶の水女子大学)、小田邦彦(大阪電気通信大学)、ミニサ・マンスル(お茶の水女子大学) 6.赤間 亮(立命館大学)、金子 貴昭(立命館大学) 7.木村 文則(立命館大学)、小牟礼 雅之(ユニバーサルコンピューター)、前田 亮(立命館大学)、佐古 愛己(立命館大学)、杉橋 隆夫(立命館大学) 8.塚本章宏(立命館大学) 9.高藤進也(立命館大学)、稲葉光行(立命館大学) 10.岡増裕剛(北海道大学)、石塚晴通(北海道大学)、齋木正直(北海道大学) 11.山田英治(日本文研)、尾方隆幸(日本文研) 12.岡本隆明(大谷大学)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	70	65	
アートリサーチセンター	5/27	18:00-19:30	第20回GCOEセミナー	1.『京都における南北朝期の合戦』 2.『外地日本語文学雑誌データベースについて』	1.花田 卓司(RA/京都文化研究班/立命館大学大学院文学研究科D3) 2.楠井 清文(ポストドクトラルフェロー/日本文化研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	39	
アートリサーチセンター	6/3	18:00-19:30	第21回 GCOEセミナー	"Using GIS to understand space and time in the Digital Humanities"	Dr Ian Gregory (Digital Humanities, Faculty of Arts and Social Sciences, Lancaster University) "GISを使って、時空間を理解する - デジタル・ヒューマニティーズの場合 -"	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	41	
アートリサーチセンター	6/10	18:00-19:30	第22回 GCOEセミナー	1.『モーションキャプチャと生体情報の同時計測による舞踊動作の定量化』 2.『Social Network Analysis and Its Application on Digital Humanities - Informal Communication Analysis in Scholarly Blogging Communities』 『デジタル・ヒューマニティーズにおける社会ネットワーク分析とその応用 - 学術ブログ・コミュニティにおけるインフォーマルなコミュニケーションの分析』	1.崔 雄 (PD / デジタルアーカイブ技術研究班) 2.王 暁光 (PD / Web活用技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	34	
アートリサーチセンター	6/16	10:40-12:10	2008年度 春期連続講演会 第1回	『表現される身体/見られる身体 - 同時代の舞踊(コンテンポラリー・ダンス)の味わい方』	上念 省三 氏(舞踊評論家)	末川記念会館 講義室	60	83	
アートリサーチセンター	6/17	18:00-19:30	第23回 GCOEセミナー	『板木の仮想印刷と表現』	伊 新 (PD / デジタルアーカイブ技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	36	
アートリサーチセンター	6/18	14:40-16:10	2008年度 春期連続講演会 第2回	『メカニックデザイナーという仕事』	大河原 邦男 氏(メカニックデザイナー)	以学館3号	50	112	
アートリサーチセンター	6/24	11:00-12:00	番外編 ランチャタイム・セミナー	"Digital Depth: The Role of the Humanities in the Digital Revolution." 『デジタルの深層: デジタル革命における人文科学の役割』	Dr Ken Coates (Professor of History and Dean, Faculty of Arts, University of Waterloo, Waterloo, Canada)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	16	
アートリサーチセンター	6/24	18:00-19:30	第24回 GCOEセミナー	1.『乾山焼研究と資料のデータベース化』 2.『友禅染と西陣織の図案』	1.鄭 銀珍 (RA / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D1) 2.木立 雅朗 (事業推進担当者 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	35	
アートリサーチセンター	6/27	16:20-17:50	2008年度 春期連続講演会 第3回	『最近の春画研究 日本と外国』	アンドリュー・ガーストル(ロンドン大学SOAS教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	40	35	
アートリサーチセンター	7/1	18:00-19:30	第25回 GCOEセミナー	『遊戯としてのビデオゲームの研究』	上村 雅之(事業推進担当者 / Web活用技術研究班 / 立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授) 尾鼻 崇 (PD / Web活用技術研究班 / 立命館大学衣笠総合研究機構)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	33	
アートリサーチセンター	7/4	16:20-17:50	2008年度 春期連続講演会 第4回	『二十世紀後半における和歌の英訳』	ジョシュア・モストウ(ブリティッシュ・コロンビア大学教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	28	
アートリサーチセンター	7/8	18:00-19:30	第26回 GCOEセミナー	1.『資本主義経済導入期の京都における地代と土地利用 - GISを用いた土地利用1筆水準でのチューネンモデルの再検討 -』 2.『未定』	1.近藤 暁夫 (RA / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D3) 2.戸所 泰子 (RA / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D4)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	26	
アートリサーチセンター	7/15	18:00-19:30	第27回 GCOEセミナー	1.『近世の民俗行事・芸能からみた地域間の結合関係 - 京都六斎念仏の歴史地理学的研究 -』 2.『地図情報のカタログサイトの開発 - 実装機能の検討 -』	1.本多 健一 (RA / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D1) 2.桐村 喬 (RA / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D2)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	35	

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or 報告)	実績数	公開 非公開 x
アートリサーチセンター	7/22	18:00-19:30	第28回 GCOEセミナー	1.「大正期京都における「遊客」の属性とその空間的特性 - 「遊客人名帳」を用いた宮川町の事例分析 -」 2.「未定」	1.塚本 章宏 (RA / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D4) 2.石上 阿希 (PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	40	
アートリサーチセンター	7/24	11:30-12:30	ランチタイムセミナー	GIS Applications/Development in Humanities and Social Science, Malaysia(tentative)	Rsulan Rainis (客員教授 招聘A)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	15	
アートリサーチセンター	7/29	16:50-17:50	第29回 GCOEセミナー 第1部	"How do we study Japanese religion?"	Dr Lucia Dolce ルチア・ドルチェ (ロンドン大学SOAS 准教授 / 日本宗教研究所長)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	42	
アートリサーチセンター	7/29	18:00-19:30	第29回 GCOEセミナー 第2部	1.「能の稽古における第二次口頭性手段の有効性と課題」 2.「未定」 3.「GISを用いた古代史研究の試み」	1.高橋 幸恵 (学外履修生) 2.吉田 真澄 (立命館大学大学院文学研究科M) 3.中尾 美貴子 (立命館大学大学院文学研究科M1)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	42	
アートリサーチセンター	9/2	13:00-14:30	番外編 GCOEセミナー	近代化遺産をとらえてみる京都	玉田 浩之(本拠点客員研究員 / 京都工芸繊維大学大学院ベンチャーラボラトリー研究員 / 「歴史地理情報研究班」)	歴史都市防災センター カンファレンスルーム	30	35	
アートリサーチセンター	10/11	13:00-17:00	「源氏物語」の読み方 -学際的視野から-	源氏物語研究の新展開 - データベース化の意義 - 源氏物語の隠れた読み巧者 - 北村湖春の人と仕事 - 源氏物語の国際的背景 - 「大和魂」の成立 源氏物語の時代 - 人と文物、デジタル可視化の意義 -	今西祐一郎(九州大学教授) 中西健治(立命館大学教授) 井上満郎(京都産業大学教授・京都市歴史資料館館長) 佐古愛己(立命館大学准教授 / 上島理恵子(立命館大学グローバルCOE共同研究者)	敬学館地下大教室210号	150	156	
アートリサーチセンター	10/7	18:00-19:30	第30回 GCOEセミナー	1.「現代日本の人文情報学とデジタルアーカイブについて」 2.「デジタル・ヒューマニティーズ研究のトレンド - Digital Humanities 2008参加報告」	1.富山 日出夫 (客員研究員 / デジタルアーカイブ技術研究班) 2.福業 光行 (事業推進担当者 / Web活用技術研究班 / 立命館大学大学院政策科学研究科 教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	36	
アートリサーチセンター	10/14	18:00-19:30	第31回 GCOEセミナー	1.「イギリスにおけるデジタル・ヒューマニティーズの研究動向 - ロンドン大学キングスカレッジ訪問およびDRHA08参加報告」 2.「北米におけるデジタルヒューマニティーズの現状」	1.前田 亮 (事業推進担当者 / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科 准教授) 2.八村 広三郎 (事業推進担当者 / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科 教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	34	
アートリサーチセンター	10/21	18:00-19:30	第32回 GCOEセミナー	1.「時系列情報の組み合わせに関する研究」 2.「日本国内におけるアートプロジェクトを通じた地域文化創造の可能性」	1.大野 晋 (RA1 / Web活用技術研究班 / 立命館大学大学院政策科学研究科・D1) 2.勝村 文子 (PD / 歴史地理情報研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	40	
アートリサーチセンター	10/28	18:00-19:30	第33回 GCOEセミナー	1.「バーチャルダンスコラボレーションシステムのための音楽からの感性情報抽出に関する基礎研究」 2.「皮膚触覚提示可能な文化財展示システムの開発」	1.鶴田 清也 (RA2 / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科・D3) 2.伊 新 (PD / デジタルアーカイブ技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	33	
アートリサーチセンター	10/31	18:00-19:30	番外編 GCOEセミナー	「米田歴代大統領の就任演説にみる言語変異 - 多変量文体分析モデルによるテキストマイニング」	田畑 智司 (大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻 准教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	26	
アートリサーチセンター	11/4	18:00-19:30	第34回 GCOEセミナー	「デジタル化以前に考えなければならぬこと - 人文科学は何に基いて研究するのか」	明星 聖子(埼玉大学)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	42	
アートリサーチセンター	11/11	18:00-19:30	第35回 GCOEセミナー	「中国における日本文化研究事情」古文書・典籍を対象とする文字管理システムを使用した訓点の整理について	周 萍 (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1)岡本 隆明 (PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	31	
アートリサーチセンター	11/18	18:00-19:30	第36回 GCOEセミナー	「地図情報のカタログサイトの開発 - 空間検索・分析機能の実装 -」南北朝期の京都合戦 - 軍事関係文書と軍記物語から -」	桐村 喬 (RA3 / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2)花田 卓司 (RA2 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D3)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	40	
アートリサーチセンター	11/25	18:00-19:30	第37回 GCOEセミナー	「中世後期の京都今宮祭に関する基礎的考察」版木資料のデジタル・アーカイブについて	本多 健一 (RA2 / 歴史地理情報研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1)金子 貴昭 (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	37	
アートリサーチセンター	11/27	18:00-19:30	番外編 GCOEセミナー	Japan at the Victoria & Albert Museum: acquiring and recording the collections	グレゴリ・アーヴィン (ヴィクトリア&アルバート美術館)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	8	
アートリサーチセンター	12/2	18:00-19:30	第38回 GCOEセミナー	「在外館本の調査 - 大英博物館及びボストン美術館 -」モーションキャプチャを用いた居合道の熟練度に関する定量化」	石上 阿希 (PD / 日本文化研究班) 崔 雄 (PD / デジタルアーカイブ技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	34	
アートリサーチセンター	12/4	21:00-22:00	番外編 GCOEセミナー	「「バーバラ・カーティス・足立文楽コレクション」のアーカイブ手法と今後の展開 - コロンビア大学東アジア図書館でのアーカイブ事例 -」	カグノ 太田 麻衣子(コロンビア大学東アジア図書館・アーキビスト)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	15	
アートリサーチセンター	12/9	18:00-19:30	第39回 GCOEセミナー	1.「日本文化・芸術研究における学術ポータルサイトの現状分析 - Webで提供されている研究ツールとして -」 2.「植民地期「朝鮮」文学雑誌データベースの構築と課題」	1.齋藤 ちせ (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1) 2.楠井 清文 (PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	39	
アートリサーチセンター	12/13	13:00-15:30	ARC秋期連続講演会第3回	「能の囃子 小鼓と謡の世界」	赤間 亮(文学研究科 教授) 味方 玄(観世流シテ方)、吉阪 一郎(大倉流小鼓方)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	52	
アートリサーチセンター	12/16	18:00-19:30	第40回 GCOEセミナー	「美術としてのカリグラフィ - 中世 -」Calligraphy as an art, Medieval	John Carpenter (事業推進担当者 / 日本文化研究班 / 立命館大学衣笠総合研究機構 教授、ロンドン大学SOAS 准教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	39	
アートリサーチセンター	12/18	18:00-19:30	番外編 GCOEセミナー	シリーズ・DHの可能性を考える「夢中の天 - デジタル環境下における国文学(研究手法)の孤独」	高木 元 (千葉大学文学部)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	20	
アートリサーチセンター	12/20	13:00-18:00	「近視覚文化を読み解く」第一回研究会	近視覚文化を読み解く	張小鋼(金城学院大学教授)、ジョシュア・モストウ(UBC教授)	アートリサーチセンター 第二会議室	6	6	x
アートリサーチセンター	12/22.23	13:00-17:30	「洛中洛外園屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷」研究会	洛中洛外園屏風の総合的アーカイブと都市風俗の変遷	廣海伸彦(出光美術館学芸員)、出光佐千子(出光美術館学芸員)、奥田敦子(財団法人墨田区文化振興財団)	アートリサーチセンター 第二会議室	5	15	x
アートリサーチセンター	12/23	18:00-19:30	第41回 GCOEセミナー	1.「常設館出現期の京都における映画興行の様相」 2.「地層モデリングによるナラティブ情報の可視化と解釈」	1.上田 学 (RA2 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D4) 2.斎藤 進也 (PD / Web活用技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	38	
アートリサーチセンター	1/13	18:00-19:30	第42回 GCOEセミナー	1.「コロンビア大学東亜図書館牧野コレクションの概要」 2.「ビデオゲーム研究のための「プレイ情報記録システム」」	1.大矢 敦子 (RA1 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 2.尾鼻 崇 (PD / Web活用技術研究班)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	38	
アートリサーチセンター	1/20	18:00-19:30	第43回 GCOEセミナー	1.「Virtual Worldsの持つ特徴と現在」 2.「在外日本陶磁器コレクションの現状とその可能性」	1.浅田 恵佑 (RA2 / Web活用技術研究班 / 立命館大学大学院政策科学研究科・D1) 2.前崎 信也 (RA2 / 日本文化研究班 / ロンドン大学SOAS 人文学部美術史学科・D3)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	37	

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or 報告)	実績数	公開 非公開 x
アートリサーチセンター	1/24	9:30-18:00	シンポジウム「モーションキャプチャ技術と身体動作処理」	1.Virtual Dance Collaboration System 2.ジャズ演奏者の身体動作が音楽の表現性に与える影響 3.Creating Digital Ventriloquized Actors (DIVAs) 4.DIVA performance "What Does a Body Know?" (1st movement) 5.The Latest Technology and Trends in Motion Capture Systems 6.多人数会話の記録・分析・コンテンツ化 7.パレエとコンテンツボラードダンスを対象とした自動振り付けシステム 8.日本大学ORCNANAプロジェクトのモーションキャプチャデータを用いた舞踊解析とその利用 9.モーションキャプチャを使った劇団の試み 10.骨格構造人体モデルを用いた舞踊動作の解析 11.モーションキャプチャデータを用いた居合道の熟練度に関する特徴量抽出	1.鶴田 清也(立命館大学) 2.阪田真己子(同志社大学) 3.シドニー・フェルズ、ロバート・プリチャード(UBC) 4.Marguerite Witvoet (Univ. of British Columbia) 5.John O.B. Greaves (Motion Analysis Corp.) 6.角 康之(京都大学) 7.曾我 麻佐子(龍谷大学) 8.渡辺玲史、丸茂美恵子ほか(日本大学) 9.海賀 孝明(わらび屋、秋田大学)、玉本英夫(秋田大学) 10.三浦 武ほか(秋田大学) 11.崔 雄(立命館大学)	創思館カンファレンス ルーム	50	83	
アートリサーチセンター	2/2	13:00-17:00	第1回ビデオゲームカンファレンス ('遊び'としてのビデオゲーム)	第一部「シンポジウム ビデオゲームをいかに学問するか」 第二部 「ワークショップ ビデオゲームを学問してみる」	第一部 バネリスト 上村雅之(立命館大学大学院教授/任天堂アド バイザー/元・任天堂第二開発部長) サイトウアキヒロ(立命館大学映像学部教授/株 式会社グライス取締役) 小浜誠一(関西国際大学人間科学部教授) 中島誠一(早稲田大学・東京工芸大学非常勤講 師/元・ニッポン放送) 司会 細井浩一(立命館大学映像学部教授) 第二部 「ワークショップ ビデオゲームを学問してみる」 コーディネーター 吉田寛(立命館大学大学院准 教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	50	39	
アートリサーチセンター	2/27,28	2/27 9:40-16:40 2/28 9:00-17:20	第1回日本文化デジタル・ヒューマニ ティーズ国際シンポジウム(DH- JAC2009) The 1st International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures	[2/27] 「デジタル・ヒューマニティーズとは何 か? - 現在と未来 -」 [第1部]講演 [第2部]招待講演 [第3部]ディスカッション [2/28] 「若手研究者海外派遣(ITP)成果報告 会」 「イメーシブDBと博物館ネットワークのイ ノベーション - 日本文化芸術研究の グローバル化とネットワーク化 -」 [第1部]招待講演 [第2部]ディスカッション	[2/27] ・矢野 桂司(文学研究科教授) ・川崎 将生(文学研究科教授) ・赤間 亮(文学研究科教授) ・八村 広三郎(理工学研究科教授) ・稲葉 光行(政策科学研究科教授) ・ニール・フライスタット(アメリカ、メリーランド大 学教授) ・イロー・ハイホネン(フィンランド、ヘルシンキ工 科大学教授) ・イアン・グレゴリー(イギリス、ランカスター大学 上級講師) ・リチャード・ピーチャム(イギリス、ロンドン大学 キングス・カレッジ教授) [2/28] ・大槻 知史(衣笠総合研究機構PD) ・水田 哲生(立命館グローバル・イノベーション研 究機構PD) ・大野 晋(政策科学研究科D1/拠点RA1) ・次久 敦子(文学研究科D2/拠点RA1) ・鶴田 清也(理工学研究科D3/拠点RA2) ・石上 阿希(衣笠総合研究機構PD) ・ヨーゼフ・クライナー(法政大学特任教授/法政 大学国際日本学研究所兼任所員/ドイツ、ボン大 学名誉教授) ・セーラ・トンプソン(ボストン美術館日本版画室 長)+エイブラハム・シュレダー(ボストン美術 館日本版画室リサーチ・アシスタント) ・ロジナ・バックランド(大英博物館アジア部日 本課リサーチアシスタント)	以学館2号ホール	200	168	
アートリサーチセンター	3/1	10:00-17:00	オープン・リサーチセンター整備事業 「デジタル時代のメディアと映像に関 する総合的研究ファイルプレゼン テーション」	「文化・芸術研究分野におけるデジ タルコンテンツ制作とその応用事例」	細井浩一(映像学部 教授) ・大島登志一(映像学部 教授) ・浅田恵佑(大学院政策科学研究科 D1) ・Manus Brinkman (Independent Consultant) ・細井浩一(アートリサーチセンター副センター 長、映像学部教授) ・加茂竜一(凸版印刷株式会社文化事業推進本 部 部長) ・岩館祐一(NHK放送技術研究所<人間・情報>三 次元映像処理研究グループリーダー) ・池内充史(東京大学大学院情報学環 教授) ・高野明彦(国立情報学研究所 連想情報学研究 開発センター長・教授、東京大学大学院情報工 学系研究科 教授<併任>) ・八村広三郎(アートリサーチセンター副センター 長、情報理工学部教授) ・田中弘美(情報理工学部 教授) ・遠藤保子(産業社会学部 教授) ・赤間亮(アートリサーチセンター副センター長、 文学部教授)	充光館2階インタラク ティブラボ・C G ラボ	30	30	
アートリサーチセンター	3/4	16:20-17:50	「近世版木展」講演会	「板木は語る(続)」	永井一彰(奈良大学文学部・教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	25	
アートリサーチセンター	3/14	13:00-17:00	シンポジウム「海外における日本文 学の時空間」	海外における日本文学の時空間(クロ ノトポス) 比較文化研究とデジタル・ ヒューマニティーズ	[バネリスト] 真鍋 正宏(同志社大学) 西原 大輔(広島大学) 須藤 直人(立命館大学) [司会、コメンテーター] 木村 一信(立命館大学)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	17	
アートリサーチセンター	3/25	13:00-17:00	GCOE活動報告シンポジウム	文部科学省グローバルCOEプログラム 「日本文化デジタル・ヒューマニティ ーズ拠点」(立命館大学)2008年度活動 報告会	研究プロジェクト報告・討議 川崎将生(文学研究科)、八村広三郎(理工学研 究科)、赤間亮(文学研究科)、矢野桂司(文学研 究科)、稲葉光行(政策科学研究科)、高瀬裕(特 別招聘教員)、吉村ミツ(特別招聘教員)、関口博 之(特別招聘教員)等、各プロジェクト担当者	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	36	x
アートリサーチセンター	3/28	13:00-14:30	時代鑑 俳人短冊展	「短冊の見方と味わい方」	小林 孔(大阪城南女子短期大学 教授)	アートリサーチセンター 多目的ルーム	30	17	

研究所・センター 08年度研究活動総括と09年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008年度研究活動実績	以下の各項目の2008年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>地域情報研究センターは、学外研究機関や自治体等との協力関係に基づいて研究活動を行うリエゾン型の研究センターであり、地域社会の抱える様々な問題に対する解決策を模索する地域インキュベーション研究センターでもある。したがって、本センターでは自由な研究課題を各学内の研究者が独自に行いつつも、関連する研究課題や分野では各研究者が柔軟に連携しながら研究を推進してきた。</p> <p>2008年度については、自治体との受託・共同研究が2件、民間財団からの助成に基づく研究プロジェクトが1件、JST（科学技術振興機構）による研究助成が2件、計5件の研究プロジェクトが実施された。個々のプロジェクト自体は実に多様であるが、いずれの研究活動も人と地域との関わりのあり方を模索し、より良い地域社会の実現に寄与することを目的としている点において、本研究センターの運営理念に即したものとなっている。概ね個々の研究プロジェクトから得られた成果については、インターネットや著作物として情報発信が行われており、極めて順調な研究の遂行とその成果の社会還元が達成されているものと考えられる。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>本年度の各研究プロジェクトについては、京都府を中心として自治体との連携や協働体制の下に進められており、本学の研究センターや研究所の中でも最も活発な社会的連携の構築が図られている。また、龍谷大学や京都学園大学との研究連携のように研究プロジェクトが展開されており、今後のさらなる研究プロジェクトの量的・質的な向上が期待される。また、国際的な研究ネットワークの一環として実施された研究プロジェクト、さらには、本センターの実施する研究の一環として、気候変動に対する先進の研究実績もあり、学術的・国際的交流の飛躍的な進展があった。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>本センターは、バーチャルな研究ネットワークとしての柔軟性を生かして多様な研究プロジェクトを推進してきた。個々の研究プロジェクト自体は、地域をキーワードに様々な機関や自治体と連携を図っている一方で、センターの研究プロジェクト間での相互連携は必ずしも十分とは言えず、次年度以降では、プロジェクト間での相互連携も視野に入れることで、研究のさらなる質的向上が見込まれるものと考えられる。</p>
	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府八幡市 政策科学部教授 村山 皓 先生 ・科学技術振興機構 文学部教授 吉田 甫 先生 ・科学技術振興機構 産業社会学部教授 山下 芳樹 先生 ・ベルテルスマン財団 産業社会学部教授 松田 亮三 先生 ・乙訓・八幡広域連携事業推進協議会 政策科学部教授 勝村 誠 先生 (代表) <li style="padding-left: 150px;">政策科学部准教授 稲葉 光行 先生 <li style="padding-left: 150px;">政策科学部准教授 森 隆知 先生 <p>*研究成果の刊行状況については別紙を参照</p>

項 目	内 容
2009年度研究計画	以下の各項目の2007年度の活動実績を踏まえながら2008年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2008年度で委託研究・共同研究契約が満了となる研究プロジェクトについても、継続的な研究実施と情報公開を予定している。</p> <p>また昨年度に引き続き地域開発における地域情報の意味を鑑み、京都における研究ネットワークの強化とともに、国内の研究ネットワークの形成として、亀岡のカーボンマイナスに関連して研究連携が始まりました龍谷大学との協定の強化と推進、京都学園大との連携強化、京都大学農学研究科との連携推進を進める。</p> <p>そして国際研究連携を2009年度では、現在提携を進めている国際協力連携のタイ王国のタマサート大学研究センターとの研究協定締結、タイ王国のカセサート大学との研究協定締結を行い、これにともなった研究者交流を実施してゆくことが研究センターの大きな役割であるものと考え、この準備を行う。</p>
	<p>① 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国際一村一品学会、地球環境変動における人間社会経済次元の国際共同研究実施のためのJapan Biocha Association (International Biocha Initiative 日本支部)事務局、亀岡カーボンマイナス協議会事務局といった拠点形成を引き続き進めるとともに、研究プロジェクトに関連して研究者の派遣や受け入れを積極的に進めていく予定である。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>本年度以降、各研究プロジェクト間の相互連携を図り、センターを受け入れ基盤とした国際共同研究や大型の競争的資金の獲得に向けた体制作りを進め、積極的な若手研究者の受け入れ等も考慮したい。また、センターホームページの拡充等も進め、研究成果の社会的還元を進めていく予定である。</p>
	<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>1) 旭硝子財団「地球環境変動に対応する地域炭素削減のためのカーボン・マイナス・プロジェクト研究」＜継続型研究助成＞</p> <p>2) 農林水産省平成21年度農業生産地球温暖化総合対策事業（土壌炭素の貯留に関するモデル事業）「立命館大学地域情報研究センター保津カーボンマイナス協議会・土壌炭素貯留モデル推進事業」平成21年度～平成23年度</p>

研究所・センター 08 年度研究活動総括と 09 年度研究計画について
様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2008 年度研究活動実績	以下の各項目の 2008 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>① 研究所の研究の到達状況</p> <p>下記の国際シンポジウム、セミナーを学内外の学会等の協力も得て開催し、引き続き東北アジア地域の直面する重要課題について分析、国際産学公連携によるその解決のための方策等を明らかにした。2008 年度に集中的に分析した研究テーマは、東北アジアの経済社会の新たな発展を支える IT ならびに環境分野を中心とした理系高度人材育成、四川大震災等で明らかになった防災技術発展とそのための人材育成、中国の医療保障制度改革などである。</p> <p>国際シンポジウム・政策フォーラム「東北アジア地域協力の新たな課題と国際産学公連携による高度人材育成」(2008 年 6 月 6～7 日、立命館大学、主催：立命館大学東北アジア地域研究センター、立命館サステイナビリティ学研究中心、北東アジア研究交流ネットワーク、北東アジア・アカデミックフォーラム、後援：関西経済連合会、日本経済新聞社他、170 名)。/「東北アジア都市防災技術発展と人材育成国際シンポジウム」(2008 年 11 月 26 日、大連市、主催：大連市発展研究センター、立命館歴史都市防災研究センター、大連市地震局、立命館大学東北アジア地域研究センター、後援：大連市人民政府、協力：大連慈善総会他、100 名) / セミナー「中国の医療保障と医療財政」(2009 年 2 月 12 日、立命館大学、主催：経済学会、東北アジア地域研究センター、35 名)</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>上記の国際シンポジウム等の開催を通じて、大連市、舞鶴市、経済産業省近畿経済産業局、関経連、企業との国際交流、社会連携が拡大強化し、東北アジア研究交流ネットワーク等に加わっている東北大学、岩手大学、ERINA など国内大学、研究機関との学術交流が発展した。加えて、中国の国家プロジェクトである中国東北振興政策を担う中国遼寧省各都市の発展計画部局代表団の日本研修（地域革新ならびに内発的発展）に協力し、学術交流を行った（2008 年 10 月 31 日～11 月 6 日、12 名）</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>シンポジウム、フォーラム、セミナー等の開催に当たり、メールや打合せ会等を通じて、研究メンバー間で協議、研究を組織するとともに、研究課題の設定と研究計画について協議しながら研究を進めた。</p>
	<p>④ 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>国際シンポジウムおよびフォーラム等の開催に当たって、共催団体である、北東アジアアカデミックフォーラム（事務局・京都府）、北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE-Net）、大連市、大連慈善総会などが経費を分担した。</p> <p>2008 年 3 月に中国・東北財経大学とセンターが共催したシンポジウムをもとに、『立命館国際地域研究』第 28 号（2008 年 12 月）に特集「東北アジアにおける多角的『互惠』関係構築の研究」が生まれ、東北財経大学 3 名、立命館大学 3 名が論文を発表した。なお伊丹市中央公民館主催「中国理解講座」（2008 年 5 月～7 月、6 回）にセンターのメンバー 5 名が講師として協力し、研究成果を地域社会に還元した。</p>

項 目	内 容
2009 年度研究計画	以下の各項目の 2008 年度の活動実績を踏まえながら 2009 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>① 2009 年度の研究計画について</p> <p>これまでの研究成果の上にとって、中国東北部中朝口国境地域を共通の研究対象として設定し、同地域の社会経済変動を明らかにするとともに、今後の東北アジア地域協力の発展の可能性を検討する。具体的には、以下の諸点の解明を目指す。①研究対象地域を中心とした東北アジア地域経済協力の発展過程と現状。②中国東北振興戦略展開下の地域経済社会の変動（新たな合作社形成など農業・農村の変化、国内外への出稼ぎ問題、朝鮮族社会の変化。③産業構造の変化ならびに企業改革（工業企業の現状、国有企業改革、ハイテク産業の発展可能性など）。④財政面から見た経済社会の変動（地域発展を支える地方財政の役割と課題など）。⑤以上の社会経済変動を踏まえた、東北アジアビジネスネットワークの展開、中朝・中韓経済関係の現状と発展に向けての課題、中朝経済関係（重要な要素である外国人労働力政策を含めて）分析する。</p> <p>以上の地域を絞った社会、経済変動の多面的構造的分析に加えて、より広い地域や角度から東北アジア地域の経済協力の現状と課題、国際産学公連携による地域発展の発展可能性について考察する。</p>
	<p>② 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>下記の研究交流、協力等を通じて国際産学公連携をさらに強化する。北東アジア地域自治体連合国際経済フォーラム「世界経済危機克服のための北東アジア地域間協力」（2009. 5. 20. 韓国・慶州市）、第二回東北アジア地域協力国際フォーラム（2009. 6. 14-15. 中国・哈爾濱市）、Asia Economic Forum（2009. 11. 11-13. 韓国・仁川市）等への参加。大連市人民政府発展研究センターの日本での研修への協力と学術交流（2009 年秋）。延辺大学（東北アジア研究院、日本研究所など）、東北財経大学、吉林大学、遼寧社会科学院、北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE-Net）、北東アジアアカデミックフォーラムなど国内外の大学・研究機関との交流の継続。</p>
	<p>③ 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>定例研究会(隔月を基本)を開催するとともに、適時、国際フォーラム参加報告や提携大学・研究機関訪問報告など情報を随時交換し、組織的に研究を展開する。</p>
<p>④ 学外研究費の申請予定等について</p> <p>計画に沿った研究活動を基礎に、単独あるいは、北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE-Net）を通じて、ントリー財団、トヨタ財団、中島平和研究財団など学外の関連研究助成に申請予定である。また、平成 22 年度科学研究費補助金に申請する。</p>	